

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

高1記述
手引き



2013年1月実施

英 語	1
数 学	22
国 語	71

河合塾

【英 語】

『学習の手引き』を読むにあたって

この『学習の手引き』には、問題の解説は言うまでもなく、その問題のねらい、さらには今後の学習に役立つ指針が書かれています。この『学習の手引き』をじっくり読むことで、十分な復習をして、入試対策に万全を期してください。

1. 解説について

【本文解説】 長文総合問題での英文本体の文ごとの解説です。1), 2), 3), ... は文番号を示しています。

【設問別解説】 問題を解くために必要な知識と解き方の解説です。

各設問の冒頭にある☆☆☆のマークはその設問の難易度を示しています。現時点での自分の学力を確かめて、今後の学習の指針にしてください。

☆☆☆ 基本

★★☆ 標準

★★★ 発展

File この枠内では問題を解く上で前提となる基本的知識や発展的情報をまとめてあります。

2. 『学習の手引き』で用いた略号

S	主語（原則として名詞）
V	動詞
O (O ₁ /O ₂)	目的語（原則として名詞）
C	補語（原則として名詞・形容詞・分詞）
A / B	成句的表現中の任意要素
one's	人称代名詞の所有格
oneself	再帰代名詞
to do	to 不定詞
do	原形動詞・原形不定詞
doing	現在分詞もしくは動名詞
done	過去分詞
does	現在形
did	過去形
have done	完了形
that 節	接続詞 that によって導かれる節
wh-節	when / where / why / how / whether などに導かれる節
[]	言い換えることができる語句
()	省略することができる語句

1 リスニング

【解答】

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. (B) | 2. (A) | 3. (D) |
| 4. (A) | 5. (B) | |

【配点】(20点)

各4点×5

【放送された英文と訳】

1) The public bicycle system in Paris, known as the Vélib, has become a model for other cities around the world that are looking to reduce traffic and carbon emissions and to take back their cities from automobiles. 2) Health problems relating to pollution as well as a lack of exercise and the realization that global warming may actually be a concern have helped to jump-start the interest.

3) The Vélib offers 10,000 bicycles to customers throughout Paris. 4) There are small rental stations sprinkled throughout the city. 5) Bikes can be rented and returned at any of the stations. 6) Annual memberships cost \$38, with bicycle use free for up to one half-hour. 7) Fees for longer periods are modest but increasing, promoting short trips and speedy returns. 8) The effect of this program is that, since people are cycling more in general, they're buying and using more private bikes. 9) Cycling culture in general is on the rise.

10) The Vélib bicycles were sponsored by an advertising agency. 11) In exchange for purchasing and maintaining the bicycles for 10 years, the agency gets advertising space throughout the city.

12) When the Parisian mayor initially proposed the Vélib, and announced that car lanes would be replaced with bike lanes, he met with significant resistance from car users. 13) Those voices have largely died down in the few months since the program's July launch. 14) Traffic, noise, and pollution have all decreased in the city. 15) Even average commute time has been reduced for the cyclists as well as the car drivers. 16) An additional 16,500 bicycles are scheduled to be purchased by year's end.

1) ヴェリブとして知られているパリの公共自転車制度は、交通量と炭素の排出量を減らして自動車から都市を取り戻したいと考えている世界中の他の都市のモデルとなった。2) 運動不足だけでなく公害に関連する健康問題と、地球温暖化は実は重大な問題なのではないかという認識がこの制度への関心を後押しする一助となった。

3) ヴェリブはパリ中の顧客に10,000台の自転車を提供する。4) 小さなレンタル・ステーションが街全体に散在している。5) 自転車はどのステーションで借りてもどのステーションへ返してもよい。6) 年会費は38ドルで、30分までは無料で自転車を利用できる。7) それ以上の時間の利用料はわずかな額だが上がっていくので、短距離利用と迅速な返却を促している。8) このプログラムの結果、一般的に人々は今まで以上に自転車に乗るようになっているので、個人所有の自転車がより多く購入・利用されている。9) 広い意味で自転車文化は浸透しつつある。

10) ヴェリブの自転車に資金を出したのはある広告代理店である。11) この代理店は自転車を購入し、10年間維持管理する見返りとして、市内全域に広告スペースをもらう。

12) パリ市長が最初にヴェリブを提案して自動車レーンを自転車レーンに置き換えると発表したとき、自動車利用者たちのかなりの抵抗にあった。13) こうした声はこのプログラムを開始した7月から数ヶ月で大体治まった。14) 都市の交通量、騒音、公害はすべて減少している。15) 自動車利用者のみならず自転車利用者の平均通勤時間でさえ減少した。16) 年末までにさらに16,500台の自転車が購入される予定である。

【語句解説】

- look to do 「…するつもりである」
- reduce O 「Oを減らす」
- carbon emission 「炭素排出(量)」
- take back O 「Oを取り戻す」
- relate to A 「Aに関連する」
- pollution 「公害、汚染」
- as well as A 「Aだけでなく」
- realization that ... 「…という認識」
- global warming 「地球温暖化」
- concern 「重大なこと」
- jump-start O 「Oを後押しする、Oを活性化する」
- sprinkle O 「Oを散在させる」
- rent O 「Oを賃借りする」

- annual 「年の」
- up to A 「Aまで」
- fee 「料金」
- modest 「わずかな、若干の」
- promote O 「Oを促進する」
- in general 「一般に」
- on the rise 「上昇して」
- sponsor O 「Oを後援する」
- advertising agency 「広告代理店」
- in exchange for A 「Aと交換に」
- purchase O 「Oを購入する」
- maintain O 「Oを維持管理する」
- Parisian 「パリの、パリっ子」
- mayor 「市長」
- initially 「最初に」
- propose O 「Oを提案する」
- announce that ... 「…と発表する」
- replace A with B 「AをBと置き換える」
- significant 「かなりの」
- resistance 「抵抗」
- die down 「次第に弱まる、治まる」
- launch 「開始」
- commute time 「通勤時間」
- additional 「追加の」
- be scheduled to do 「…する予定である」

【設問別解説】

1. ★★☆☆

Which of the following statements accurately describes the public bike system in Paris?

次の説明のうち、パリの公共自転車制度を正確に表しているものはどれか。

- (A) 街中に10,000カ所のバイク・ステーションがある。
- (B) あるレンタル・ステーションで借り、別のステーションで乗り捨てることができる。
- (C) 会費は月38ドルである。
- (D) ヴェリブの自転車は特に短距離利用のために設計されている。

第5文に「自転車はどのステーションで借りてもどのステーションへ返してもよい」とあることから、(B)が正解である。

(D)は、第7文に promoting short trips とあるように、「短距離利用を促している」のであって「短距離利用のために設計されている」わけではない。

2. ★☆☆

How long can you use a bicycle for free if you are a member?

メンバーになると自転車を無料で借りられる時間はどれくらいか。

- (A) 30分まで。
- (B) 60分まで。
- (C) 90分まで。
- (D) 150分まで。

第6文に「30分までは無料で自転車を利用できる」とあることから、(A)が正解。up to one half-hour を正確に聞き取れたかどうかポイント。

3. ★★☆☆

Who paid the costs of the bicycles for the system?

この制度の自転車の費用を出したのは誰か。

- (A) パリ市民。
- (B) ある裕福なパリっ子。
- (C) フランス政府。
- (D) ある私企業。

第10文に「ヴェリブの自転車に資金を出したのはある広告代理店である」とあることから、(D)が正解である。agency が company と同義であることに気づくのがポイント。

4. ★★☆☆

What is the sponsor required to do in return for advertising?

スポンサーが広告を出す代わりに求められることは何か。

- (A) 自転車をよく整備しておくこと。
- (B) パリの通りを清掃すること。
- (C) 10年間レンタル料金を据え置くこと。
- (D) 中古自転車を利用すること。

第11文に「この代理店は自転車を購入し、10年間維持管理する見返りとして、市内全域に広告スペースをもらう」とあることから、(A)が正解である。maintaining the bicycles を聞き取れたかどうかポイント。

5. ★★☆☆

How many bicycles will there be altogether by the end of the year?

年末までに自転車は全部で何台になるか。

- (A) 16,500台。
- (B) 26,500台。
- (C) 60,500台。

(D) 65,000台。

第16文に「年末までにさらに16,500台の自転車が購入される予定である」とあるので、現時点の自転車台数にこの16,500台を足せばよい。現時点の台数については第3文に「ヴェリブはパリ中の顧客に10,000台の自転車を提供する」とあることから、この10,000台に16,500台を足した26,500台がトータルの台数となる。したがって、(B)が正解である。

2 会話

【解答】

- (A) (イ) (B) (ウ) (C) (ク)
(D) (ア) (E) (オ)

【配点】(20点)

各4点×5

【本文と全訳】

Emily: Rick, remember the older couple that I rent my apartment from?

Rick: Yes?

Emily: Well, the woman has been coming up to see how I'm doing. At first I was really grateful, you know. It's nice to feel that people are concerned when you live alone.

Rick: Yes, it is nice.

Emily: Now, though, she comes every day, sometimes more than once! She always brings me homemade soup.

Rick: Homemade soup! (A: That is so great!) I wish someone cooked for me.

Emily: Well, sure, having some home-cooked food is a treat, but she sits and watches me to make sure I eat it! Last time, I had just eaten dinner when she came over and insisted that I finish a whole bowl. She wouldn't leave until I did!

Rick: Oh, come on. (B: You could have it much worse.)

Emily: And every time I go out she leans out the door to ask where I'm going. (C: It's like I'm seventeen again!)

Rick: Would you rather have loud neighbors who kept you up all night?

Emily: (D: Well, it's not only her.) It's the

old man, too. He loves classical films, such as *Gone with the Wind* and *Ben Hur*.

Rick: What's the problem with that?

Emily: Well, he's a collector of DVDs, and he enjoys watching them far into the night. The trouble is that he insists on my watching them with him, which means I'm short of sleep.

Rick: (E: Why don't you turn him down?)

Emily: I did. But it made him very angry.

Rick: Well, it's time you started looking for a new apartment, I'm afraid.

エミリー：リック、私がアパートを借りた老夫婦のこと、覚えてるかしら？

リック：ああ。

エミリー：あのね、そのおばあさんは私がどう過ごしているかを見によく来るのよ。最初は本当にありがたいと思っていたわよ。一人で暮らしていると、誰かに気にかけてもらっていると感じるのはありがたいことですものね。

リック：うん、ありがたいよね。

エミリー：で、ところがね、そのおばあさんったら毎日、ときには2回以上も来るのよ！いつも手作りのスープを持って来るの。

リック：手作りのスープだって！それはすごいね！誰か僕のために料理してくれたらなあ。

エミリー：そりゃ、確かに手作りの食べ物もらえるって嬉しいことよ、でもそのおばあさん、私が食べるのを確かめようと座って見ているのよ！この前なんて私が食事を終えたすぐ後にやってきて、スープを飲み干すように言い張ったのよ。私がそうするまで帰ろうとしなかったんだから！

リック：いいかげんにしろよ。もっとひどいこともあり得るんだから。

エミリー：それに、私が出かけるたびに戸口のところで身を乗り出して、私がどこに行くのかを聞くのよ。また17歳に戻ったみたいよ！

リック：一晩中寝かせてくれないような騒がしい人が隣にいたほうがいいのかい？

エミリー：それがね、おばあさんだけじゃないの。

おじいさんもなのよ。おじいさん、『風と共に去りぬ』や『ベン・ハー』みたいな昔の映画が大好きなのよ。

リック：そのことで何か問題でもあるの？

エミリー：あのね、そのおじいさんはDVDを集めていて、夜遅くまで見て楽しんでいるのよ。困ったことに私も一緒に見るように言い張るの。それで私、睡眠不足なのよ。

リック：おじいさんの誘いを断ったらどうかな？

エミリー：断ったわよ。でも、おじいさん、それでひどく怒っちゃったの。

リック：そうか、残念だけど新しいアパートを探し始めるときかもね。

【語句解説】

- grateful「ありがたく思う」
- be concerned「気にかけている、気遣っている」
- make sure (that) ...「…を確かめる」
- insist that ...「…と主張する」
- whole「全体の、すべての」
- lean out「身を乗り出す」
- be short of A「Aが不足している」

【選択肢と訳】

- (㉠) Well, it's not only her.
(㉡) That is so great!
(㉢) Yes, of course!
(㉣) She is not as young as she looks.
(㉤) Why don't you turn him down?
(㉥) You could have it much worse.
(㉦) Did you sleep well?
(㉧) It's like I'm seventeen again!
- (㉠) それがね、おばあさんだけじゃないの。
(㉡) それはすごいね！
(㉢) ええ、もちろん！
(㉣) おばあさんは見た目ほど若くはないの。
(㉤) おじいさんの誘いを断ったらどうかな。
(㉥) もっとひどいこともあり得るんだから。
(㉦) よく眠れたのかい。
(㉧) また17歳に戻ったみたいよ！

【選択肢の語句】

- Why don't you ...?「…してはどうですか」
- turn down O/turn O down「Oを断る」

【設問別解説】

(A) ★☆☆

空所の直前で「手作りのスープだって！」と驚き、さらに空所の直後で「誰か僕のために料理してくれたらなあ」と願望を述べていることから、リックは手作りのスープを非常にうらやましく思っていることがわかる。そこで、That is so great!「それはすごいね！」を入れると自然につながる。したがって、(㉡)が正解。

(B) ★★★

家主のおばあさんに対する不満を述べている前のエミリーの発言に対して、空所直前でOh, come on.「いいかげんにしろよ」と軽くたしなめていることから、You could have it much worse.「もっとひどいこともあり得るんだから（そのくらいいたしたことじゃないよ）」を入れるとうまく会話につながる。したがって、(㉥)が正解。なお、このcouldは婉曲的な推量を表す用法。

(C) ★☆☆

空所直前の内容より、エミリーは出かけるたびに家主のおばあさんから行先を聞かれるという子煩悩扱いをされているとわかる。そこで、(㉤)のIt's like I'm seventeen again!「また17歳に戻ったみたいよ！」が適切と判断する。

(D) ★☆☆

空所直後の「おじいさんものよ」という発言がヒント。この空所を境に不満の対象がおばあさんからおじいさんに移っていることから、Well, it's not only her.「それがね、(問題なのは)おばあさんだけじゃないの」を入れると、エミリーの発言が自然につながる。したがって、(㉠)が正解。

(E) ★☆☆

空所後のエミリーの「やったわ。でも、おじいさん、それでひどく怒っちゃったの」という発言から、ここではリックがトラブルを避けるために何らかの提案をしていることがわかる。怒らせたということから、おじいさんにとって不愉快な提案だと判断してWhy don't you turn him down?「おじいさんの誘いを断ったらどうかな？」を入れると会話がうまくつながる。したがって、(㉤)が正解。

③ 文法・語法

【解答】

- A 1. (㉠) 2. (㉢) 3. (㉦)
4. (㉤) 5. (㉦)
- B 1. prevented[kept, stopped], from
2. Chances

3. born
4. sooner
5. only

【配点】(20点)

各2点×10

【設問別解説】

A

1. ★☆☆

By the end of this year, Michael () in Kyoto for ten years.

今年の終わりまでに、マイケルは京都に10年住んでいることになる。

- (ア) has lived (イ) has been living
(ウ) had lived (エ) **will have lived**

「今年の終わりまでに」から、この文の基準時が未来であることがわかる。未来のある時点まで「京都にずっと10年住んでいることになる」のだから、継続を表す未来完了形にする必要がある。したがって、(エ)が正解。

2. ★☆☆

I don't have the () idea of what you mean!

君が言おうとしていることがまったくわからないよ！

- (ア) **slightest** (イ) biggest
(ウ) most (エ) smallest

I have no idea ... で「…がわからない」という意味だが、この強調形として I don't have [haven't] the least [slightest, faintest, remotest, foggiest] idea ... 「…がまったくわからない(最もわずかな想像さえつかない)」という表現がある。したがって、(ア)が正解。最上級には even の意味を含んで、「最も…でさえ」と解釈する場合があることに注意。

3. ★☆☆

Paul was () to do the dishes though he didn't want to.

ポールはやりたくはなかったが、皿洗いをさせられた。

- (ア) **made** (イ) let
(ウ) had (エ) allowed

「やりたくはなかったが」から、意志に反して無理やりさせられたことがわかる。そこで、強制的な意味を表す使役の表現 make O do を受動態にすればよい。使役動詞 make を受動態にすると、be made to do の

ように to が入るので、(ア)が正解。なお、同じ使役動詞でも let と have は原則として受動態にすることができない。また、(エ)の allowed は「許可する」という動詞の過去形・過去分詞形なので、本問のような強制的な意味を表す文では不適である。

File 1

make O do / see O do の受動態

make O do 「Oに…させる」/ see O do 「Oが…するのを見る」の受動態は、それぞれ be made to do 「…させられる」/ be seen to do 「…するのを見られる」になる。原形不定詞(do)が受動態では to 不定詞になることに注意。

【例1】 They made him pay the taxes.
→ He was made to pay the taxes.

「彼は税金を支払わされた」

【例2】 We saw Alice go into the cafe with Carl.
→ Alice was seen to go into the cafe with Carl.

「アリスはカールと一緒にカフェに入るのを見られた」

4. ★☆☆

When it comes (), George is the very best.

野球をすることとなると、ジョージが抜群にうまい。

- (ア) play baseball (イ) playing baseball
(ウ) to play baseball (エ) **to playing baseball**

When it comes to doing で「…することとなると」という意味の熟語である。to があるからといって必ずしも動詞の原形が入るわけではないことに注意。したがって、(エ)が正解。

File 2

to doing の形をとる主な表現

・ look forward to doing 「…するのを楽しみにする」

【例】 I'm looking forward to seeing you again.

「あなたに再びお会いできるのを楽しみにしています」

・ be used to doing 「…するのに慣れている」

[例] He is used to speaking in public.

「彼は人前で話すことに慣れている」

・What do you say to *doing*? 「…しませんか?」

[例] What do you say to going for a drive?

「ドライブに行きませんか?」

・object to *doing* 「…することに反対する」

[例] My parents objected to my going abroad.

「両親は、私が外国へ行くことに反対した」

・When it comes to *doing* 「…することとなる」と

[例] When it comes to cooking, she is second to none.

「料理をすることとなると、彼女は誰にも負けない」

5. ★★★

() was the force of the explosion that all the windows were broken into pieces.

その爆発力は相当なものだったので、窓はすべて粉々に砕けてしまった。

- (ア) It (イ) There
(ウ) Such (エ) What

接続詞 *that* の存在と、*was the force of the explosion* という語順が本問を解く上での大きなポイントとなる。S is such that ... で「Sは相当なものなので…」という意味の構文だが、*such* が文頭(節頭)に出ると、Such is S that ... と倒置形になることに注意。したがって、(ウ)が正解。

B

1. ★☆☆

- (a) We couldn't arrive at the station on time because of heavy snow.
(b) Heavy snow (**prevented** [**kept, stopped**]) us (**from**) arriving at the station on time.

(a)の文は「大雪のために私たちは時間通りに駅に到着できなかった」という意味。(b)では Heavy snow という無生物が主語になっていることから「大雪が、わたたちが時間通りに駅に到着することを妨げた」と読み換えて、prevent [keep, stop] O from *doing* を用いればよい。本問では過去の内容なので、過去形に変えるのを忘れないように。

File 3

V + O + *from doing* の形で用いられる動詞

この形をとる動詞は以下のとおり。O *from doing* の O と *doing* 間には、「Oが…しない・できない」という否定の意味関係があることに注意。

1. 「Oが…するのを妨げる・やめさせる」という意味を表すもの

keep O from *doing*
prevent O from *doing*
stop O from *doing*
hinder O from *doing*
restrain O from *doing*

2. 「Oが…するのを思いとどまらせる」という意味を表すもの

discourage O from *doing*
dissuade O from *doing*

3. 「Oが…するのを禁止する」という意味を表すもの

ban O from *doing*
prohibit O from *doing*

2. ★★★

- (a) Dick will probably pass the examination.
(b) (**Chances**) are that Dick will pass the examination.

(a)の文は「ディックはおそらくその試験に合格するだろう」という意味。(b)の文では *probably*「おそらく」がないので、その意味を含んだ構文を想定する。主語の空所の直後に *are* という動詞があることから、この空所には複数形の名詞が入ると判断して、(The) Chances are that ... 「おそらく…だろう」という構文を用いればよい。この空所は文頭にあるので大文字にするのを忘れないように。

3. ★★★

- (a) Katherine is gifted with a talent for music.
(b) Katherine was (**born**) with a talent for music.

(a)の文は「キャサリンは音楽の才能に恵まれている」という意味だが、(b)の文では過去形 *was* が用いられていることに注目する。この2つの文をほぼ同意にするためには、「キャサリンは音楽の才能を持って生まれてきた」と読み換えればよい。したがって、*born* が正解。

4. ★★☆☆

- (a) On seeing the policeman, the criminal ran away.
 (b) No (sooner) had the criminal seen the policeman than he ran away.

(a)の文は on doing「…するとすぐに」という表現が用いられており、「犯人は警官を見るとすぐに逃げ出した」という意味である。(b)の文に than が入っていることから比較級が必要だとわかるので、no sooner ... than 「…するとすぐに…する」という構文が適切と判断する。なお、否定副詞の No sooner が文頭に出ると必ず主節が倒置形になることに注意。

File 4

S had no sooner done ... than S did ~ の表現

S had no sooner done ... than S did ~ は、「…するとすぐに～した」という表現。通例この表現は過去のことを表す場合に用いられるので、主節には過去完了形、than 以下には過去形がくることが多い。なお、S had hardly [scarcely] done ... when [before] S did ~ も同じ意味で用いられる。

- [例1] He had no sooner arrived in Rome than he was kidnapped.

「彼はローマに着くとすぐに誘拐された」

- [例2] They had hardly got back to Japan when they got divorced.

「二人は日本に戻るとすぐに離婚した」

この構文は、no sooner / hardly / scarcely が文頭に出て倒置形(疑問文の語順)になることも多いので注意。

- [例1'] No sooner had he arrived in Rome than he was kidnapped.

- [例2'] Hardly had they got back to Japan when they got divorced.

5. ★★☆☆

- (a) They won the battle but lost the war.
 (b) They won the battle (only) to lose the war.

(a)の文は「彼らはその闘いには勝ったが、戦争には負けた」という意味。(b)の文では空所の後に to 不定詞が用いられていることから、《結果》を表す副詞用法の不定詞 only to do 「その結果は…するだけだ」が適切と判断する。

4 長文総合問題

【解答】

- 問1 price
 問2 普通の入園料の約2倍で列の先頭へ行けるバスを買うこと。(27字)
 問3 テーマパークの行列がすべての人を平等にし、休暇を過ごすすべての家族が民主的なやり方で自分の順番を待った日々は過ぎ去ってしまった。
 問4 ニューヨークで自分の時間を最大限に利用する機会。(24字)
 問5 1. (イ) 2. (ウ) 3. (ウ)
 問6 (イ), (エ), (ク) (順不同)

【本文解説】

＜第1段落＞

1) Long lines at airport security checkpoints make air travel a painful experience. 2) But not everyone has to wait in the long queues. 3) Those who buy first-class or business-class tickets can use priority lanes that take them to

【配点】(60点)

- 問1 5点 問2 6点 問3 14点
 問4 5点 問5 各5点×3
 問6 各5点×3

【出典】

WHAT MONEY CAN'T BUY, Michael Sandel

1) 空港の手荷物検査所にできる長い行列は空の旅をつらい経験にする。2) だが、誰もが長い行列に並んで待つ必要があるわけではない。3) ファーストクラスかビジネスクラスのチケットを購入した人たちは、検査待ちの列の先頭に行ける優先レーンを利

the front of the line for screening. 4) British Airways calls it Fast Track, a service that also lets high-paying passengers jump the queue at passport and immigration control. 5) But most people can't afford to fly first-class, so the airlines have begun offering economy class passengers the chance to buy line-cutting privileges. 6) For an extra \$39, United Airlines will sell you priority boarding for your flight from Denver to Boston, along with the right to cut in lines at the security checkpoint.

用することができるのだ。4) 英国航空はそれを「ファーストトラック」と呼ぶが、これは高いお金を払った乗客は出入国審査の際にも行列に割り込めるサービスである。5) だが、ほとんどの人はファーストクラスに乗るほど余裕がない。そこで、航空会社はエコノミークラスの乗客に、行列に割り込める特権を購入できる機会を提供し始めている。6) ユナイテッド航空は39ドルの追加料金で、手荷物検査所の行列に割り込める権利と一緒に、デンバー発ボストン行きの便に優先的に搭乗する権利を販売している。

- 1) ・ make air travel a painful experience は make O C 「O をCにする」の形で、Oに air travel, Cに a painful experience がきている。
- 2) ・ not everyone は部分否定で、「誰もが…というわけではない」という意味。
- 3) ・ those who ... で「…する人々」となる。those は people の意味。
・ that take them ... screening は priority lanes を先行詞とする関係詞節。
- 4) ・ a service ... control は、直前の Fast Track の具体的な内容を表している。
- 5) ・ the chance to do で「…する機会」という意味。
- 6) ・ the right to do で「…する権利」という意味。

- security checkpoint 「手荷物検査所」
- painful 「つらい、苦しい」
- queue 「行列」
- priority 「優先(権)」
- screening 「検査」
- jump the queue 「行列に割り込む」
- passport and immigration control 「出入国審査」
- can afford to do 「…する余裕がある」
- offer O₁ O₂ 「O₁にO₂を提供する」
- privilege 「特権」
- boarding 「搭乗」
- along with A 「Aと一緒に」
- cut in line 「行列に割り込む」

〈第2段落〉

7) Critics complain that a fast track through airport security should not be for sale. 8) Security checks, they argue, are a matter of national defense, not an amenity like extra legroom or early boarding privileges; the burden of keeping terrorists off airplanes should be shared equally by all passengers. 9) The airlines reply that everyone is subjected to the same level of screening; only the wait varies with (1). 10) As long as everyone receives the same body scan, they maintain, a shorter wait in the security line is a convenience they should be free to sell.

7) 空港の手荷物検査所のファーストトラックは売りに出されるべきではないと批判する人もいる。8) 手荷物検査は国防の問題であり、座席の足下の広々とした空間や早めに搭乗できる特典といった快適さではない。テロリストを飛行機から締め出すという重い責任はすべての乗客が平等に分かち合うべきだと彼らは主張する。9) 航空会社は、すべての人が同じレベルの検査を受けており、値段によって待ち時間が変わるだけだと答える。10) 全員が同じボディスキャンを受ける限り、手荷物検査の行列での待ち時間短縮は自由に売ってよいはずの利便性だと彼らは言うのだ。

- 7) ・ for sale で「売りに出される」の意味。
- 8) ・ 元の文は They argue (that) security checks are ... であり、they argue が文中に移動している。
・ not an amenity ... privileges は Security checks are の補語になっている。
- ・ of keeping terrorists off airplanes は the burden を修飾している。keep A off B で「AをBに寄せつけない」

- critic 「批評家、評論家」
- complain that ... 「…と文句を言う」
- argue that ... 「…と主張する」
- national defense 「国防」
- extra 「特別な、追加の」
- burden 「重荷、負担」
- share O 「Oを分かち合う」

となる。

- 9) ・空所(1)については【設問別解説】参照。
- 10) ・元の文は They maintain (that) as long as ... であり、they maintain が文中に移動している。
- ・a shorter wait は「待ち時間がより短くなる」という意味。
- ・they should be free to sell は目的格の関係代名詞が省略された関係詞節で、a convenience を修飾している。

- reply that ... 「…と答える」
- be subjected to A 「Aを受ける」
- wait 「待ち時間」
- vary 「変わる」
- as long as ... 「…である限り」
- body scan 「ボディスキャン、身体検査」
- maintain that ... 「…と主張する」
- convenience 「利便性、便利なこと」

＜第3段落＞

11) Amusement parks have also started selling the right to jump the queue. 12) Traditionally, visitors may spend hours waiting in line for the most popular rides and attractions. 13) Now, Universal Studios Hollywood and other theme parks offer a way to avoid the wait; for about twice the price of standard admission, they'll sell you a pass that lets you go to the head of the line. 14) Prompt access to the Revenge of the Mummy thrill ride may be morally less freighted than privileged access to an airport security check. 15) Still, some observers complain about the practice, seeing it as damaging to a healthy civic habit: 16) "Gone are the days when the theme park queue made everyone equal, every vacationing family waiting its turn in democratic fashion." wrote one commentator.

11) 遊園地でも行列に割り込む権利が売られ始めている。12) 昔から、遊園地を訪れる人たちは一番人気の乗り物やアトラクションの行列に何時間も並んで待つことがある。13) 今では、ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドや他のテーマパークが待つことを避ける手段を提供している。普通の入園料の約2倍の額で、行列の先頭へ出られるパスを販売するのだ。14) 絶叫マシンのリベンジ・オブ・ザ・マミーに早く乗れることは、空港の手荷物検査を優先的に受けられることよりも、道徳的にそれほど重荷を感じなくてすむかもしれない。15) それでも、こうしたやり方は市民の健全な習慣に有害だと考えて文句を言う評論家もいる。16) ある専門家はこう書いた。「テーマパークの行列がすべての人を平等にし、休暇を過ごすすべての家族が民主的なやり方で自分の順番を待った日々は過ぎ去ってしまった」

- 12) ・spend O *doing* で「…するのにOを費やす」という意味。
- 13) ・下線部(2)については【設問別解説】参照。
- 14) ・access to A で「Aの利用、使用」という意味。したがって、access to the Revenge of the Mummy thrill ride は「絶叫マシンのリベンジ・オブ・ザ・マミーに乗ること」となる。
- 15) ・Still は「しかし、それでも」という意味の副詞。
- ・the practice 「そのやり方」とは、お金を払っての割り込みを指している。
- ・seeing ... habit は分詞構文。see A as B で「AをBと思う、AをBとみなす」という意味になり、it は「(お金を払って割り込むという)やり方」を指している。
- 16) ・下線部(3)については【設問別解説】参照。

- amusement park 「遊園地」
- traditionally 「昔から、伝統的に」
- theme park 「テーマパーク」
- admission 「入園料、入場料」
- prompt 「素早い、迅速な」
- morally 「道徳的に」
- observer 「評論家、観察者」
- practice 「やり方」
- damaging to A 「Aにとって有害な」
- healthy 「健全な」
- civic 「市民の」
- commentator 「専門家、コメンテーター」

＜第4段落＞

17) Interestingly, amusement parks often obscure the special privileges they sell. 18) To avoid offending ordinary customers, some parks lead their premium guests through back doors and separate gates; others provide an escort to

17) 面白いことに、遊園地は販売する特権を目立たないようにすることが多い。18) 一般客の気分を害さないように、得意客を裏口や離れた門に案内する遊園地もあれば、VIP客が行列に割り込みやすくするためにエスコートをつける遊園地もある。

ease the way of VIP guests as they cut in line.
19) This effort to avoid attracting attention suggests that paid line cutting — even in an amusement park — runs counter to the idea that fairness means waiting your turn. 20) But Universal Studio Hollywood's online tickets site shamelessly promotes the \$149 Front of Line Pass: 21) "Cut to the FRONT at all rides, shows and attractions!"

19) このように注目を引くのを避けようとする努力から次のことがわかる。お金を払っての割り込みは—たとえ遊園地であっても—順番を待つのが公平だという考えに相反するのだ。20) だが、ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドのオンライン・チケットサイトは、149ドルするフロントオブライン・パス(優先入場パス)の販売を恥ずかしげもなく促進している。21) 「すべての乗り物、ショー、アトラクションで先頭へ！」

- 17) ・Interestingly は文全体を修飾している。
・they sell は目的格の関係代名詞が省略された関係詞節で、the special privileges を修飾している。
18) ・To avoid ... customers は《目的》を表す不定詞句。
・ordinary customers 「一般客」とは、追加料金を払わず、行列に並んで待っている客のことを表している。
・some parks ... ; others ~で「…する遊園地もあれば、～する遊園地もある」という意味。others は other parks のことである。
・to ease the way of VIP guests は《目的》を表す不定詞句。ease the way 「道を容易にする」とは道を通りやすくすることを表している。
・as they cut in line は《時》を表す副詞節。
19) ・effort to do で「…する努力」という意味。
・that fairness ... turn は同格の名詞節で、the idea の内容を表している。

- obscure O 「Oを目立たなくする」
- offend O 「Oの気分を害する」
- ordinary 「一般の、普通の」
- premium 「上等な」
- separate 「別の、離れた」
- escort 「エスコート、付添人」
- ease O 「Oを容易にする、和らげる」
- attract O 「Oを引きつける、魅了する」
- attention 「注目、注意」
- fairness 「公平、公正」
- site 「場所、ウェブサイト」
- shamelessly 「恥ずかしげもなく」
- promote O 「Oを促進する、奨励する」

＜第5段落＞

22) If you're frustrated by queue jumping at amusement parks, you might choose instead a traditional tourist sight, such as the Empire State Building. 23) For \$22 (\$16 for children), you can ride the elevator to the eighty-sixth-floor observatory and enjoy a spectacular view of New York City. 24) Unfortunately, the site attracts several million visitors a year, and the wait for the elevator can sometimes take hours. 25) So the Empire State Building now offers a fast track of its own. 26) For \$45 per person, you can buy an Express Pass that lets you cut in line — for both the security check and the elevator ride. 27) Paying \$180 for a family of four may seem a steep price for a fast ride to the top. 28) But as the ticketing website points out, the Express Pass is "a fantastic opportunity to make the most of your time in New York."

22) 遊園地での行列への割り込みの話にうんざりならば、代わりに昔ながらの観光名所、例えばエンパイア・ステート・ビルを選んでよいだろう。23) 22ドル(子供は16ドル)を払えば、エレベーターに乗って86階の展望台に昇り、ニューヨーク市の素晴らしい眺めを楽しむことができる。24) 残念ながら、この場所は年に数百万人もの人を引きつけるため、エレベーターの待ち時間はときには数時間に及ぶことがある。25) そこで今では、エンパイア・ステート・ビルは独自のファーストトラックを提供している。26) 1人45ドルで、手荷物検査でもエレベーターでも行列に割り込めるエクスプレス・パスが買えるのだ。27) ビルの最上階に早く運んでもらうのに4人家族で180ドルを払うというのは法外な値段のように思えるかもしれない。28) だが、ウェブ上のチケットサイトが指摘しているように、エクスプレス・パスは「ニューヨークで過ごす時間を最大限に活用する素晴らしい機会」なのである。

- 23) ・and は ride と enjoy という2つの動詞を結んでいる。
24) ・Unfortunately 「残念ながら」は文全体を修飾する副詞。

- frustrate O 「Oを失望させる、うんざりさせる」

- ・ take hours の take は「(時間)かかる」の意味。
- 26) ・ that lets you 以下は an Express Pass を先行詞とする関係詞節。
- 27) ・ Paying \$180 for a family of four は主語で Paying は動名詞である。
- 28) ・ as は points out の目的語となる関係代名詞で、主節の内容を指す。
- ・ 下線部(4)については【設問別解説】参照。

- instead 「代わりに」
- tourist sight 「観光名所」
- observatory 「展望台」
- spectacular 「素晴らしい」
- of one's own 「独自の」
- steep 「法外な」
- point out O 「Oを指摘する」
- fantastic 「素晴らしい」
- make the most of A 「Aを最大限に活用する」

【設問別解説】

問1 空所補充問題 ★★★

The airlines reply that everyone is subjected to the same level of screening; only the wait varies with (1).

空所を含む文 only the wait varies with (1) は「(1)によって待ち時間が変わるだけだ」という意味。第1段落第5・6文の内容から一部の航空会社は行列に割り込む特権を販売していることがわかる。つまり、待ち時間は客が払ったお金、すなわち「価格・値段」によって変わるのである。よって、price(第27文)という単語を入れれば文意が通る。

問2 内容説明問題 ★☆☆

下線部(2)に「待つことを避ける方法」とあるが、具体的に客はどのようなことをするのか。25字程度の日本語で説明せよ。

下線部(2)の直後のコロンの後ろに for about twice the price of standard admission, they'll sell you a pass that lets you go to the head of the line 「普通の入園料の約2倍の額で、行列の先頭へ出られるパスを販売するのだ」とあり、これが「待つことを避ける」具体的な方法。よって、「普通の入園料の約2倍で列の先頭へ行けるパスを買うこと。」(27字)のように記せばよい。「客がどのようなことをするのか」を聞いているので「パスを売る」という解答は不可。

問3 下線部和訳問題 ★★★

(3) Gone are the days when the theme park queue made everyone equal, every vacationing family waiting its turn in democratic fashion

《語句》

- ・ equal 「平等な」

- ・ vacationing 「休暇を過ごす」
 - ・ turn 「順番」
 - ・ democratic 「民主的な」
 - ・ in ... fashion 「…なやり方で」
- 《ポイント》
- ・ 倒置の文になっており、the days が主語で、are が動詞である。are gone は「過ぎ去ってしまった」「終わってしまった」などと訳せばよい。
 - ・ when ... fashion は、the days を先行詞とする関係詞節。
 - ・ made everyone equal は make O C 「OをCにする」の形で、Oに everyone、Cに equal がきている。
 - ・ コンマより後ろの部分は分詞構文で、every vacationing family は分詞 waiting の意味上の主語。

以上から、「テーマパークの行列がすべての人を平等にし、休暇を過ごすすべての家族が民主的なやり方で自分の順番を待った日々は過ぎ去ってしまった」という訳が得られる。

問4 内容説明問題 ★☆☆

下線部(4)に「素晴らしい機会」とあるが、具体的に何をやる機会か。「…機会。」で終わるように、25字以内の日本語で説明せよ。

下線部(4)の直後に to make the most of your time in New York とあるが、これは opportunity を修飾する不定詞の形容詞用法である。よって、この部分が「素晴らしい機会」の具体的な内容を表している。make the most of A は「Aを最大限に利用する、活用する」という意味。以上から、「ニューヨークで自分の時間を最大限に利用する機会。」(24字)のように記せばよい。

問5 内容一致問題 ★☆☆

1. 追加料金を払うことで、ある特定の航空会社

を利用するエコノミークラスの乗客は()ができる。

- (ア) 手荷物検査所を通り抜けること
- (イ) 優先的に搭乗する権利を享受すること
- (ウ) 出入国審査を抜かすこと
- (エ) すべてのフライトで行列に割り込む特権を持つこと

第6文に「手荷物検査所の行列に割り込む権利と一緒に、デンバー発ボストン行きの便に優先的に搭乗する権利」とあることから、(イ)が正解。手荷物検査や出入国審査を優先的に受けられるだけであり、免除されるわけではない。また、「すべてのフライト」という記述はない。

2. ()と言って、ファーストトラックのサービスに反対する人もいる。

- (ア) すべての乗客が快適なシートに座る資格があるべきだ
- (イ) 早く搭乗できる特権はすべての乗客に提供されるべきではない
- (ウ) すべての乗客が空港で同じ手荷物検査を受けるべきだ
- (エ) 手荷物検査所は国防の目的からもっと厳しくすべきだ

第8文に、ファーストトラックの販売に批判的な人の意見として「手荷物検査は国防の問題であり、すべての乗客が平等に分かち合うべきだ」とあることから、(ウ)が正解。快適なシートや優先的に搭乗する権利に関しては反対しておらず、また、「検査をもっと厳しくすべき」という記述は本文にない。

3. 面白いことに、遊園地は()。

- (ア) お金を払うことで手に入る特権を積極的に奨励している
- (イ) VIP客に同行するスタッフを提供していない
- (ウ) 特別な客を目立たせたいとは必ずしも思っていない
- (エ) すべての客が気分を害することを確実にする

第17文に「面白いことに、遊園地は販売する特権を目立たないようにすることが多い」とある。また第18・19文の内容から、遊園地は特別な客をなるべく目立たせないよう、いろいろな工夫をしていることがわかる。よって、(ウ)が正解。

問6 内容一致問題 ★★☆☆

(ア) The airlines don't think that first-class or business-class passengers require any security screening since they pay an extra fee.

(イ) No passenger can avoid being subjected to a screening at the airport.

(ウ) The right to jump the queue at airports and amusement parks is welcomed by everybody.

(エ) In amusement parks, some guests who pay an extra fee can use a special entrance.

(オ) In amusement parks, you can always get a guide if you pay an additional fee.

(カ) At Universal Studios Hollywood, you cannot cut in line for very popular rides even if you have the Front of Line Pass.

(キ) Universal Studios Hollywood is reluctant to offer special privileges because many guests complain about them.

(ク) At the Empire State Building, you cannot necessarily get into an elevator right away just because you pay \$22.

正解は(イ)、(エ)、(ク)。以下に各選択肢の訳とポイントを示す。

(ア) 「ファーストクラスやビジネスクラスの乗客は追加料金を払っているの、セキュリティ検査をまったく受けなくてよいと航空会社は考えている」

第9文に「すべての人が同じレベルの検査を受けており、値段によって待ち時間が変わるだけだ」とあるので、不一致。

(イ) 「空港で検査を受けることを避けられる乗客はいない」

上と同じく、第9文の内容より、一致。

(ウ) 「空港や遊園地で行列に割り込む権利はすべての人に歓迎されている」

第7・8文および第15・16文に、行列に割り込む特権を批判する人もいると記されているので、不一致。

(エ) 「遊園地で、追加料金を払った客の中には特別な入り口を使える人もいる」

第18文に「得意客を裏口や離れた門に案内する遊園地もある」という記述があるので、一致。

(オ) 「遊園地では、追加料金を払えばいつでもガイドを利用することができる」

第18文に「VIP客が行列に割り込みやすくなるた

- めにエスコートをつける遊園地もある」とあるが、いつでも利用できるわけではない。よって、不一致。
- (カ) 「ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドでは、たとえフロントオンライン・パスを持っても非常に人気のある乗り物の行列には割り込めない」

第21文に「すべての乗り物、ショー、アトラクションで先頭へ!」という記述があり、パスを持っていればどんなに人気のある乗り物の行列にも割り込めることがわかる。よって、不一致。

- (キ) 「ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドは、多くの客が文句を言うという理由で特権を提供することに消極的だ」

第20・21文から、ユニバーサル・スタジオ・ハリ

ウッドのオンライン・チケットサイトは、特権を得られるパスを「恥ずかしげもなく」売っていることがわかる。よって、不一致。

- (ク) 「エンパイア・ステート・ビルでは、22ドル払ったからといって必ずしもすぐにエレベーターに乗り込めるわけではない」

第23～26文の内容より、22ドル払って手に入るのは86階の展望台に昇るエレベーターに乗れる権利だけであり、混雑しているときは当然待たなくてはならない。その行列に割り込み、すぐにエレベーターに乗るためには1人45ドルを払う必要がある。よって、一致。

5 長文総合問題

【解答】

問1 人がウソをついているかどうかということ。(20字)

問2 (イ)

問3 ウソをつくことから得ることの多い人々、つまりモチベーションの高いウソつきは誠実であろうと少し頑張り過ぎてしまうようだが、それゆえに、聞いている側が発言の中に真実を見出そうとしているときウソをついていることがばれてしまうことがあるのだ。

問4 多くのウソつきはごまかしがうまく、誠実そうな表情でウソをつくことができるため、ウソを見抜くのに用いられる表情の手がかりの多くが役に立たなくなってしまう。

問5 ・目を合わせないこと。

・口ごもること。

・ひどく汗をかくこと。(順不同)

問6 正直は最良の策ではあるが、仕事であれプライベートであれ、常にそれぞれの関係にとってなくてはならない部分だとは限らない。

【配点】(60点)

問1 5点 問2 4点 問3 15点

問4 12点 問5 各4点×3 問6 12点

【出典】

Lying and Deception, Brenda Gargus

【本文解説】

＜第1段落＞

1) Whether it was to spare someone's feelings or just to keep from getting in trouble, most people have lied during the course of their lives. 2) It is important in both personal and work situations to be able to know whether someone is being dishonest. 3) ⁽¹⁾ This can often be discovered by doing a simple background check but many times a person must be taken on face value. 4) It is important to know some ways to

1) それが人の気持ちに気を配るためであろうと、単に厄介ごとに巻き込まれないようにするためであろうと、たいていの人が人生の中でウソをついたことがある。2) 人がウソをついているかどうかを見極めることができることは個人的状況でも仕事面でも重要である。3) このことは相手のことをちょっと調べてみるとわかることがよくあるが、多くの場合、人は額面通りそのまま受け取られるに違いない。4) 人が本当のことを言っているかどうかを判断す

tell if someone is telling the truth.

る方法をいくつか知ることは重要だ。

- 1) ・ Whether ... or ~ は《譲歩》を表す副詞節で、「…であろうと～であろうと」という意味を表す。
 - ・ it は most people have ... of their lives の内容を指している。
 - ・ to spare someone's feelings と just to keep from getting in trouble は《目的》を表す副詞用法の不定詞句。
- 2) ・ whether someone is being dishonest は know の目的語の名詞節。
- 3) ・ 下線部(1)については【設問別解説】参照。
 - ・ simple background check は「相手が信用に足る人物かどうか、探りを入れて判断すること」くらいの意味。
- 4) ・ to tell if ... telling the truth は some ways を修飾する形容詞用法の不定詞句。
 - ・ if someone ... the truth は tell の目的語の名詞節。

- spare O 「Oに気を配る」
- keep from *doing* 「…しないようにする」
- get in trouble 「トラブルになる、厄介ごとに巻き込まれる」
- during the course of A 「Aの過程で」
- be dishonest 「不正直である、ウソをついている」
- background check 「身元調査、素性確認」
- take O on face value 「Oを額面通りに(そのまま)受け取る」

＜第2段落＞

5) The concerning issue is that skilled liars may be good at appearing truthful (2) what you have been taught to look for. 6) People with a high degree of social skill (which means they are expressive and socially tactful) are especially good at deceiving others. 7) Men are more skilled at lying than women and socially anxious or unskilled individuals are not very good at being deceptive.

5) 厄介なことに、ウソのうまい人は、探すようにとこちらが教え込まれてきたことにもかかわらず、誠実そうに見せることが得意かもしれない。6) 高度な社交術を持つ人々(それはつまり、彼らは表現力に富み、社交面でそつがないということだから)、他人をあざむくことがことのほか得意だ。7) 男性は女性よりもウソをつくのがうまいが、社交の場で不安を感じる人や人付き合いが下手な人は人をだますことがあまりうまくない。

- 5) ・ 空所(2)については【設問別解説】参照。
- 6) ・ (which means they ... and socially tactful) は非制限用法の関係詞節で、People with a high degree of social skill の内容を補足説明している。social skill は「社交術」のこと。
- 7) ・ socially anxious or unskilled individuals とは「人と付き合う上で不安を感じたり、人付き合いが下手な人」のこと。

- concerning issue 「厄介な問題」
- skilled 「上手な、熟練した」
- liar 「ウソつき」
- be good at A 「Aが得意である」
- truthful 「誠実な、正直な」
- look for A 「Aを探す」
- expressive 「表現力に富む」
- tactful 「機転が利く、そつがない」
- especially 「ことのほか」
- deceive O 「Oをだます、あざむく」
- deceptive 「人をだますような」

＜第3段落＞

8) People with a lot to gain from lying, that is, highly motivated liars, seem to try a little too hard to be sincere, which can reveal they are lying when you are trying to discover the truth in statements. 9) By using certain strategies and trusting natural instincts, it is possible to gain some insights into whether someone is being deceitful.

8) ウソをつくことから得ることの多い人々、つまりモチベーションの高いウソつきは誠実であろうと少し頑張り過ぎてしまうようだが、それゆえに、聞いている側が発言の中に真実を見出そうとしているときウソをついていることがばれてしまうことがあるのだ。9) なんらかの戦略を利用し、生まれつき持っている直感を信用することで、人がウソをつこうとしているかどうかを見抜く力を得ることが可能だ。

- 8) ・下線部(3)については【設問別解説】参照。
 9) ・whether someone is being deceitful は前置詞 into の目的語の名詞節。

- strategy 「戦略」
- natural instinct 「生まれつき持っている直感」
- insight 「見抜く力, 洞察力」
- deceitful 「人をだます, ウソつきの」

〈第4段落〉

10) It is important to note that many liars are manipulative and can lie with honest facial expressions. 11) So this causes many of the facial cues used to detect deceit to be useless. 12) Liars who are afraid of being caught or who are lying to stay out of trouble are often easier to catch in the act because the nervousness associated with the guilt will cause them to expose themselves as liars.

10) ウソつきには、ごまかしがうまく、誠実そうな表情でウソをつける者が多いことに気をつけることは重要だ。11) したがって、このためにウソを見抜くのに用いられる表情の手がかりの多くが役に立たなくなってしまう。12) 見抜かれるのを怖れたり、厄介ごとを避けるためにウソをついているウソつきは、ウソをついているところをより容易に押さえられてしまうことが多い。後ろめたさから生じた不安によって自らがウソつきであることを明るみに出してしまうからだ。

- 11) ・下線部(4)については【設問別解説】参照。
 12) ・Liars ... are often easier to catch in the actにおいて、主語 Liars は他動詞 catch の意味上の目的語にあたる。
 ・who are afraid of being caught と who are lying to stay out of trouble は Liars を先行詞とする関係詞節。
 ・associated with the guilt は the nervousness を後ろから修飾している分詞句。

- note that ... 「…ということに気をつける」
- be afraid of *doing* 「…するのが怖い」
- stay out of A 「Aを避ける, Aと関わりを持たない」
- nervousness 「不安」
- associate A with B 「AをBと結びつける」
- guilt 「後ろめたさ」
- expose A as B 「AがBであることを明るみに出す」

〈第5段落〉

13) This is not always the case because some people appear to be natural liars who are quite successful at avoiding getting caught in the act of lying. 14) Liars who rarely get caught have often been deceiving others since childhood and are often quite confident of their deception abilities.

13) いつもこうだとは限らない。中にはウソをついているところを見抜かれずにすまずのが実にうまい天性のウソつきのような人もいるからだ。14) めったに見抜かれることのないウソつきは子供の頃から頻繁に人をだまし続けてきたし、自分のウソをつく能力にすっかり自信を持っていることが多い。

- 13) ・This is not always the case ... では部分否定の表現が用いられている。
 ・get caught in the act of lying はウソをついていることがその場でばれてしまうこと。

- the case 「事実, 実情」
- be successful at *doing* 「うまく…する」
- rarely 「めったに…ない」
- be confident of A 「Aに自信を持っている」
- deception 「ウソ, だますこと」

〈第6段落〉

15) If you could detect lies, it would most often be just a matter of chance. 16) Women are somewhat better than men at spotting untruths and many people have been taught what cues to look for if they suspect someone is lying, such as lack of eye contact, hesitation in speech

15) もしウソを見抜くことができたとしても、多くの場合それは偶然でしかないだろう。16) 女性はウソを見抜くのが男性よりもいくらかうまく、多くの人は相手がウソをついているのではないかと疑った場合にどんな手がかりを探すべきかを教えられてきた。例えば、目を合わせないこと、口ごもること、

and heavy perspiration. 17) As stated earlier a good liar can manipulate ⁽⁵⁾these behaviors and it is also possible that an honest person may exhibit all or any of the cues listed.

ひどく汗をかくことである。17) 先に述べたように、上手なウソつきはこのような行為をうまくごまかすことができるし、正直な人が上に記された手がかりのすべて、あるいはいずれかを見せることもあるかもしれない。

- 15) ・ a matter of chance は「偶然、時の運」ということ。
 16) ・ what cues to look for は《疑問詞+名詞+to do》の名詞句で、taught の目的語になっている。what cues you should look for と同意。
 ・ if they suspect someone is lying は look for を修飾している。
 ・ such as lack ... and heavy perspiration は what cues to look for の具体例。
 17) ・ As stated earlier は「先に述べたように、前述のとおり」という意味。
 ・ 下線部(5)については【設問別解説】参照。

- most often 「多くの場合」
- somewhat 「いくらか」
- spot O 「Oを見抜く」
- untruth 「ウソ、虚偽」
- cue 「手がかり、合図」
- suspect (that) ... 「…だと疑う、…だと思う」
- lack of A 「Aが欠けていること」
- eye contact 「目を合わせること」
- hesitation in speech 「口ごもること、言いどむこと」
- manipulate O 「Oをごまかす」
- exhibit O 「Oを見せる、Oを表す」
- listed 「記載された」

＜第7段落＞

18) Lie detection is difficult and confusing but by using some strategies it is possible to get to the truth of the matter. 19) The best strategy is to trust your instincts and use your common sense. 20) If something doesn't sound right and you feel that you are being lied to, go with that and believe what you feel. 21) Understand that the world is full of manipulative people who lie with a straight face and have no problem with confusing the issues. 22) ⁽⁶⁾Honesty, while the best policy, is something that is not always an essential part of each relationship, business or personal.

18) ウソを見抜くことは難しくて混乱させることだが、いくつかの戦略を用いることによって事の真相にたどり着くことが可能だ。19) 最良の戦略は自分の直感を信じて常識を働かせることだ。20) もし何事かを聞いて正しく思えなかったり、相手が自分にウソをついていると感じるなら、成り行きにまかせて自分の感じていることを信じることだ。21) 世の中は真顔でウソをつき、問題を混乱させることに平然としていられる、ごまかすのがうまい人々で一杯だということを理解せよ。22) 正直は最良の策ではあるが、仕事であれプライベートであれ、常にそれぞれの関係にとってなくてはならない部分だとは限らない。

- 20) ・ If something doesn't ... being lied to は条件節で、命令文 go with that and believe what you feel が帰結節。
 ・ go with that [it] は「成り行きにまかせる」という意味。
 ・ what you feel は believe の目的語の名詞節。
 21) ・ who lie with ... confusing the issues は manipulative people を先行詞とする関係詞節。
 22) ・ 下線部(6)については【設問別解説】参照。

- lie detection 「ウソを見抜くこと」
- confusing 「混乱させる」
- common sense 「常識」
- sound C 「Cに聞こえる、Cに思える」
- be full of A 「Aで一杯である」
- with a straight face 「真顔で、素知らぬ顔で」
- have no problem with A 「Aのことで何も困らない」

【設問別解説】

問1 内容説明問題 ★☆☆

(1) This の具体的な内容を20字程度の日本語で書け。

下線部(1) This を含む文は「このことは相手のことをちょっと調べてみるとわかることがよくある…」という意味。直前の文に「人がウソをついているかどうかを見極めることができることは個人的状況でも仕事面でも重要である」とあるので、This の指す内容は whether someone is being dishonest であると判断する。したがって、「人がウソをついているかどうかということ。」(20字)と記せばよい。

問2 空所補充問題 ★★☆☆

The concerning issue is that skilled liars may be good at appearing truthful (2) what you have been taught to look for.

- (ア) against (イ) despite
(ウ) for (エ) into

空所(2)を含む文は「厄介なことに、ウソのうまい人は、探すようにとこちらが教え込まれてきたこと(), 誠実そうに見せることが得意かもしれない」という意味。「探すようにとこちらが教え込まれてきたこと」とは「相手がウソをついていると判断するための手がかり」のことで、具体例は第16文の lack of eye contact, hesitation in speech and heavy perspiration である。つまり、「目を合わせないこと、口ごもること、ひどく汗をかくこと＝ウソつきのしるし」というわけだ。さらに、続く第17文に「先に述べたように、上手なウソつきはこのような行為をうまくごまかすことができる」とある。そこで despite を入れると、「このような手がかりがあるにもかかわらず、ウソのうまい人は(それをうまくごまかして)誠実そうに見せることが得意」という意味になり、確かにこれは「厄介なこと」であると同時に第17文とも矛盾がない。よって、正解は(イ)。

問3 下線部和訳問題 ★★☆☆

(3) People with a lot to gain from lying, that is, highly motivated liars, seem to try a little too hard to be sincere, which can reveal they are lying when you are trying to discover the truth in statements.

《語句》

- ・ a lot to gain 「獲得すべき多くのもの」
- ・ that is 「つまり、すなわち」

- ・ highly motivated 「モチベーションの高い、意欲的な」
- ・ sincere 「誠実な、偽りのない」
- ・ reveal (that) ... 「…であることを示す、明らかにする」
- ・ discover O 「Oを発見する、見出す」
- ・ truth 「真実」
- ・ statement 「発言」

《ポイント》

- ・ People with a lot to gain from lying 「ウソをつくことから得ることの多い人々」が主語。
- ・ that is 「つまり」の後の highly motivated liars 「モチベーションの高いウソつき」は主語の People with a lot to gain from lying を言い換えたもの。
- ・ seem は述語動詞。
- ・ try to be sincere 「誠実であろうとする」の try を a little too hard が修飾し、「誠実であろうと少し頑張り過ぎてしまう」という意味を表している。
- ・ which は非制限用法の関係代名詞で、先行詞は try a little too hard to be sincere の内容。
- ・ they are lying は can reveal の目的語の名詞節。
- ・ when you are trying ... は can reveal を修飾している。

以上から、「ウソをつくことから得ることの多い人々、つまりモチベーションの高いウソつきは誠実であろうと少し頑張り過ぎてしまうようだが、それゆえに、聞いている側が発言の中に真実を見出そうとして、いるときウソをついていることがばれてしまうことがあるのだ」という訳が得られる。

問4 下線部和訳問題 ★★☆☆

(4) this causes many of the facial cues used to detect deceit to be useless (this の具体的な内容を明らかにして)

《語句》

- ・ cause O to do 「Oが…する原因となる、Oに…させる」
- ・ facial cues 「表情の手がかり」
- ・ detect O 「Oを見抜く、Oを見破る」
- ・ useless 「役に立たない」

《ポイント》

- ・ this は直前文にある that 節の「ウソつきにはごまかしがうまく、誠実そうな表情でウソをつける者が多い」という内容を指している。
- ・ cause の目的語が many of the facial cues used to detect deceit 「ウソを見抜くのに用いられる表情の

手がかりの多く」と長くなっている。

- ・ used to detect deceit は the facial cues を後ろから修飾している過去分詞句。

以上から、「多くのウソつきはごまかしがうまく、誠実そうな表情でウソをつくことができるため、ウソを見抜くのに用いられる表情の手がかりの多くが役に立たなくなってしまう」と訳せばよい。

問5 内容説明問題 ★★☆☆

(5) these behaviors の具体的内容を3つ列挙せよ。

第16文中に「多くの人は相手がウソをついているのではないかと疑った場合にどんな手がかりを探すべきかを教えられてきた。例えば、目を合わせないこと、口ごもること、ひどく汗をかくことである」とある。すると、第17文にある下線部(5)の these behaviors は必然的に第16文に示された3つの行動を指すことになる。したがって、解答は「目を合わせないこと」「口ごもること」「ひどく汗をかくこと」を箇条書きで記せばよい。

問6 下線部和訳問題 ★★☆☆

(6) Honesty, while the best policy, is something that is not always an essential part of each relationship, business or personal.

【語句】

- ・ honesty 「正直」
- ・ the best policy 「最良の策」

⑥ 英作文

A 和文英作文

【解答例】

(1) When I say so, most of my classmates object that it only looks as if it were laughing.

【別解】 When I say that, the majority of my classmates argue against it, saying that it only looks as though it is laughing.

(2) it is well known that dogs are able to sense what their owner is thinking.

【別解】 dogs are famous for their ability to tell what their master intends to do.

【配点】(20点)

(1) 10点 (2) 10点

【設問別解説】

(1) ★★☆☆

「僕がそう言う」と

When I say so

- ・ 「そう言う」は say を使って say so または say that とする。tell は目的語に人を必要とするので tell so や tell that は不可。

- ・ essential 「なくてはならない、欠かすことのできない」

- ・ part 「部分、要素」

- ・ relationship 「(人間)関係」

《ポイント》

- ・ Honesty が主語。

- ・ while the best policy は挿入されている譲歩節で、while の後に it is を補ってみるとよい。Honesty is the best policy. 「正直は最良の策」ということわざを踏まえている。

- ・ that is not ... business or personal は something を先行詞とする関係詞節。この something を訳すと、「常にそれぞれの関係にとってなくてはならない部分[要素]であるとは限らないもの」ようになるが、無理に訳出せず、「常にそれぞれの関係にとってなくてはならない部分[要素]だとは限らない」とするほうが自然。

- ・ not always ... は部分否定で、「常に[いつも]...とは限らない」「常に[いつも]...というわけではない」のように訳出する。

- ・ business or personal は譲歩的で、whether it is a business relationship or a personal relationship と考えればよい。

以上から、「正直は最良の策ではあるが、仕事であれプライベートであれ、常にそれぞれの関係にとってなくてはならない部分[要素]だとは限らない」と訳せばよい。

- ・ 接続詞は「言ったとき」と考えて when ... とするのが自然。

「クラスメートの大半は…だと反論する」
most of my classmates object that ...

- ・ 「Aの大半」は most of A または the majority of A と表現する。A に my classmates を置けばよい。
- ・ 「…だと反論する」を1語の動詞で表現するなら object を用いて object that ... とすればよい。object

を知らない場合は「僕の意見に反対して…だと言う」
とか「…だと言って僕の考えに異論を唱える」の
ように動詞を2つに分けて考えるとわかりやすい。例
えば、disagree with A「Aに賛成しない」と argue
that …「…と論じる」を組み合わせるとか、argue
against A「Aに異論を唱える」と say that …「…
と言う」を組み合わせると別解のようにうまく表現
できる。

「笑っているように見えるだけ」
it only looks as if it were laughing

- ・「笑う」は laugh を用いる。smile「微笑む」は笑いの種類に言及することになるので、ここでは laugh のほうがよい。
- ・「…のように見える」は look や seem が考えられるが、ここは視覚のみに基づく判断を表しているのだから look が望ましい。
- ・it looks as if [though] … で「まるで…のように見える」という意味。as if [though] に続く節は仮定法でも直説法でもよいので、it only looks as if [though] it (=my dog) were [was/is] laughing となる。

(2) ★★

「…はよく知られている」
it is well known that …

- ・it is well known that … で「…はよく知られている」の意味。他に、it is a well-known fact that … としてもよい。a well-known fact の well-known

は形容詞なので原則としてハイフンが必要である。
・「犬」を主語に出して「犬は…する能力で知られている」と考えれば、be well known [famous / noted / renowned] for A「Aで有名である、名高い」という表現を用いて dogs are well known [famous / noted / renowned] for their ability … と表現することもできる。

「犬には…を察知する能力がある」
dogs are able to sense …

- ・「能力がある」は have the ability to do という表現があるが、単に「…できる」と考えて can do または be able to do でも十分。
- ・「察知する」は「感じ取る、気づく」と考えて sense を用いるのが最適。「わかる」と考えて tell を用いてもよいが、この意味の tell は通例 can や be able to などを伴う。

「飼い主が考えていること」
what their owner is thinking

- ・「飼い主」は owner か master を用いる。ここでは単数・複数どちらも可能。
- ・「考えていること」は関係代名詞 what を使って what S is thinking と表現できる。あるいは have O on one's mind「Oのことを考えている」を用いて what their master has on his mind としてもよい。また、「飼い主がしようと思っていること」と考えて what their owner intends to do という表現も可能である。

B 自由英作文

【解答例】

- (1) but I can't because I have to prepare for the math exam (12語)
but I have to finish a paper on sexual discrimination in the workplace by Wednesday (15語)
- (2) She's fond of Mozart and always listens to his operas on her mp3 player (14語)
I'm sure she loves classical music because she always carries a violin case (13語)

【配点】(20点)

(1) 10点 (2) 10点

【会話文の訳】

ルーシー：こんにちは、ジューン。明日のクラシック・コンサートのチケットが1枚あまっているんだけど、行かない？

ジューン：行きたい。(1) _____。
ジェームズ教授はとっても厳しいのよね。

ルーシー：そう、あの先生は毎年多くの学生を落第させるそうよ。

ジューン：それは言わないで。とにかく、私じゃなくてケイトを誘ってみたらどう？

(2) _____大学の行き帰りに。
ルーシー：まあ、そうだったの！ 電話してみるわ。ありがとう。

【設問別解説】

(1) ★☆☆

《方針》

クラシックのコンサートに誘われたジューンは I'd love to「行きたい」と答えてはいるが、2回目の発言

で自分ではなくケイトを誘ってみたらどうかと提案しているの、結局は誘いを断っていることがわかる。空所でその理由を述べることになるが、直後の「ジェームズ教授はとても厳しいのよね」という発言から、授業の予習、試験の準備、あるいはレポートの提出などが考えられる。なお、I'd love to, 「行きたい」に続けて断るのだから、逆接の but で始めなければいけない。また、文の途中なので小文字で書き始めること。

《表現》

まず but I can't 「でも行けない」と述べてから because ... と続けてもいいし、すぐに理由を述べてもよい。例えば、「明日の予習をする」なら prepare for tomorrow's lesson(s), 「来週の試験の準備をする」なら prepare for the examination next week, 「Aに関するレポートを仕上げる[書く]」なら finish (off) [write] a paper on A とすればよい。Aにレポートのテーマがくるが、解答例の sexual discrimination in the workplace は「職場の男女差別」という意味。これらを「…で忙しい」be busy doing と組み合わせて、例えば I'm busy preparing for the next exam 「今度の試験の準備で忙しい」などとすることもできる。

(2) ★★☆☆

《方針》

ジューンはケイトを誘うように勧めているので、その理由を述べるのが自然な流れだが、空所の発言に対してルーシーがケイトを誘う意思を示していることから、ケイトがクラシック音楽に興味があることがわかるような内容が求められる。さらに、空所に入る文の最後が on her way to and from college 「大学の行き帰りに」となっているので、電車やバスに乗っているときか歩行中にできる行動でなくてはならない。具体的には、携帯プレーヤーで音楽を聴く、音楽の本を読む、友人と音楽についての会話をすることなどが考えられる。なお、空所(2)は独立した文なので大文字で書き始めることに注意。

《表現》

例えば、「mp3 プレーヤーでクラシック音楽を聴く」なら, listen to classical music on an [her] mp3 player とする。mp3 プレーヤーではなく iPod なら on an [her] iPod とすればよい。「クラシック音楽の雑誌を読む」なら read a magazine on classical music, 「バッハやベートーヴェンについて友人と話す」なら talk about Bach or Beethoven with her friends, 「バイオリンケースを持ち歩く」なら carry a violin case などとなる。

これらの表現だけで語数が満たせなければ、「彼女はモーツァルトが大好きで…」 She is very fond of

Mozart and ... とか、「彼女は絶対にクラシック音楽が好きよ。なぜなら…」 I'm sure she likes classical music because ... などと導入部を作っておいてから、前述の具体的な行動を書くといい。

模試を受験された後の学習のために、自宅で「リスニングテスト」の音声聴くことができます。以下の Kei-Net ホームページをご参照ください。

<http://www.keinet.ne.jp/web/taisaku/listen/>

※お聴きいただくには、Kei-Net 会員の登録(無料)が必要です。

【数 学】

解答の理解に役立つように、

右欄に

枠囲み

… 解答で用いた公式、



… 解答を読む上で参考になる式、考え方、式の変形、図

解答の途中に

道しるべ

… 解法の糸口

を載せています。

1 【数学 I 図形と計量 / 2 次関数】

[1]

三角形 ABC において、

$$BC=4, AC=b, AB=c$$

とし、外接円の半径は $\frac{4\sqrt{3}}{3}$ とする。

- (1) $\sin \angle BAC$ の値を求めよ。
- (2) 三角形 ABC の面積を b, c を用いて表せ。
- (3) $\angle BAC$ が鋭角で、三角形 ABC の面積が $2\sqrt{3}$ であるとき、 $b+c$ の値を求めよ。

[2]

a を実数の定数とし、2 次関数 $y=x^2-2ax+2a^2-a-2$ のグラフを C とする。

- (1) C の頂点の座標を求めよ。
- (2) C が x 軸と異なる 2 点で交わるような定数 a の値の範囲を求めよ。
- (3) C が x 軸の $-2 < x < 2$ の部分と異なる 2 点で交わるような定数 a の値の範囲を求めよ。

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

[1] (1) 6 点 (2) 6 点 (3) 13 点

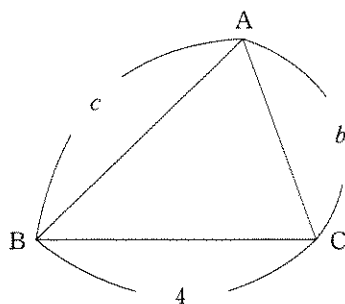
[2] (1) 5 点 (2) 7 点 (3) 13 点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

[1] (1) 基本 (2) 基本 (3) 応用

[2] (1) 基本 (2) 標準 (3) 応用

[1]



- (1) 三角形 ABC の外接円の半径を R として、正弦定理を用いると、

$$\frac{BC}{\sin \angle BAC} = 2R.$$

したがって、 $BC=4$ 、 $R=\frac{4\sqrt{3}}{3}$ より、

$$\sin \angle BAC = \frac{BC}{2R}$$

$$= \frac{4}{2 \cdot \frac{4\sqrt{3}}{3}}$$

$$= \frac{3}{2\sqrt{3}}$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{2}.$$

…(答)

- (2) 三角形 ABC の面積を S とおくと、

$$S = \frac{1}{2} \cdot AC \cdot AB \sin \angle BAC.$$

$AC=b$ 、 $AB=c$ と (1) の結果である $\sin \angle BAC = \frac{\sqrt{3}}{2}$ より、

$$S = \frac{1}{2} bc \cdot \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{4} bc.$$

…(答)

- (3)

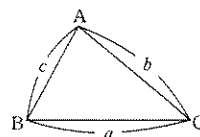
道しるべ

三角形 ABC に余弦定理を用いて、 $b+c$ と bc の関係式を作る。

(1) の結果より、 $\sin \angle BAC = \frac{\sqrt{3}}{2}$ であるから、

$$\angle BAC = 60^\circ \text{ または } 120^\circ.$$

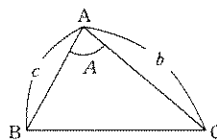
正弦定理



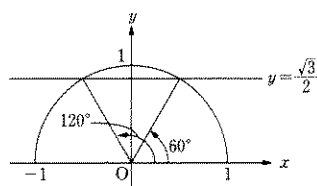
$$\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R.$$

(R は三角形 ABC の外接円の半径)

三角形の面積



$$\triangle ABC = \frac{1}{2} bc \sin A.$$



∠BAC は鋭角であるから、

$$\angle BAC = 60^\circ.$$

また、三角形 ABC に余弦定理を用いると、

$$BC^2 = AC^2 + AB^2 - 2AC \cdot AB \cos \angle BAC$$

であるから、 $BC=4$, $AC=b$, $AB=c$, $\angle BAC=60^\circ$ より、

$$4^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos 60^\circ.$$

$$16 = b^2 + c^2 - 2bc \cdot \frac{1}{2}.$$

$$b^2 + c^2 - bc = 16.$$

$$(b+c)^2 - 2bc - bc = 16.$$

$$(b+c)^2 - 3bc = 16. \quad \dots \textcircled{1}$$

一方、三角形 ABC の面積は $2\sqrt{3}$ より、(2) の結果である

$S = \frac{\sqrt{3}}{4}bc$ に代入すると、

$$2\sqrt{3} = \frac{\sqrt{3}}{4}bc.$$

$$bc = 2\sqrt{3} \cdot \frac{4}{\sqrt{3}}$$

$$= 8.$$

これを、① に代入すると、

$$(b+c)^2 - 3 \cdot 8 = 16.$$

$$(b+c)^2 = 40.$$

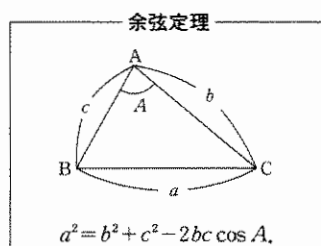
したがって、 $b+c > 0$ より、

$$b+c = \sqrt{40}$$

$$= 2\sqrt{10}.$$

…(答)

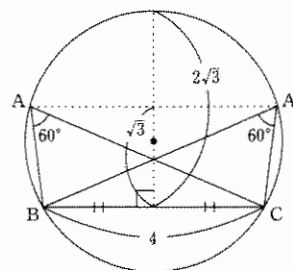
- ◆ ∠BAC は鋭角より、
 $0^\circ < \angle BAC < 90^\circ$.



- ◆ $\cos 60^\circ = \frac{1}{2}.$

- ◆ $b^2 + c^2 - bc$ は、 $b+c$ と bc で表すことができる。

- ◆ このとき、三角形 ABC は次のようになっている。



[2]

(1) $f(x)=x^2-2ax+2a^2-a-2$ とすると、

$$f(x)=(x-a)^2+a^2-a-2$$

となるから、 C の頂点の座標は、

$$(a, a^2-a-2), \quad \dots(\text{答})$$

(2) (1)の結果より、 C は、

頂点の座標が (a, a^2-a-2) である下に凸の放物線である。

よって、 C が x 軸と異なる2点で交わる条件は、

$$(\text{頂点の } y \text{ 座標}) < 0$$

であるから、

$$a^2-a-2 < 0,$$

$$(a+1)(a-2) < 0,$$

$$-1 < a < 2, \quad \dots(\text{答})$$

【(2)の別解】

放物線

$$C: y=x^2-2ax+2a^2-a-2$$

と x 軸の共有点の x 座標は、2次方程式

$$x^2-2ax+2a^2-a-2=0 \quad \dots\textcircled{1}$$

の実数解である。

よって、 C が x 軸と異なる2点で交わる条件は、

「 $\textcircled{1}$ が異なる2つの実数解をもつこと」

であるから、 $\textcircled{1}$ の判別式を D とすると、

$$D > 0$$

である。

ここで、 $\textcircled{1}$ の判別式 D は、

$$D=(-2a)^2-4(2a^2-a-2)$$

$$=4a^2-4(2a^2-a-2)$$

$$=-4(a^2-a-2)$$

であるから、 $D > 0$ より、

$$-4(a^2-a-2) > 0,$$

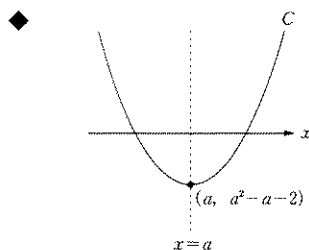
これを解くと、

$$a^2-a-2 < 0,$$

$$(a+1)(a-2) < 0,$$

$$-1 < a < 2,$$

((2)の別解終り)



◆ a, β が $a < \beta$ を満たす定数のとき、2次不等式

$$(x-a)(x-\beta) < 0$$

の解は、

$$a < x < \beta.$$

— 2次方程式の解の判別 —

2次方程式 $ax^2+bx+c=0$ の

解は、

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2-4ac}}{2a}$$

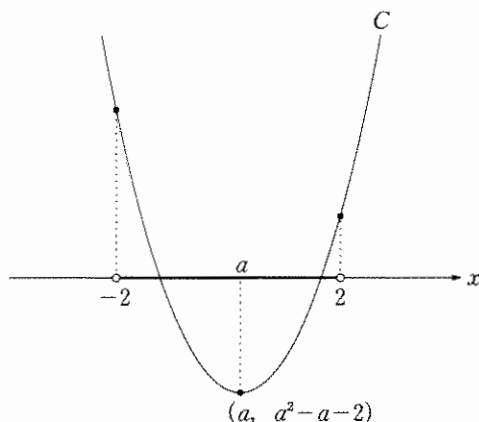
であるから、 $ax^2+bx+c=0$ の解は判別式 $D (=b^2-4ac)$ の符号によって次のように分類される。

$$\begin{cases} D > 0 \iff \text{異なる2つの実数解をもつ,} \\ D = 0 \iff \text{(実数の)重解をもつ,} \\ D < 0 \iff \text{実数解をもたない.} \end{cases}$$

(3)

道しるべ

条件を満たすグラフをかいて考える。



C が x 軸の $-2 < x < 2$ の部分と異なる2点で交わるのは、 C のグラフが上のようなときで、その条件は、

- $$\begin{cases} \text{(ア)} & C \text{が} x \text{軸と異なる2点で交わる,} \\ \text{(イ)} & C \text{の軸が} -2 < x < 2 \text{の部分にある,} \\ \text{(ウ)} & f(-2) > 0, \\ \text{(エ)} & f(2) > 0 \end{cases}$$

◆ $C: y=f(x).$

がすべて成り立つことである。

(ア) C が x 軸と異なる2点で交わるような a の値の範囲は、

(2)の結果より、

$$-1 < a < 2. \quad \cdots \text{②}$$

(イ) C の軸が $-2 < x < 2$ の部分にあるような a の値の範囲は、 C の軸が $x=a$ であることから、

$$-2 < a < 2. \quad \cdots \text{③}$$

(ウ) $f(-2) > 0$ となるような a の値の範囲を考える。

$$f(x) = x^2 - 2ax + 2a^2 - a - 2 \text{ より,}$$

$$f(-2) = (-2)^2 - 2a \cdot (-2) + 2a^2 - a - 2$$

$$= 2a^2 + 3a + 2$$

であるから、 $f(-2) > 0$ となるためには、

$$2a^2 + 3a + 2 > 0$$

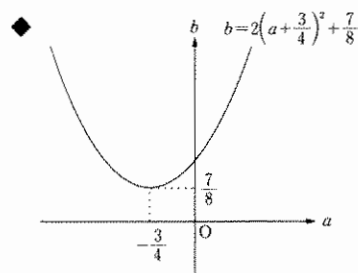
が成り立てばよい。この2次不等式は、左辺を変形すると、

$$2\left(a + \frac{3}{4}\right)^2 + \frac{7}{8} > 0$$

となるから、すべての実数 a に対して成り立つことがわかる。

したがって、 $f(-2) > 0$ となるような a の値の範囲は、

すべての実数。



(エ) $f(2) > 0$ となるような a の値の範囲を考える.

$$f(x) = x^2 - 2ax + 2a^2 - a - 2 \text{ より,}$$

$$f(2) = 2^2 - 2a \cdot 2 + 2a^2 - a - 2$$

$$= 2a^2 - 5a + 2$$

であるから, $f(2) > 0$ となるためには,

$$2a^2 - 5a + 2 > 0$$

が成り立てばよい. この 2 次不等式は, 左辺を変形すると,

$$(2a-1)(a-2) > 0$$

となるから, $f(2) > 0$ となるような a の値の範囲は,

$$a < \frac{1}{2}, \quad 2 < a. \quad \cdots \textcircled{4}$$

すべての実数 a に対して (ウ) の条件は成り立つから, (ア), (イ), (エ) の条件がすべて満たされるような a の値の範囲を求めればよく, ②, ③, ④ より,

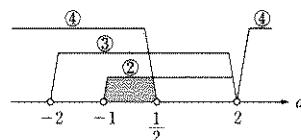
$$-1 < a < \frac{1}{2}. \quad \cdots (\text{答})$$

◆ α, β が $\alpha < \beta$ を満たす定数のとき, 2 次不等式

$$(x-\alpha)(x-\beta) > 0$$

の解は,

$$x < \alpha, \quad \beta < x.$$



2 【数学 I 2 次関数】

a を実数の定数とする. x の関数

$$f(x) = (x^2 - 2x)^2 - 2a(x^2 - 2x) + 4$$

について考える.

- (1) $t = x^2 - 2x$ とするとき, t の最小値を求めよ.
- (2) $f(x)$ の最小値 m を a を用いて表せ.
- (3) すべての実数 x に対して, $f(x) \geq 0$ となるような a の値の範囲を求めよ.

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

- (1) 8点 (2) 22点 (3) 20点

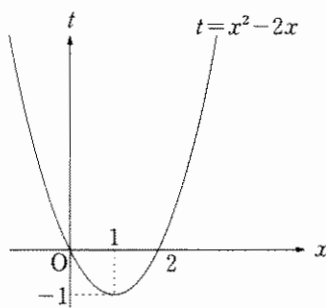
● ● ● 問題のレベル ● ● ●

- (1) 基本 (2) 応用 (3) 発展

解 答

$$\begin{aligned} (1) \quad t &= x^2 - 2x \\ &= (x-1)^2 - 1. \end{aligned}$$

$t = x^2 - 2x$ のグラフを xt 平面に図示すると, 次のようになる.



よって, t の最小値は,

$$-1 \quad (x=1 \text{ のとき}), \quad \dots(\text{答})$$

(2) **道しるべ**

$f(x)$ を t を用いて表し, t の関数として考える.
その際, t の変域に注意する.

$f(x)$ を $t (=x^2 - 2x)$ で表した関数を $g(t)$ とすると,

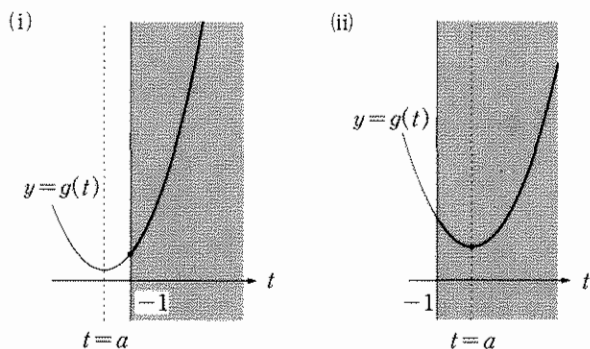
$$\begin{aligned} g(t) &= t^2 - 2at + 4 \\ &= (t-a)^2 - a^2 + 4. \end{aligned}$$

すべての実数 x に対する t の変域は, (1) のグラフより,

$$t \geq -1 \quad \dots\text{①}$$

であるから、この範囲における $g(t)$ の最小値が m である。

①の範囲と $y=g(t)$ の軸 $t=a$ の位置関係に着目し、次のように場合分けをして考える。



(i) $a < -1$ のとき、

上の図より、 $g(t)$ は $t=-1$ において最小となり、最小値 m は、

$$\begin{aligned} m &= g(-1) \\ &= 2a+5. \end{aligned}$$

(ii) $a \geq -1$ のとき、

上の図より、 $g(t)$ は $t=a$ において最小となり、最小値 m は、

$$\begin{aligned} m &= g(a) \\ &= -a^2+4. \end{aligned}$$

以上より、 $f(x)$ の最小値 m は、

$$m = \begin{cases} 2a+5 & (a < -1 \text{ のとき}), \\ -a^2+4 & (a \geq -1 \text{ のとき}). \end{cases} \quad \dots(\text{答})$$

(3)

道しるべ

$f(x)$ の最小値 m に着目する。

すべての実数 x に対して $f(x) \geq 0$ となるのは、 $f(x)$ の最小値 m が、

$$m \geq 0$$

を満たすときである。

(2)の結果より、

$$m = \begin{cases} 2a+5 & (a < -1 \text{ のとき}), \\ -a^2+4 & (a \geq -1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

であるから、 a の値で場合分けをして考える。

(i) $a < -1$ のとき、

$$\begin{aligned} m &= 2a+5 \text{ より、} m \geq 0 \text{ に代入すると、} \\ 2a+5 &\geq 0. \end{aligned}$$

◆ 場合分けは、

$$\begin{cases} \text{(i)} & a \leq -1, \\ \text{(ii)} & a > -1 \end{cases}$$

または、

$$\begin{cases} \text{(i)} & a \leq -1, \\ \text{(ii)} & a \geq -1 \end{cases}$$

などでもよい。

$$\begin{aligned} \text{◆ } g(t) &= t^2 - 2at + 4 \\ &= (t-a)^2 - a^2 + 4. \end{aligned}$$

$$a \geq -\frac{5}{2}.$$

これと $a < -1$ より, $m \geq 0$ を満たす a の値の範囲は,

$$-\frac{5}{2} \leq a < -1. \quad \dots \textcircled{2}$$

(ii) $a \geq -1$ のとき,

$m = -a^2 + 4$ より, $m \geq 0$ に代入すると,

$$-a^2 + 4 \geq 0,$$

$$a^2 - 4 \leq 0,$$

$$(a+2)(a-2) \leq 0,$$

$$-2 \leq a \leq 2.$$

これと $a \geq -1$ より, $m \geq 0$ を満たす a の値の範囲は,

$$-1 \leq a \leq 2. \quad \dots \textcircled{3}$$

以上, (i), (ii) より, 求める a の値の範囲は, ② または ③ であるから,

$$-\frac{5}{2} \leq a \leq 2. \quad \dots (\text{答})$$

【(3) の別解】

すべての実数 x に対して, $f(x) \geq 0$ となるのは, $f(x)$ の最小値 m が,

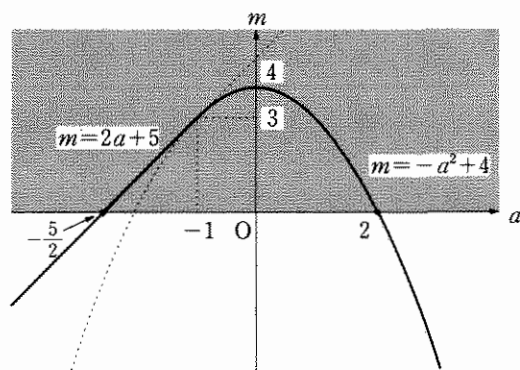
$$m \geq 0$$

を満たすときである。そこで, am 平面上に,

$$m = \begin{cases} 2a+5 & (a < -1 \text{ のとき}), \\ -a^2+4 & (a \geq -1 \text{ のとき}) \end{cases} \quad \dots (*)$$

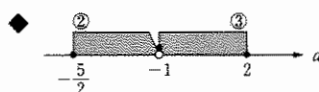
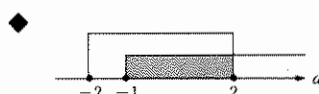
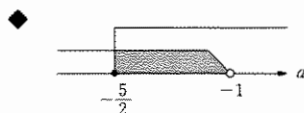
のグラフをかき, $m \geq 0$ を満たすような a の値の範囲を考える。

(*) のグラフは次の図の太線であり, $m \geq 0$ を満たすのは, 網掛け部分である。



$m = 2a + 5$ ($a < -1$) と a 軸との交点の a 座標は,

$$2a + 5 = 0.$$



$$a = -\frac{5}{2}.$$

(これは $a < -1$ を満たす)

また, $m = -a^2 + 4$ ($a \geq -1$) と a 軸の交点の a 座標は,

$$-a^2 + 4 = 0 \quad \text{かつ} \quad a \geq -1$$

より,

$$a = 2.$$

したがって, 求める a の値の範囲は,

$$-\frac{5}{2} \leq a \leq 2.$$

((3) の別解終り)

3 【数学 I 図形と計量】

図のような正四角錐 O - $ABCD$ があり、

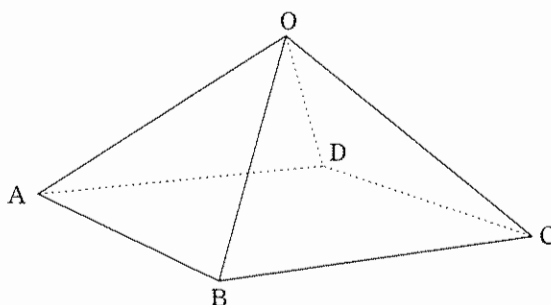
$$AB=BC=CD=DA=2, \quad OA=OB=OC=OD=\sqrt{3}$$

である。底面 $ABCD$ の対角線の交点を H とする。

球面 S があり、 S は正四角錐の底面 $ABCD$ と H で接し、さらに、4つの辺 OA , OB , OC , OD のすべてに接している。

このとき、 S の一部は、4つの側面の三角形 OAB , OBC , OCD , ODA から、正四角錐の外部へはみ出している。

- (1) 三角形 OAC の面積を求めよ。
- (2) S の半径を求めよ。
- (3) 正四角錐 O - $ABCD$ の側面の1つである三角形 OAB において、球面 S の内部にある部分を T とする。 T の面積を求めよ。



● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

- (1) 10点 (2) 15点 (3) 25点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

- (1) 基本 (2) 応用 (3) 発展

解 答

- (1) 三角形 ABC は、 $\angle ABC=90^\circ$ の直角三角形であるから、三平方の定理より、

$$AB^2+BC^2=AC^2,$$

$$2^2+2^2=AC^2,$$

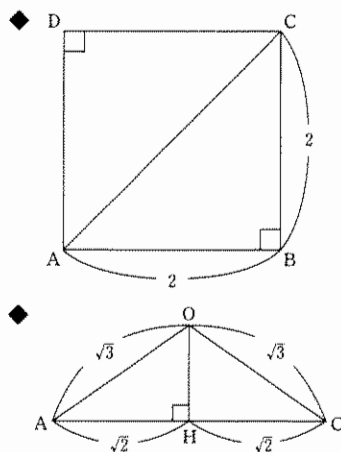
$$AC^2=8,$$

$AC>0$ より、

$$AC=2\sqrt{2}.$$

したがって、三角形 OAC は、 $OA=OC=\sqrt{3}$, $AC=2\sqrt{2}$ の二等辺三角形である。

また、四角形 $ABCD$ は正方形より、 H は線分 AC の中点で



あるから、 $AC \perp OH$ となる。

よって、三角形 OAH において、三平方の定理より、

$$AH^2 + OH^2 = OA^2.$$

$$AH = \frac{1}{2}AC = \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{2} = \sqrt{2}, \quad OA = \sqrt{3} \text{ より,}$$

$$(\sqrt{2})^2 + OH^2 = (\sqrt{3})^2.$$

$$OH^2 = 1.$$

$OH > 0$ より、

$$OH = 1.$$

したがって、三角形 OAC の面積 $\triangle OAC$ は、

$$\triangle OAC = \frac{1}{2}AC \cdot OH$$

$$= \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{2} \cdot 1$$

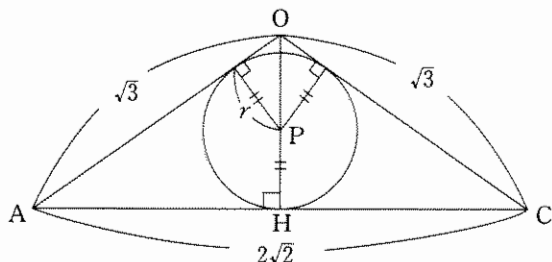
$$= \sqrt{2}.$$

…(答)

(2)

道しるべ

平面 OAC で球面 S を切ってみる。



球面 S の中心を P、半径を r とする。

「 $OH \perp$ 平面 ABCD かつ $PH \perp$ 平面 ABCD」

より、P は線分 OH 上にある。

よって、球面 S を平面 OAC で切ると、上の図のように、切り口は中心 P、半径 r の円であり、この円は三角形 OAC の内接円である。

…(*)

したがって、

$$\triangle OAC = \frac{1}{2}r(OA + AC + CO)$$

が成り立つから、(1) の結果である $\triangle OAC = \sqrt{2}$ より、

$$\sqrt{2} = \frac{1}{2}r(\sqrt{3} + 2\sqrt{2} + \sqrt{3}).$$

$$(\sqrt{3} + \sqrt{2})r = \sqrt{2}.$$

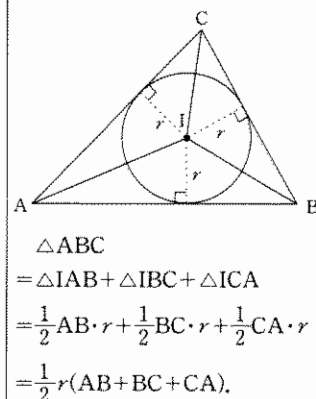
よって、

$$r = \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3} + \sqrt{2}}$$

◆ S は、H で底面 ABCD に接しているから、

$PH \perp$ 平面 ABCD.

三角形の内接円と面積



$\triangle ABC$

$$= \triangle IAB + \triangle IBC + \triangle ICA$$

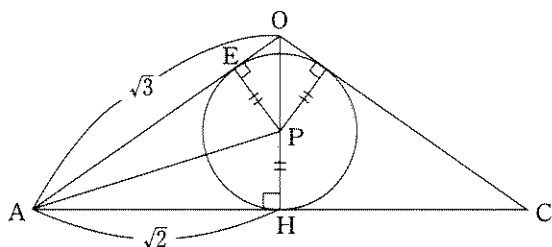
$$= \frac{1}{2}AB \cdot r + \frac{1}{2}BC \cdot r + \frac{1}{2}CA \cdot r$$

$$= \frac{1}{2}r(AB + BC + CA).$$

$$\begin{aligned}
 &= \frac{\sqrt{2}(\sqrt{3}-\sqrt{2})}{(\sqrt{3}+\sqrt{2})(\sqrt{3}-\sqrt{2})} \\
 &= \sqrt{2}(\sqrt{3}-\sqrt{2}) \\
 &= \sqrt{6}-2.
 \end{aligned}$$

…(答)

【(2)の(*)以降の別解】



三角形 OAH において,

$$\tan \angle AOH = \frac{AH}{OH} = \frac{\sqrt{2}}{1} = \sqrt{2}.$$

また, $\triangle PAE \equiv \triangle PAH$ であるから,

$$AE = AH = \sqrt{2}.$$

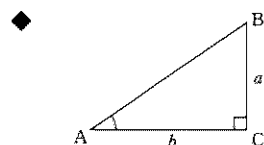
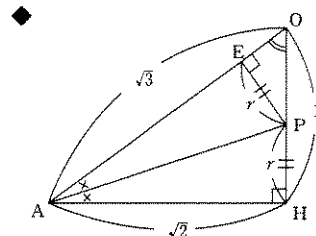
よって,

$$OE = OA - AE = \sqrt{3} - \sqrt{2}.$$

三角形 OEP において,

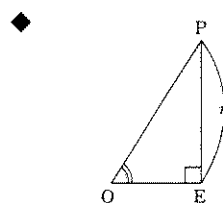
$$\begin{aligned}
 r &= PE \\
 &= OE \tan \angle EOP \\
 &= OE \tan \angle AOH \\
 &= (\sqrt{3} - \sqrt{2})\sqrt{2} \\
 &= \sqrt{6} - 2.
 \end{aligned}$$

((2)の(*)以降の別解終り)



直角三角形 ABC において,

$$\tan A = \frac{a}{b}.$$



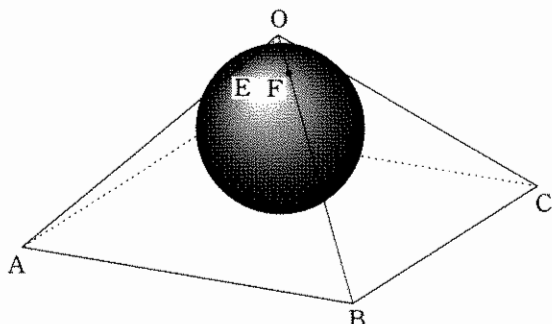
$$\tan \angle EOP = \frac{PE}{OE} \text{ より,}$$

$$PE = OE \tan \angle EOP.$$

(3)

道しるべ

一般に、平面と球面の交わりは円である。そこで、「球面 S と平面 OAB の交わりの円」と三角形 OAB の位置関係を考える。



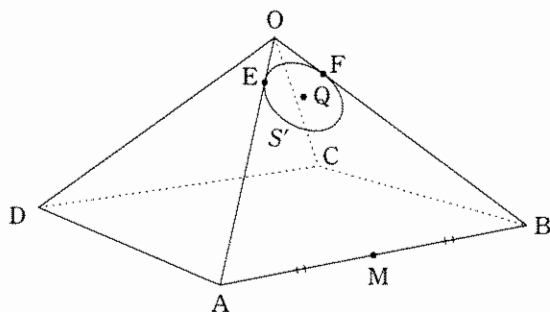
球面 S と辺 OA , OB の接点をそれぞれ E , F とすると、三角形 OAB と球面 S の交わりは、

「平面 OAB 上にあって、

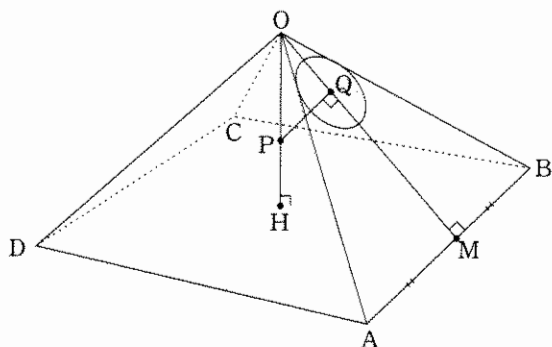
辺 OA と点 E で、辺 OB と点 F で接する円」

である。

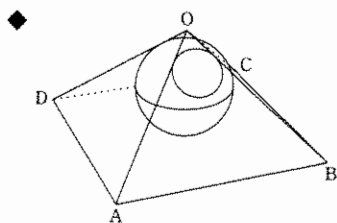
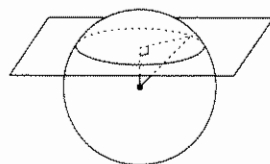
この円を S' とし、 S' の中心を Q 、半径を r' 、線分 AB の中点を M とする。

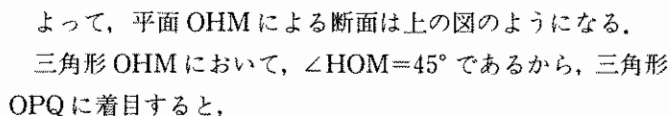


線分 PQ は平面 OAB に垂直で、さらに対称性から Q は線分 OM 上にある。



◆ 球面を平面で切れば、切り口は円である。





S' 上の 1 点を R とおくと、三角形 PQR は $\angle PQR = 90^\circ$ の
直角三角形であるから三平方の定理より、

側面 OAB において球面 S の内部にある部分とは、円 S' の内部のことであるから、 T の面積は、

【(3) の別解】

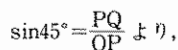
側面の三角形 OAB を考える.

球面 S と辺 OA , OB の接点をそれぞれ E , F とすると、
三角形 OAB と球面 S の交わりは、

「平面 OAB 上」にあって、

辺 OA と点 E で、辺 OB と点 F で接する円

である。

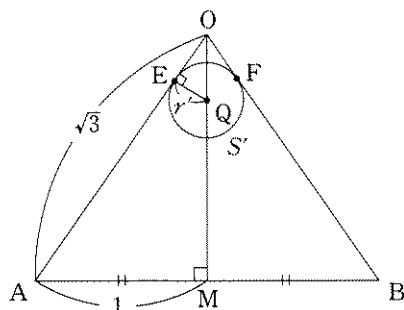


と表せて、 $r' > 0$ より、

$$r' = \frac{\sqrt{3} - \sqrt{2}}{\sqrt{2}}$$

$$= \frac{\sqrt{6} - 2}{2}.$$

この円を S' 、その中心を Q 、半径を r' 、線分 AB の中点を M とすると、対称性から Q は線分 OM 上にあり次の図のようになる。



ここで、 $\triangle PAE \equiv \triangle PAH$ であるから、

$$AE = AH = \sqrt{2}.$$

また、三角形 OAM において、三平方の定理より、

$$AM^2 + OM^2 = OA^2.$$

$$1^2 + OM^2 = (\sqrt{3})^2.$$

$$OM^2 = 2.$$

$OM > 0$ より、

$$OM = \sqrt{2}.$$

これより、三角形 OAM において、

$$\tan \angle AOM = \frac{AM}{OM} = \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{2}}{2}.$$

また、 $OA = \sqrt{3}$ 、 $AE = \sqrt{2}$ より、

$$OE = OA - AE$$

$$= \sqrt{3} - \sqrt{2}.$$

よって、三角形 OEQ において、

$$r' = EQ$$

$$= OE \tan \angle EOQ$$

$$= OE \tan \angle AOM$$

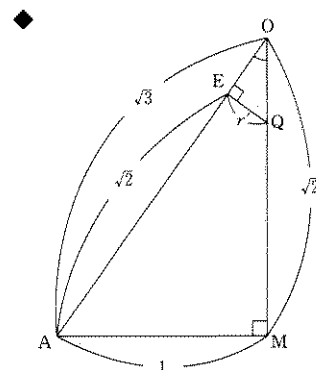
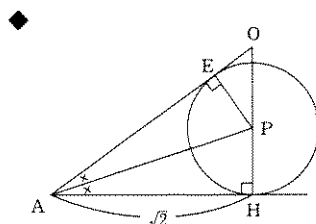
$$= (\sqrt{3} - \sqrt{2}) \cdot \frac{\sqrt{2}}{2}$$

$$= \frac{\sqrt{6}}{2} - 1.$$

側面 OAB において、球面 S の内部にある部分とは、円 S' の内部のことであるから、 T の面積は、

$$\begin{aligned} \pi(r')^2 &= \pi \left(\frac{\sqrt{6}}{2} - 1 \right)^2 \\ &= \pi \left(\frac{6}{4} - \sqrt{6} + 1 \right) \\ &= \frac{5 - 2\sqrt{6}}{2} \pi. \end{aligned}$$

((3) の別解終り)



◆ r' は次のように考えてもよい。

$\triangle OEQ \sim \triangle OMA$ より、

$$OE : OM = EQ : MA.$$

よって、

$$(\sqrt{3} - \sqrt{2}) : \sqrt{2} = r' : 1.$$

$$\sqrt{2}r' = \sqrt{3} - \sqrt{2}.$$

したがって、

$$\begin{aligned} r' &= \frac{\sqrt{3} - \sqrt{2}}{\sqrt{2}} \\ &= \frac{\sqrt{6}}{2} - 1. \end{aligned}$$

4 【数学A 確率】

一方の面は白色、もう一方の面は赤色になっているカードが6枚ある。この6枚のカードを、白色の面が表になるように、1から6までの番号の付いた場所に横一列に並べる。

1	2	3	4	5	6
白	白	白	白	白	白

この状態から次の〈操作〉を行う。

〈操作〉

1から6までの数字が一つずつ書かれている球が、各数字ごとにそれぞれ2個ずつ計12個入った袋があり、その中から2個の球を同時に取り出す。異なる数字の球が取り出されたときは、球に書かれている数字と同じ数字の場所に置かれているカードを裏返し、同じ数字の球が取り出されたときは、6枚のカードはそのままにしておく。取り出した球は袋の中に戻す。

(1)(i) 1回の〈操作〉の後、カードの表の面がすべて白色である確率を求めよ。

(ii) 1回の〈操作〉の後、カードの表の面が左から順に白、白、白、白、赤、赤である確率を求めよ。

(2) 2回の〈操作〉の後、カードの表の面が左から順に白、白、赤、赤、赤、赤である確率を求めよ。

(3)(i) 2回の〈操作〉の後、カードの表の面がすべて白色である確率を求めよ。

(ii) 3回の〈操作〉の後、カードの表の面がすべて白色である確率を求めよ。

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

(1)(i) 7点 (ii) 8点 (2) 10点 (3)(i) 10点 (ii) 15点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

(1)(i) 基本 (ii) 標準 (2) 標準 (3)(i) 応用 (ii) 発展

解 答

(1)(i) 12個の球をすべて区別して考える。

12個の球の中から2個の球を取り出す方法は全部で、

$${}_{12}C_2 = \frac{12 \cdot 11}{2 \cdot 1} \\ = 66 \text{ (通り)}$$

あり、これらは同様に確からしい。

1回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色であるのは、

「取り出した2個の球に書かれている数字が同じとき」

であり、このような取り出し方は、

◆ 12個の球を

①A, ①B, ②A, ②B, ③A, ③B,
④A, ④B, ⑤A, ⑤B, ⑥A, ⑥B

のように区別して考える。

—— 組合せ ——

n 個の異なるものの中から r 個を取り出すときの取り出し方の総数は、

$${}_nC_r = \frac{n(n-1)(n-2)\cdots(n-r+1)}{r!}.$$

6 通り

である。

よって、1 回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色である確率は、

$$\frac{6}{66} = \frac{1}{11} \quad \dots(\text{答})$$

(ii) 1 回の〈操作〉の後、表の面が左から順に

白、白、白、白、赤、赤

であるのは、

『「5」と書かれた球を1個と「6」と書かれた球を1個取り出すとき』

であり、このような取り出し方は、

$${}_2C_1 \times {}_2C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

ある。

よって、1 回の〈操作〉の後、表の面が左から順に

白、白、白、白、赤、赤

である確率は、

$$\frac{4}{66} = \frac{2}{33} \quad \dots(\text{答})$$

(2) 2 回の〈操作〉において、球の取り出し方は全部で、

$${}_{12}C_2 \times {}_{12}C_2 = 66 \cdot 66 \text{ (通り)}$$

あり、これらは同様に確からしい。

2 回の〈操作〉の後、表の面が左から順に

白、白、赤、赤、赤、赤

であるのは、

『1 回目、2 回目の〈操作〉において、「3」と書かれた球、「4」と書かれた球、「5」と書かれた球、…(*)「6」と書かれた球を1回ずつ取り出すとき』

である。

1 回目の〈操作〉において、2 種類の数字の選び方は、

$${}_4C_2 = 6 \text{ (通り)}$$

あり、それぞれに対して球の取り出し方は、

$${}_2C_1 \times {}_2C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

ある。

2 回目の〈操作〉において、数字の選び方は、1 回目の〈操作〉で選ばれなかった残りの2種類の数字を選ぶから、

$${}_2C_2 = 1 \text{ (通り)}$$

あり、この球の取り出し方は、

$${}_2C_1 \times {}_2C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

ある。

◆ $\{\textcircled{1A}, \textcircled{1B}\}, \{\textcircled{2A}, \textcircled{2B}\}, \{\textcircled{3A}, \textcircled{3B}\}$
 $\{\textcircled{4A}, \textcircled{4B}\}, \{\textcircled{5A}, \textcircled{5B}\}, \{\textcircled{6A}, \textcircled{6B}\}$
の6通りである。

確率

ある試行において N 通りの場合が起こり、これらは同様に確からしいとする。

このうち、事象 A が起こる場合が a 通りあるとき、事象 A の起こる確率は、

$$\frac{a}{N}$$

である。

◆ $\{\textcircled{5A}, \textcircled{6A}\}, \{\textcircled{5A}, \textcircled{6B}\}$
 $\{\textcircled{5B}, \textcircled{6A}\}, \{\textcircled{5B}, \textcircled{6B}\}$
の4通りである。

◆ たとえば、2 種類の数字が「3」、「5」のとき、「3」と書かれた球の取り出し方は $\textcircled{3A}, \textcircled{3B}$ の2通りあり、「5」と書かれた球の取り出し方は $\textcircled{5A}, \textcircled{5B}$ の2通りあるから、取り出し方は、
 ${}_2C_1 \times {}_2C_1 = 4 \text{ (通り)}$
ある。

よって、(*)の取り出し方は、

$$(6 \times 4) \times (1 \times 4) = 24 \cdot 4 \text{ (通り)}$$

ある。

したがって、2回の〈操作〉の後、表の面が左から順に白、白、赤、赤、赤、赤である確率は、

$$\frac{24 \cdot 4}{66 \cdot 66} = \frac{8}{363} \quad \cdots (\text{答})$$

(3)(i)

道しるべ

1回の〈操作〉における白色のカードの枚数の増減に着目する。

1回の〈操作〉において、白色のカードの枚数が

6枚から6枚になる事象を A 、

6枚から4枚になる事象を B 、

4枚から6枚になる事象を C 、

4枚から4枚になる事象を D

として、 A 、 B 、 C 、 D の起こる確率をそれぞれ $P(A)$ 、 $P(B)$ 、 $P(C)$ 、 $P(D)$ とする。

2回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色になるときの白色のカードの枚数の増減は、次の2つの場合がある。

	はじめ		1回後		2回後
(ア)	6枚	→	6枚	→	6枚
		A		A	
(イ)	6枚	→	4枚	→	6枚
		B		C	

まず、3つの確率 $P(A)$ 、 $P(B)$ 、 $P(C)$ をそれぞれ求める。

・ $P(A)$ について。

1回の〈操作〉において、白色のカードの枚数が6枚から6枚になる確率は(1)(i)と同様であるから、

$$P(A) = \frac{1}{11}.$$

・ $P(B)$ について。

1回の〈操作〉において、白色のカードの枚数の増減を考えると、白色のカードの枚数は6枚から、6枚もしくは4枚のいずれかになるから、余事象を考えて、

$$\begin{aligned} P(B) &= 1 - P(A) \\ &= 1 - \frac{1}{11} \\ &= \frac{10}{11}. \end{aligned}$$

◆ $P(B)$ は、次のように考えてもよい。

赤色のカードの枚数が0枚から2枚になるとき、白色から赤色になるカードの選び方は、

$${}_6C_2 = 15 \text{ (通り)}.$$

そのおのおのが起こる確率は(1)(ii)と同じ求め方になるから、

$$\frac{2}{33}.$$

よって、

$$\begin{aligned} P(B) &= 15 \times \frac{2}{33} \\ &= \frac{10}{11}. \end{aligned}$$

・ $P(C)$ について、

1回の〈操作〉において、白色のカードの枚数が4枚から6枚になるのは、赤色のカード2枚がともに白色のカードになるときである。このようになる球の取り出し方は、

$${}_2C_1 \times {}_2C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

あるから、求める確率 $P(C)$ は、

$$P(C) = \frac{4}{66} = \frac{2}{33}.$$

よって、(ア)の確率は、

$$P(A) \times P(A) = \frac{1}{11} \times \frac{1}{11} = \frac{1}{121}.$$

(イ)の確率は、

$$P(B) \times P(C) = \frac{10}{11} \times \frac{2}{33} = \frac{20}{363}.$$

したがって、2回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色である確率は、

$$\frac{1}{121} + \frac{20}{363} = \frac{23}{363}.$$

…(答)

【(3)(i)の別解】

2回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色であるのは、

(ア) 1回目、2回目の〈操作〉において、それぞれ取り出した2個の球に書かれている数字が同じであるとき、

(イ) 1回目の〈操作〉において取り出した2個の球に書かれている数字が異なり、かつ2回目の〈操作〉において取り出した2個の球に書かれている数字が1回目に取り出した2個の球に書かれている数字と同じであるとき
の2つの場合がある。

(ア)のとき、

球の取り出し方は、

$$6 \times 6 = 36 \text{ (通り)}$$

ある。

◆ たとえば、

1	2	3	4	5	6
赤	赤	白	白	白	白



1	2	3	4	5	6
白	白	白	白	白	白

となるときを考える。

このようになる球の取り出し方

は、

$\{①A, ②A\}, \{①A, ②B\}$

$\{①B, ②A\}, \{①B, ②B\}$

の4通りである。

◆ 2個の球に書かれている数字が同じである取り出し方は、

$\{①A, ①B\}, \{②A, ②B\}, \{③A, ③B\}$

$\{④A, ④B\}, \{⑤A, ⑤B\}, \{⑥A, ⑥B\}$

の6通りある。

(イ)のとき、

1回目、2回目の〈操作〉を通して2種類の数字の選び方は、

$${}_6C_2=15 \text{ (通り)}$$

あり、そのおのおのに対して、

・1回目の〈操作〉において球の取り出し方は、

$${}_2C_1 \times {}_2C_1=4 \text{ (通り)},$$

・2回目の〈操作〉において球の取り出し方は、

$${}_2C_1 \times {}_2C_1=4 \text{ (通り)}$$

ある、

よって、(イ)のときの球の取り出し方は、

$$15 \times 4 \times 4=240 \text{ (通り)}$$

ある、

したがって、球の取り出し方は(ウ)、(イ)より、

$$36+240=276 \text{ (通り)}$$

ある、

ゆえに、2回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色である確率は、

$$\frac{276}{66 \cdot 66} = \frac{23}{363}.$$

((3)(i)の別解終り)

(ii)

道しるべ

2回の〈操作〉の後の白色のカードの枚数に着目する、

3回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色になるとき、2回の〈操作〉の後の白色のカードの枚数は、

6枚 または 4枚

であるから、次の2つの場合がある、

	はじめ		2回後		3回後
(ウ)	6枚	→	6枚	→	6枚
			A		
(エ)	6枚	→	4枚	→	6枚
			C		

(ウ)のとき、

2回の〈操作〉の後、白色のカードが6枚となる確率は(3)

(i)の結果より $\frac{23}{363}$ であり、 $P(A)=\frac{1}{11}$ であるから、(ウ)の確率は、

$$\frac{23}{363} \times \frac{1}{11} = \frac{23}{3993}.$$

(エ)のとき、

◆ 1回目の〈操作〉において球の取り出し方は、取り出し方の総数から2個の球に書かれている数字が同じである球の取り出し方の総数を引くと求めることができるから、

$$66-6=60 \text{ (通り)}$$

あり、そのおのおのに対して、2回目の〈操作〉における球の取り出し方は、

$${}_2C_1 \times {}_2C_1=4 \text{ (通り)}$$

ある、

よって、(イ)のときの球の取り出し方は、

$$60 \times 4=240 \text{ (通り)}$$

として求めることもできる、

2回の〈操作〉の後、白色のカードが4枚となるときの白色のカードの枚数の増減は、次の2つの場合がある。

	はじめ		1 回後		2 回後
(あ)	6 枚	→ A	6 枚	→ B	4 枚
(い)	6 枚	→ B	4 枚	→ D	4 枚

(あ)の確率は、

$$P(A) \times P(B).$$

(い)の確率は、

$$P(B) \times P(D).$$

よって、(エ)の確率は、

$$\{P(A) \times P(B) + P(B) \times P(D)\} \times P(C) \quad \cdots (**)$$

となる。

ここで、確率 $P(D)$ を求める。

1回の〈操作〉において、白色のカードの枚数が4枚から4枚になるのは、赤色のカードの場所の番号を r_1, r_2 、白色のカードの場所の番号を w_1, w_2, w_3, w_4 とするとき、次の3つの場合がある。

(I) 取り出した2個の球に書かれている数字が同じであるとき、

(II) 取り出した2個の球に書かれている数字の1つが「 r_1 」で、もう1つが「 w_1 」, 「 w_2 」, 「 w_3 」, 「 w_4 」の中の1つであるとき、

(III) 取り出した2個の球に書かれている数字の1つが「 r_2 」で、もう1つが「 w_1 」, 「 w_2 」, 「 w_3 」, 「 w_4 」の中の1つであるとき。

(I)のとき、

球の取り出し方は、

$$6 \text{ 通り.}$$

(II)のとき、

「 r_1 」と書かれた球の取り出し方が、

$${}_2C_1 = 2 \text{ (通り).}$$

もう1つの数字の選び方が、

$${}_4C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

あり、それぞれに対して球の取り出し方が、

$${}_2C_1 = 2 \text{ (通り).}$$

よって、(II)のような球の取り出し方は、

$$2 \times (4 \times 2) = 16 \text{ (通り).}$$

(III)のとき、

(II)と同様にして、

◆ 「 r_1 」と書かれた球は2個ある。

◆ 「 w_1 」, 「 w_2 」, 「 w_3 」, 「 w_4 」の4通りである。

◆ 「 w_1 」, 「 w_2 」, 「 w_3 」, 「 w_4 」と書かれた球は、それぞれ2個ずつある。

16 (通り).

したがって、1回の〈操作〉において白色のカードの枚数が4枚から4枚になる球の取り出し方は、

$$6+16+16=38 \text{ (通り)},$$

ゆえに、確率 $P(D)$ は、

$$P(D)=\frac{38}{66}=\frac{19}{33}.$$

(エ)の確率は、(**)より、

$$\begin{aligned} & \left(\frac{1}{11} \times \frac{10}{11} + \frac{10}{11} \times \frac{19}{33} \right) \times \frac{2}{33} \\ &= \left(\frac{10}{121} + \frac{190}{363} \right) \times \frac{2}{33} \\ &= \frac{220}{363} \times \frac{2}{33} \\ &= \frac{20}{33} \times \frac{2}{33} \\ &= \frac{40}{1089}. \end{aligned}$$

よって、3回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色である確率は、

$$\begin{aligned} \frac{23}{3993} + \frac{40}{1089} &= \frac{69}{11979} + \frac{440}{11979} \\ &= \frac{509}{11979}. \end{aligned} \quad \dots (\text{答})$$

【(3)(ii)の別解】

3回の〈操作〉において、球の取り出し方は全部で、

$${}_{12}C_2 \times {}_{12}C_2 \times {}_{12}C_2 = 66^3 \text{ (通り)}$$

あり、これらは同様に確からしい。

ここで、取り出した2個の球に書かれている数字を $\{a, b\}$, $\{c, c\}$ などと表すことにすると、3回の〈操作〉の後、表の面がすべて白色であるのは次の(オ)、(カ)、(キ)の3つの場合がある。

(オ) 3回の〈操作〉すべてにおいて、取り出した2個の球に書かれている数字が各回ごとに同じであるとき、

(カ) 3回の〈操作〉のうち、 $\{a, b\}$ ($a \neq b$) が2回、 $\{c, c\}$ が1回であるとき、

(この場合の2回の $\{a, b\}$ は同じ数字の組合せであり、
 $\{c, c\}$ は2個の球に書かれている数字が同じである。)

(キ) 3回の〈操作〉のうち、 $\{a, b\}$ ($a \neq b$) が1回、 $\{b, c\}$ ($b \neq c$) が1回、 $\{c, a\}$ ($c \neq a$) が1回であるとき。
(ただし、 a, b, c には同じ数字が入る。)

◆ $3993=3 \cdot 11^3$,
 $1089=3^2 \cdot 11^2$
より、通分したときの分母は、
 $3^2 \cdot 11^3 = 11979$.

◆ たとえば、3回の〈操作〉で
 $\{5, 5\} \rightarrow \{2, 2\} \rightarrow \{3, 3\}$
のように球を取り出す場合である。

◆ たとえば、3回の〈操作〉で
 $\{1, 2\} \rightarrow \{1, 2\} \rightarrow \{3, 3\}$
のように球を取り出す場合である。

◆ たとえば、3回の〈操作〉で
 $\{1, 2\} \rightarrow \{2, 3\} \rightarrow \{1, 3\}$
のように球を取り出す場合である。

(オ)のとき.

球の取り出し方は,

$$\begin{aligned}6 \times 6 \times 6 &= 6^3 \\ &= 2^3 \cdot 3^3 \text{ (通り).}\end{aligned}$$

(カ)のとき.

$\{a, b\}$ 2回と $\{c, c\}$ 1回の順番は,

$$\frac{3!}{2!1!} = 3 \text{ (通り).}$$

2つの数 $a, b (a \neq b)$ の数字の選び方は,

$${}_6C_2 = 15 \text{ (通り)}$$

あり, それぞれに対して球の取り出し方は, a, b の球が2個ずつあり, $\{a, b\}$ が2回あることに注意すると,

$$({}_2C_1 \times {}_2C_1) \times ({}_2C_1 \times {}_2C_1) = 16 \text{ (通り).}$$

また, $\{c, c\}$ に対する球の取り出し方は,

$$6 \text{ 通り.}$$

よって, (カ)の球の取り出し方は,

$$3 \times (15 \times 16) \times 6 = 2^5 \cdot 3^3 \cdot 5 \text{ (通り).}$$

(キ)のとき.

3つの数 $a, b, c (a \neq b, b \neq c, c \neq a)$ の数字の選び方は

$${}_6C_3 = 20 \text{ (通り)}$$

あり, $\{a, b\}, \{b, c\}, \{c, a\}$ の順番は,

$$3! = 6 \text{ (通り)}$$

ある.

それぞれに対して球の取り出し方は a, b, c の球が2個ずつあることに注意すると,

$$({}_2C_1 \times {}_2C_1) \times ({}_2C_1 \times {}_2C_1) \times ({}_2C_1 \times {}_2C_1) = 64 \text{ (通り).}$$

よって, (キ)の球の取り出し方は,

$$20 \times 6 \times 64 = 2^9 \cdot 3 \cdot 5 \text{ (通り).}$$

(オ), (カ), (キ)より, 球の取り出し方は,

$$\begin{aligned}&2^3 \cdot 3^3 + 2^5 \cdot 3^3 \cdot 5 + 2^9 \cdot 3 \cdot 5 \\ &= 2^3 \cdot 3(3^2 + 2^2 \cdot 3^2 \cdot 5 + 2^6 \cdot 5) \\ &= 2^3 \cdot 3 \cdot 509 \text{ (通り).}\end{aligned}$$

したがって, 3回の〈操作〉の後, 表の面がすべて白色である確率は,

$$\begin{aligned}\frac{2^3 \cdot 3 \cdot 509}{66^3} &= \frac{2^3 \cdot 3 \cdot 509}{2^3 \cdot 3^3 \cdot 11^3} \\ &= \frac{509}{11979}.\end{aligned}$$

((3)(ii)の別解終り)

◆ $\{a, a\}$ は,

$$\begin{aligned}&\{\textcircled{1A}, \textcircled{1B}\}, \{\textcircled{2A}, \textcircled{2B}\}, \{\textcircled{3A}, \textcircled{3B}\} \\ &\{\textcircled{4A}, \textcircled{4B}\}, \{\textcircled{5A}, \textcircled{5B}\}, \{\textcircled{6A}, \textcircled{6B}\}\end{aligned}$$

の6通りである.

◆ 1回目 2回目 3回目

$\{a, b\}$	$\{a, b\}$	$\{c, c\}$
$\{a, b\}$	$\{c, c\}$	$\{a, b\}$
$\{c, c\}$	$\{a, b\}$	$\{a, b\}$

の3通りがある.

◆ 1組の $\{a, b\}$ に対して球の取り出し方は

$$\begin{aligned}&\{\textcircled{aA}, \textcircled{bA}\}, \{\textcircled{aA}, \textcircled{bB}\} \\ &\{\textcircled{aB}, \textcircled{bA}\}, \{\textcircled{aB}, \textcircled{bB}\}\end{aligned}$$

の4通りである.

◆ 1回目 2回目 3回目

$\{a, b\}$	$\{b, c\}$	$\{c, a\}$
$\{a, b\}$	$\{c, a\}$	$\{b, c\}$
$\{b, c\}$	$\{a, b\}$	$\{c, a\}$
$\{b, c\}$	$\{c, a\}$	$\{a, b\}$
$\{c, a\}$	$\{a, b\}$	$\{b, c\}$
$\{c, a\}$	$\{b, c\}$	$\{a, b\}$

の6通りがある.

【5】【数学A 整数の性質】

2つの等式

$$56a - 11b = 1, \quad \dots \textcircled{1}$$

$$1288c - 253d = 2G \quad \dots \textcircled{2}$$

がある。

ただし、 a, b, c, d は整数であり、 G は 1288 と 253 の最大公約数とする。

(1) ① を満たす整数の組 (a, b) を 1 組求めよ。

(2)(i) G を求めよ。

(ii) ② を満たす整数の組 (c, d) をすべて求めよ。

(3) $6a - b, -5c + d$ はいずれも正の整数で、その最小公倍数が 42 であるとき、整数の組 (a, b, c, d) は全部で何組あるか求めよ。

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

(1) 5 点 (2)(i) 10点 (ii) 15点 (3) 20点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

(1) 基本 (2)(i) 標準 (ii) 応用 (3) 発展

解 答

(1) ① において、 $a=1$ とすると、

$$56 - 11b = 1,$$

$$-11b = -55,$$

$$b = 5.$$

よって、① を満たす整数の組 (a, b) の 1 つは、

$$(a, b) = (1, 5). \quad \dots (\text{答})$$

(2)(i) 互除法を用いて求める。

$$1288 \div 253 = 5 \text{ 余り } 23,$$

$$253 \div 23 = 11 \text{ 余り } 0$$

であるから、2 つの整数 m, n の最大公約数を $\text{gcd}(m, n)$

と表すことにすると、互除法により、

$$\text{gcd}(1288, 253) = \text{gcd}(253, 23)$$

$$= \text{gcd}(23, 0)$$

$$= 23.$$

よって、1288 と 253 の最大公約数 G は、

$$23. \quad \dots (\text{答})$$

(ii) $1288 = 56 \cdot 23, 253 = 11 \cdot 23, G = 23$ より、② は、

$$56 \cdot 23c - 11 \cdot 23d = 2 \cdot 23$$

と表すことができ、両辺を 23 で割ると、

◆ $(a, b) = (-10, -51), (12, 61)$ などでもよい。

互除法

自然数 a, b について、 a を b で割ったときの余りを r とすると、 a と b の最大公約数は、 b と r の最大公約数に等しい。

◆ 割り算を繰り返して余りが 0 になったときの割る数が、元の 2 つの整数の最大公約数である。

◆ $1288 = 2^3 \cdot 7 \cdot 23, 253 = 11 \cdot 23$ であるから、1288 と 253 の最大公約数 G は 23 としてもよい。

$$56c - 11d = 2. \quad \cdots \textcircled{3}$$

(1)の結果より、 $a=1$ 、 $b=5$ のとき①が成り立つから、

$$56 \cdot 1 - 11 \cdot 5 = 1.$$

両辺を2倍して、

$$56 \cdot 2 - 11 \cdot 10 = 2. \quad \cdots \textcircled{4}$$

よって、 $c=2$ 、 $d=10$ のとき③が成り立つ。

③-④より、

$$56(c-2) - 11(d-10) = 0,$$

すなわち、

$$56(c-2) = 11(d-10). \quad \cdots \textcircled{5}$$

ここで、56と11は互いに素であることから、 $c-2$ は11の倍数である。

よって、整数 k を用いて、

$$c-2 = 11k, \quad \cdots \textcircled{6}$$

すなわち、

$$c = 11k + 2$$

と表すことができる。

また、⑥を⑤に代入して、

$$56 \cdot 11k = 11(d-10).$$

$$56k = d - 10.$$

$$d = 56k + 10.$$

したがって、②を満たす整数の組 (c, d) は、

$$(c, d) = (11k + 2, 56k + 10) \quad (k \text{ は整数}), \quad \cdots (\text{答})$$

(3)

道しるべ

①を満たす整数の組 (a, b) をすべて求めて、 $6a-b$ がどのような数であるか考えてみる。

①を満たす整数の組 (a, b) をすべて求める。

(1)の結果より、 $a=1$ 、 $b=5$ のとき、①が成り立つから、

$$56 \cdot 1 - 11 \cdot 5 = 1. \quad \cdots \textcircled{7}$$

①-⑦より、

$$56(a-1) - 11(b-5) = 0,$$

すなわち、

$$56(a-1) = 11(b-5). \quad \cdots \textcircled{8}$$

ここで、56と11は互いに素であることから、 $a-1$ は11の倍数である。

よって、整数 l を用いて、

$$a-1 = 11l, \quad \cdots \textcircled{9}$$

すなわち、

$$a = 11l + 1$$

◆ $c=13$ 、 $d=66$ や $c=24$ 、 $d=122$ なども③を満たす。

◆ 2つの自然数 a, b について最大公約数が1のとき、 a, b は互いに素であるという。

互いに素である2つの整数
互いに素である2つの整数 a, b と整数 x, y について、 $ax=by$ が成り立つとき、 x は b の倍数であり、 y は a の倍数である。

◆ $(c, d) = (11k + 13, 56k + 66)$ 、 $(11k + 24, 56k + 122)$ などでもよい。

◆ $56a - 11b = 1. \quad \cdots \textcircled{1}$

と表すことができる。

また、⑨を⑧に代入して、

$$56 \cdot 11l = 11(b-5).$$

$$56l = b-5.$$

$$b = 56l + 5.$$

したがって、①を満たす整数の組 (a, b) は、

$$(a, b) = (11l+1, 56l+5) \quad (l \text{ は整数}). \quad \cdots \textcircled{10}$$

このとき、

$$6a-b = 6(11l+1) - (56l+5) = 10l+1$$

と表されるから、 $6a-b$ は、10 で割ると 1 余る正の整数である。また、 $6a-b$ と $-5c+d$ の最小公倍数が 42 であることから、 $6a-b$ は 42 の約数でもある。

42 の正の約数は、

$$\{1, 2, 3, 6, 7, 14, 21, 42\}$$

であるから、 $6a-b$ は、

$$1 \text{ または } 21$$

である。

次に、 $-5c+d$ を求める。

(ア) $6a-b=1$ のとき、

$6a-b$ と $-5c+d$ の最小公倍数は 42 より、

$$-5c+d=42.$$

(イ) $6a-b=21$ のとき、

42 の正の約数で、21 との最小公倍数が 42 となる数が $-5c+d$ であるから、

$$-5c+d=2, 6, 14, 42.$$

よって、(ア)、(イ) より、

$$(6a-b, -5c+d) = (1, 42), (21, 2), (21, 6),$$

$$(21, 14), (21, 42). \quad \cdots \textcircled{11}$$

さらに、(2)(ii) の結果より、 $c=11k+2$ 、 $d=56k+10$ であるから、

$$-5c+d = -5(11k+2) + (56k+10) = k.$$

⑪ と、 $6a-b=10l+1$ 、 $-5c+d=k$ より、

$$(10l+1, k) = (1, 42), (21, 2), (21, 6),$$

$$(21, 14), (21, 42).$$

したがって、

$$(l, k) = (0, 42), (2, 2), (2, 6), (2, 14), (2, 42).$$

⑩ および (2)(ii) の結果より、1 組の (l, k) に対して、

(a, b, c, d) は 1 組に決まるから、条件を満たす

(a, b, c, d) の組は、

5 組.

…(答)

◆ $6a-b$ は、10 で割ると 1 余る正の整数より、

$$1, 11, 21, 31, 41, 51, \cdots$$

であり、この中で 42 の約数は、

$$1 \text{ または } 21.$$

◆ $21(=3 \cdot 7)$ との最小公倍数が $42(=2 \cdot 3 \cdot 7)$ となる数は、

$$2, 2 \cdot 3, 2 \cdot 7, 2 \cdot 3 \cdot 7$$

つまり、

$$2, 6, 14, 42.$$

◆ $(a, b) = (11l+1, 56l+5)$ 、
 $(c, d) = (11k+2, 56k+10)$.

問六 内容説明の問題。

◇解法のポイント5 《趣旨に関わる内容説明の問題の解き方》

- 1 説明すべき事柄を明確にする。
- 2 説明すべき内容を具体的に記述している箇所を文中から探し出す。
- 3 該当する箇所の内容を正確に把握し、その要点を押さえた上で、制限字数に従って的確にまとめる。

設問で要求されているのは、宋守約が「将校たちに蟬の鳴き声が聞こえなくなるまで蟬を捕らえさせた意図」についてである。本文前半は宋守約が将校たちに蟬を捕らえさせたという事実についての記述であり、本文後半は蟬を捕らえさせた宋守約の発言が中心になっているので、宋守約の意図は後半の宋守約自身の発言に表れているはずである。その宋守約の発言中に「故寓^{コヨ}以^ニ捕^ル蟬^ヲ耳^ヲ（ですから蟬を捕らえることにかこつけただけなのです）」とあることから、宋守約の命令は「かこつけるためのもの」であったことがわかる。またこの発言の直前に、「但^レ軍中^ハ以^テ三^ノ号^ヲ令^ス為^ス先^ト。臣承平^ニ総^ニ兵^ヲ殿^ニ陸^ニ、無^シ所^ニ信^ト其^ノ号^ヲ令^ス」（ただ軍中では命令が何より優先されます。私はこの太平の世に司令官を務めており、自分の命令を徹底させる方法がありません）」とあることから、「軍中では命令が何よりも優先される」ものであり、その「命令の徹底をはかるため」であったことがわかる。つまり軍の指揮官という立場にあった宋守約は、鳴き声が聞こえなくなるまで蟬を捕らえさせることにかこつけて、軍中で何よりも優先されるべき自分の命令が徹底されるようにはかったのだ、と理解できよう。以上の内容を制限字数内にまとめる。

解答は、「軍隊では命令が重要なので、将校たちに鳴き声が聞こえなくなるまで蟬を駆除させることにかこつけて、指揮官としての自分の命令を徹底させようとしたということ」のようにまとめればよい。

かると「以為過(間違って)いた」という文脈になっている。したがって神宗皇帝が「過」だとみなしたものは、宋守約の出した「蟬を捕らえさせようとした」命令についてであるということがわかる。つまり「此」の指示内容は、宋守約の命令そのものということになる。

以上をまとめると、解答は「私も自分の命令が道理に外れていることはわかっております」となる。

問四 内容説明の問題。

◇解法のポイント3 《傍線部についての内容説明の問題の解き方》

- 1 傍線部の正確な訳を作る。
- 2 対応する箇所や文脈を踏まえて、傍線部の意味内容を考える。
- 3 選択問題の場合には、その要点に合う選択肢を探す。

「固」は「言うまでもなく・当然・もちろん」等の意味であり、「難」は「——するのが難しい」という意味(1 重要語参照)である。これを踏まえて傍線部を言葉どおり訳すと、「蟬が鳴くことはもちろん禁じるのが難しい」となる。ここでは意味内容は明白であるし、本文中に傍線部に対応する箇所も特に見当たらないので、この訳を踏まえて選択肢を検討すればよい。

ア「嫌悪感を抱いてしまう」、エ「むやみに捕らえるのは実に愚かなことだ」オ「捕らえて逃がさないようにしても」は、それぞれ傍線部の意味内容と異なっており、不適当であることがわかる。イ「たとえ捕らえられてもしばらく鳴き続ける」はやや紛らわしいが、傍線部は、蟬が鳴くこと自体を「禁じ難し」と言っているのであり、捕らえても鳴き続けるという内容ではないのだから、やはり不適当である。ウは、「鳴かないようにする」が「禁」に対応し、「できはしない」が「難」に対応しているととらえられるので、傍線部の意味内容を表していると判断できる。

したがって正解はウである。

問五 書き下し文の問題。

◇解法のポイント4 《書き下しの方法》

- 1 基本句形や重要語に注意し、含まれている基本句形や重要語に合った読みを当てはめる。
- 2 語順に注目し、返り点が付いている場合には返り点も参考にしながら、それぞれの語句が文の中でどんな働きをしているかを確認する。
- 3 読みに従って漢字仮名交じりで書き下す。その際、次の三点に注意する。

○日本語の助詞・助動詞として読んだ字は平仮名で表記する。

○置き字(文中で読んでいない字)は書かない。

○再読文字の再読部分(二度目の読み)は平仮名で表記する。

傍線部で注意しなければならない語は「能」と「使」である。

「能」は、「不能」のように否定の「不」に続く場合は、「能はず」と読むが、否定語に続いていないときは「能く」と読まなければならない。意味としては可能を表す(1 重要語参照)。

「使」は、動詞「使ふ(使う)」、名詞「使(使者)」などの意味もあるが、「使A B」の形で、「AにBさせる」という使役を表す語として用いられる(2 基本句形参照)。この使役形の場合は、「A」に使役の対象を表す名詞が入り、「B」にはその対象に行わせる行為を表す動詞が入る。傍線部4でも「去」という動詞から返っているのが、傍線部中の「使」は使役を表す語だと判断できる。また「必」は「必ず」と読む副詞であり、名詞ではないから、ここでは「使A B」の「A」が省略されていると考えればよい。したがって「使必去」は「必ず去らしむ」と読める。「去る」を「使」に接続させるために未然形「去ら」にしなければならぬことと、また「使」は日本語の助動詞「しむ」として読むので平仮名書きにしなければならぬことに注意が必要である(解法のポイント4の3参照)。

以上を踏まえると、解答は「臣能く必ず去らしむ」となる。

b 「耳」は、文末に置かれた場合、限定・強意を表し、「のみ」と読む
(2 基本句形参照)。

c 「若」は、二人称の代名詞として「若(おまえ)」、下から返って「若」
「(――)のようだ」、また、「不(ず)若(し)か」(――)に及ばない・――
の方がよい)「莫(な)若(し)か」(――)に及ぶものはない・――が「一番だ」
という比較を表す用法があるが、ここでは仮定を表して「もし」と読む(1
重要語参照)。傍線部cを含む一文の末尾が、「……守らしめば」と、「ば」
が付けられていることや、「若」に返り点が付いていないことに注意した
い。

問二 返り点の問題

◇解法のポイント1《返り点の決まり》

- 1 一字返る場合は、「レ」点。
- 2 二字以上返る場合は、「一・一・一(・三……)」点。
- 3 「一・一・一(・三……)」点をはさんで返る場合は、「上(・中)・下」点。

与えられた書き下し文から、「故↓守↓約↓蟬↓声↓聞↓悪↓言」の順に
漢字を読むことになるが、このうち返って読んでいるのは、「声↓聞↓悪↓
言」の箇所である。「声↓聞」は「蟬」をはさんで二字返っているから「声」
に「一」点、「聞」に「二」点を付ける。「聞↓悪」は一字返るだけなので、
「悪」に「レ」点を付ける。「悪↓言」は「守約」をはさんで三字返ってい
るので、「悪」に「一」点、「言」に「二」点を付けることになるが、「悪」
には「レ」点と「一」点を付ける必要があるので、「レ」点を付けなければ
ならない。「レ」点としないことに注意しよう。正解は、「故言守約悪聞蟬
聲」となる。

問三 現代語訳の問題

◇解法のポイント2《現代語訳の問題の解き方》

- 1 文の構造や基本句形に注意し、一語一語の意味を正確にとらえる。
- 2 指示語や代名詞がある場合には、その内容を明らかにする。
- 3 主語や目的語などについて、省略されているものがあれば補う。
- 4 解釈が複数成り立つ場合には、文脈に合った解釈をする。

まずは「臣」「理」という語の意味から確認してみよう。1 重要語にあ
るとおり、「臣」には「臣下」という意味の普通名詞としての用法のほか
に、「わたし」という意味の一人称の人称代名詞としての用法がある。ここ
は神宗皇帝に対する宋守約の発言の冒頭なのだから、臣下一般について言
及しているとは考えにくいので、「わたし」という意味だとわかる。また、
「理」は「道理」の意味であり、「非(ず)理」とは、「道理に合わない」と解釈
できる。

次に「豈(あ)ら(な)き」(どうして――しないことがあろうか) (2 基本
句形参照)という反語表現が用いられていることに注意する。ここでは「――
」の箇所に「知(し)此(こ)非(ず)理(り)」の四文字が入っているが、「此(こ)非(ず)理(り)」が「知(し)」
の目的語という構造になっている。これを踏まえると「知(し)此(こ)非(ず)理(り)」は、
「これが道理に合わないことだとわかる」と訳せる。したがって「豈(あ)ら(な)き知(し)此(こ)非(ず)理(り)」は、
「此(こ)非(ず)理(り)」は、「どうしてこれが道理に合わないことだとわからないこと
があろうか」、つまり「道理に合わないことだとわかっている」という意味
になる。

最後に、「此」の指示内容を明らかにする必要がある(解法のポイント2
の2参照)。傍線部は、神宗皇帝が「以(も)為(な)過(と)す(間違って)」こと
に対する発言なのだから、「此」は神宗皇帝が「過(と)す」とした内容を指してい
ることになる。さらにそれ以前の内容を確認すると、宋守約が軍の將校た
ちに命令して蟬を捕らえさせ、蟬の鳴き声が聞こえるとむちで打った件に
ついて、神宗皇帝は宋守約に事実かどうかの確認をし、それが事実だとわ

人に交代で蟬を捕らえさせ、蟬の声を聞こえさせないようにした。宮殿の前で蟬が鳴くと、必ず厳しく全員をむち打った。人々はひどく堪え難く感じていた。こういうわけで（人々は）宋守約は蟬の声を耳にするのを嫌っているのだと言っていたのである。ある日神宗がそのこと（＝宋守約が蟬を捕らえさせていること）について宋守約に尋ねたところ、（宋守約は）言った、「その通りでございます」と。皇帝は（宋守約が蟬を捕らえさせていることを）間違っているとした。（すると）宋守約が言った、「私も自分の命令が道理に外れていることはわかっております。ただ軍中では命令が何より優先されます。私はこの太平の世に司令官を務めており、自分の命令を徹底させる方法がありません。ですから蟬を捕らえることにかこつけ（て命令の徹底をはか）ただけなのです。蟬が鳴くことはもちろん止めさせるのが困難です。しかしながら私は（部下たちに）蟬を追い払わせることができました。もし陛下が万が一にも（私に）一つの砦を準備するようにご命じになられたとしても、私はきつと部下を使いこなすことができますでしょう」と。皇帝は（宋守約の言うことを）なるほどその通りだと思った。

【重要語・基本句形】

1 重要語

- 為^{なり} — である
 - 自^{より} — から
 - 得^え — できる
 - 頗^{さほど} — 少し・かなり・ひどく
 - 故^{ゆゑ} — こういうわけで・だから
 - 惡^{わる} — 嫌う（音読みは「を」）
 - 一日^{いちじつ} — ある日
 - 然^{しか} — その通りだ
 - 上^{うへ} — 「皇帝」を指す語
 - 以^{もつ}レA為^なレB — AをBと考える・思う・する・みなす
- * 「以^{もつ}レA為^なレB」はA部分が省略されたもの

- 臣^{しん} ① わたし（一人称）
- 理^り ② 臣下
- 所^{ところ} — 道理
- 固^こ — するもの・こと
- 難^{がた} — 言うまでもなく・当然・もちろん
- 能^よ — するのが難しい
- 若^も — できる
- 庶^{しか}幾^{いく} — もしも
- 庶^{しか}幾^{いく} — きつと——であらう

2 基本句形

- 使^しニA B — AにBさせる（「令・遣・教」なども用いる）（使役形）
- * 「使^しニB」はA部分が省略されたもの。
- 豈^あ不^な — どうして——しないことがあろうか（反語形）
- 但^た — ただ——ただ（「唯・惟・特・徒・只」なども用いる）（限定形）
- 耳 — ただ——ただ（「已・爾・而已・而已矣」なども用いる）（限定形）

※（セ）は活用語の未然形を、（シ）は活用語の連用形を、（スル）は活用語の連体形をそれぞれ表す。

【設問解説】

問一 語の読みの問題。

a 「自」には、「自（自分で・自分から・自分を）」「自（自然と・当然・もともと）」という用法があるが、下から返って読むときには、「より」と読む（1 重要語参照）。ここはレ点が付いており、「入」から返っているの、「より」と読む。

いよう、「べし」を連体形に活用させて、空欄には「べき」を入れるのがよい。

【四】 漢文

【解答】

問一 a より b のみ c もし

問二 故言「守約惡聞蟬声」

問三 私も自分の命令が道理に外れていることはわかっております。

問四 ウ

問五 臣能く必ず去らしむ。

問六 軍隊では命令が重要なので、将校たちに鳴き声が聞こえなくなるまで蟬を駆除させることにかこつけて、指揮官としての自分の命令を徹底させようとしたということ。(75字)

【配点】(40点)

問一 2点×3

問二 5点

問三 6点

問四 5点

問五 6点

問六 12点

【出典】

葉夢得『石林燕語』十卷。葉夢得は、北宋末から南宋にかけての政治家・学者。字は少蘊。一〇九七年の進士(官吏登用試験の合格者)で、登第して以降、順調な官僚生活を送り、重職を歴任した。晩年は烏程(今の浙江省湖州市)の玲瓏山の石林に隠居し、石林山人と号した。『石林燕語』は、葉夢得の隨筆集である。

【本文解説】

本文は北宋の逸話である。武將の宋守約が宮中を守る軍の司令官であったときのこと、夏になると将校十数人に命じて交代で蟬を捕らえさせ、宮中で蟬の鳴き声が聞こえることの無いようにさせた。そして鳴き声が聞こえた場合には、厳しくむち打ったのである。神宗皇帝が事の真偽を宋守約に尋ね、本当だとわかると、神宗は過ちであるとした。それに対して宋守約は、およそ次のようにお答えした。「軍隊では命令の徹底をまっ先に考えなくてはなりません、宮中で兵を統べているため、自分の命令が本当に徹底されているのか確かめてみる機会がありません。そこで蟬を捕らえることにかこつけて無理な命令を将校たちにやらせてみたのです。蟬の鳴き声が聞こえないようにするなどということはどだい無理な話です。しかしそれでも私はそれを将校たちにやらせることができました」と。彼は自分のやり方が道理に合わないことを充分承知していたのだが、無理な任務を実行させ命令に対する絶対服従を徹底させようとした、と皇帝に説明したのである。

【書き下し文】

宋守約殿帥たり。夏日に入るより、軍校十数輩に輪して蟬を捕へしめ、声を聞くを得しめざらんとす。前に鳴く者有らば、皆重く之を答つ。人頗る堪へず。故に守約蟬の声を聞くを惡むと言ふ。神宗一日以て守約に問ふに、曰はく、「然り」と。上以て過ちと爲す。守約曰はく、「臣豈に此の理に非ざるを知らざらん。但だ軍中は号令を以て先と爲す。臣承平に兵を殿後に総ふれば、其の号令を信とする所無し。故に寓するに蟬を捕ふるを以てするのみ。蟬の鳴くは固より禁じ難し。而るに臣能く必ず去らしむ。若し陛下誤りて一障を害しめば、臣或いは人を使ふべきに庶幾からん」と。上以て然りと爲す。

【現代語訳】

宋守約は宮中を守る軍の司令官であった。夏になってから、軍の将校十数

意。したがって、傍線部6は「土佐坊は強くて勇敢な武士であったのだなあ。それでこそ鎌倉殿も信頼なさるのだろう」と訳すことができる。以上のことから、問いかけの「このように評価しているのか」の「このように」は「剛の者」だと、つまり、強くて勇敢な武士だと評価しているとわかる。また、「剛の者」であるからこそ、兄頼朝からの信頼も厚いのだと考えているのである。

では「土佐坊正尊のどのような点」を義経は「剛の者」だと評価したのか。直前に「判官聞こし召して」とあることから、「剛の者」だと思った動機は、この前の土佐坊の発言内容にあると考えられる。ここで土佐坊は、「日本の武士は名を惜しむと申す事の候ふ。生きて帰して侍どもに面を見えて何にかし候ふべき。ただ御恩には疾く疾く首を召され候へ（＝日本の武士は名譽を惜しむと申すことがございます。生きて帰って鎌倉の侍たちに顔を合わせて何になりましょうか。ただ私に対するお情けとしては、さつさと首をお切りください）」と言っているが、これが義経に「生きて帰らんと言はば、帰さんずるはいかに（＝生きて帰りたいと言うならば、帰そうと思うがどうだ）」と言われたことに対する返答である点に注意する。義経は、命を助けてやつてもよいと言われても、武士としての名譽を重んじ、潔く死を選ぼうとしている土佐坊の態度に感じ入ったのである。解答は、以上の内容を指定字数内でまとめればよい。

問五 助動詞の意味と活用形に関する問題。

空欄に続く「やらん」は、断定の助動詞「なり」の連用形「に」に、係助詞「や」、ラ変動詞「あり」の未然形「あら」、推量の助動詞「む」の連体形「む」が付いた「にやあらむ」が変化したもので、ここでは「…であろうか」の意で用いられている。

解答するにあたっては「大事の囚人を斬る」やらん。斬るまじきやらん。それ武蔵坊計らへ」とあることに留意する。「斬る」やらんが直後の「斬るまじきやらん」と並列の関係になっていることに着目すると、

「大事の囚人」すなわち「土佐坊正尊」を処刑するにあたって、「Aであろうか。それともBであろうか」と義経の思案する様子が読み取れる。また「武蔵坊計らへ（＝武蔵坊うまく処置せよ）」と、その判断を弁慶に委ねていることも読み取れる。

「まじき」は打消当然（…はずがない…べきではない）・打消推量（…ないだろう）・打消意志（…したくない…しないつもりだ）・不可能（…できない）・不適當（…しない方がよい）・禁止（…してはならない）などの意味を持つ助動詞「まじ」の連体形で、活用語の終止形（ラ変型の語には連体形）に接続し、次のように活用する。

未然	連用	終止	連体	已然	命令
（まじく） まじから	まじく まじかり	まじ ○	まじき まじかる	まじけれ ○	○

文脈を考えると、「斬るまじきやらん」は「斬るべきではないのであろうか」、つまり「斬らない方がよいだろうか」という意味になるので、「斬る」やらんは「斬る方がよいだろうか」という意味となるのがふさわしく、その意に合う助動詞を選び、適当な形に活用して入れればよい。それには、助動詞「まじ」が助動詞「べし」の打消にはば相当するという知識が重要である。「べし」は当然（…はずだ…にちがいない）・推量（…だろう…し…そうだ…意志（…しよう）・可能（…できる）・適當（…するのがよい…の方がよい）・命令（…しろ）などの意味を持ち、活用語の終止形（ラ変型の語には連体形）に接続し、次のように活用する。

未然	連用	終止	連体	已然	命令
（べく） べから	べく べかり	べし ○	べき べかる	べけれ ○	○

したがって、「まじき」との対応から、また「やらん」が「にやあらむ」の変化した形であることから断定の助動詞「に」に接続するのになさわし

ば、土佐坊が「叶はじ」と思った理由がわかる。指示代名詞「これ」の指す内容は、直前の「太刀打ち振りてつと寄る（＝太刀を振りかざしてさつと近寄る）」である。太刀を振りかざして近寄って来られたのではかなわないうと、土佐坊が木の空洞から出て逃げ出した直後に、「弁慶喜びて、大手を抜けて、『憎い奴、何処まで』とて追つかく（＝弁慶は喜んで、大手を広げて、『憎い奴だ、どこまで逃げるのか』と言って追いかける）」とあることから、土佐坊に近寄ったのは武藏坊弁慶だと判断できよう。つまりここでは、弁慶が太刀を振りかざして近寄って来たために、土佐坊は「叶はじ」と思ったと考えたのである。

傍線部4は、直前に「この声を聞きて」と記されていることに着目すれば、土佐坊が「叶はじ」と思った理由がわかる。「この声」は、直前に「遥かなる谷の底にて、『片岡経春が、此処にて待つぞ。ただおこせよ』とぞ申しける（＝遥かなる谷の底で、『片岡経春が、ここで待つぞ。まっすぐここに寄こせよ』と申し上げた）」とあることから、片岡経春の声だと判断できよう。つまりここでは、この声によって片岡が谷底で自分を待ち伏せているとわかったため、土佐坊は「叶はじ」と思ったと考えたのである。

解答は、以上の内容をそれぞれ簡潔にまとめればよい。

問三 古語の意味を問う問題。

傍線部3「聞こゆる」は、ヤ行下二段活用動詞「聞こゆ」の連体形から転じた連体詞で、「評判の・有名な」などと訳す。動詞「聞こゆ」は、音声が入る他人の耳に入る状態を表す。そこから、事柄が多量の人の耳に自然に入って評判になる意を表したり、自然に耳に入ったことを聞き分け理解する意を表したりするようになり、「①聞こえる。②うわさされる。評判になる。③理解できる。」などと訳す。また、貴人に対して自分から直接ものを言うのは失礼だという発想から、こちらの発言が自然に貴人の耳に入るようにする、という表現形式を取った結果、謙譲の意が生じ、「④申し上げる。」と訳す。また、用言や助動詞の連用形に付いて謙譲の補助動詞とし

ても用いられ、「⑤…申し上げる。」などと訳す。連体詞「聞こゆる」は右記の②から転じたものであり、ここは、「聞こゆる足早なりければ、弁慶より三段ばかり先立つ」という、土佐坊が弁慶より三段（＝約三十三メートル）ほど先行した理由が「聞こゆる足早」、つまり、評判の早足だったことを表している。

傍線部5「具して」は、サ行変格活用動詞「具す」の連用形に接続助詞「て」が付いたもの。もともと「具す」は漢語「具」にサ変動詞「す」が付いてできた複合動詞で、「①そなわる。そう。②そなえる。そなえる。③連れる。伴う。④ついて行く。従う。」などと訳す。「具」には本来必要なものをそろえる、そなえるという意味があり、「具す」もこの意味を受けついでいるのである。ここは、弁慶が捕らえた土佐坊を義経の前に連行する場面なので、「連れて・伴って」などと訳すのがふさわしい。

傍線部7「やがて」は、本来二つの動作や事態の間に変化や時間的な隔たりがない様子を表し、「①そのまま。②すぐに。」のように訳す。状態的に変化がなければ①のように訳し、時間的に隔たりがなければ②のように訳す。この場合は、弁慶が土佐坊らを即刻処刑するように命じたという文脈なので、「すぐに」と訳すのがふさわしい。

問四 内容説明の問題。

「剛」は「強く、武勇にすぐれている」意。「にてありけるや」は、否定の助動詞「なり」の連用形「に」に、接続助詞「て」、ラ変動詞「あり」の連用形「あり」、過去の助動詞「けり」の連体形「ける」、間投助詞「や」の付いたもので、「…であったのだなあ」の意。ここで用いられている「けり」と「や」はどちらも詠嘆の意を表す。「さて」は接続詞で「それで」の意。「こそ」は係助詞。「頼み」はマ行四段活用動詞「頼む」の連用形で、「信頼する」意。「給ふ」はハ行四段活用動詞「給ふ」の終止形、ここでは尊敬の補助動詞として用いられ「…なさる」意。「らめ」は現在推量の助動詞「らむ」の已然形で、「こそ」の結びの語、ここでは「…のだから」の

お言葉はないだろう」と言つて、あちらこちら探して歩き回るうちに、喜三太が向かいにある倒れた木に登つて立つていたが、「鷲尾殿が立つていらつしやる後ろの木の空洞の中で、何かが動くようであるのが不審だ」と申し上げるので、(弁慶は)太刀を振りかざしてさつと近寄る。

土佐坊はこれを見て、かなうまいと思つたのだろうか、木の空洞からさつと出て、一直線に逃げ降りて行く。弁慶は喜んで、大手を広げて、「憎い奴だ、どこまで(逃げるのか)」と言つて追いかける。(土佐坊は)評判の早足だったので、弁慶よりも三段ほど先を行く。(その時)遙かな谷の底で、「片岡経春が、ここで待つぞ。まっすぐ(ここに)寄こせよ」と申し上げた。(土佐坊は)この声を聞いて、かなうまいと思つたのだろうか、崖を迂回して登つたところを、佐藤四郎兵衛が、大きな雁股の矢を弓につがえて、逃がすまいとして、矢先を下に向けてかまえて軽く引いてねらいをつけた。土佐坊はだからといって腹も切らないで、武蔵坊に平然と捕らえられた。そして(弁慶は土佐坊を)鞍馬へ連れて行く。東光坊から大衆五十人を付けて送られた。「土佐坊を連れて参上しております」と(弁慶が)申し上げたところ、大庭に引き据えさせ、判官は、佩桶小具足に、太刀を身につけて、縁にお出ましになつて、「なんと正尊、起請文は書いたとたんに効力があるものなのになあ。どうして書いたのか。生きて帰りたいと言うならば、帰そうと思うがどうだ」とおっしゃつたところ、(土佐坊は)頭を地面にこすりつけ、「狸々は血を惜しむ、犀は角を惜しみ、日本の武士は名譽を惜しむと申すことがございます。生きて帰つて(鎌倉の)侍たちに顔を合せて何になりましようか。ただ(私に対する)お情けとしては、さつさと首をお斬りください」と申し上げた。

判官はお聞きになつて、「土佐坊は強くて勇敢な武士であつたのだなあ。それでこそ鎌倉殿も信頼なさるのだらう。大事な囚人を斬る方がよいだらうか。斬らない方がよいだらうか。それ武蔵坊うまく処置せよ」とおっしゃつたので、武蔵坊は、「怪力の持ち主を牢に閉じ込めて、牢を蹴破られてはしかたがない。すぐに斬れ」と言つて、喜三太に(土佐坊の)後ろにつけた縄を取ら

せて、六条河原に引き出し、駿河次郎を斬り手として斬らせた。土佐坊は四十三歳、同様に(嫡男の)太郎は十九歳、(従兄弟の)伊北五郎は三十三歳で斬られたのであつた。

【設問解説】

問一 内容説明の問題。

「仰せ」は「言ふ」の尊敬語「仰す」(サ行下二段活用動詞)の連用形から転じた名詞で、「お言葉」の意。「まじ」は打消推量の助動詞「まじ」の終止形で、「……ないだらう……まい」の意。したがつて、傍線部1は「これを逃してはよいお言葉はないだらう」と訳すことができる。この傍線部を含む発言の直前に「弁慶・片岡は、土佐を失ひて(＝弁慶と片岡は、土佐坊を見失つて)」とあることから、「これ」は、弁慶らが見失つた「土佐坊」を指すと考えられる。また「仰せ」は、弁慶と片岡が尊敬語を用いるべき関係の人物、つまり、彼らの主君である義経のものだと判断できる。したがつてここでは、弁慶と片岡が、主君義経を襲撃した土佐坊正尊を取り逃がしてしまつと、義経からよいお言葉はないだらう、つまり、義経が機嫌を損ね、自分たちは叱責されるだらうと考えていることがわかる。解答は、以上の内容を指定字数内でまとめればよい。

問二 理由説明の問題。

「じ」は打消推量の助動詞「じ」の終止形で、「……ないだらう……まい」の意。「や」は係助詞、「けん」は過去推量の助動詞「けん(けむ)」の連体形「や」の結びの語で「……ただらう……たのだらう」の意、「やけん」で「……たのだらうか」と訳す。したがつて、傍線部2・4は、いずれも「かなうまいと思つたのだらうか」と訳すことができる。係り結びが文中で完結していることからわかるとおり挿入句であり、ここはいずれも作者が土佐坊正尊の心中を推測したものである。

傍線部2は、直前に「土佐これを見て」と記されていることに着目すれ

た幼少期に始まる前半生と、平家追討後、兄源頼朝と対立し、逃避行の末、奥州平泉で亡くなるまでの後半生とが本作品の中心的内容である。この作品中の義経は、眉目秀麗な人物として描かれており、前半では、武將として家臣との強い結びつきを築き上げる主人公としての姿を語ることが主だが、後半では、義経の周りの人物、中でも武蔵坊弁慶の活躍を描くことが多くなっている。このことが逆に、不遇な貴公子で悲劇的運命に翻弄された人物としての義経像を、伝説的に形作っていくことになる。このような人物への同情と敬愛が、後に「判官びいき」という言葉を生み出し、室町時代末期から江戸時代にかけては、能・幸若舞・浄瑠璃・歌舞伎などにおいて、「判官物」と呼ばれる作品群としての展開を見せることになる。

本文は、新編日本古典文学全集『義経記』（小学館刊）に拠ったが、読解の便宜を図って一部表記を改めた箇所がある。

【本文解説】

平家追討に際してめざましい活躍を見せた義経は、生け捕りにした平家の総大将・平宗盛とその子の清宗を伴い、鎌倉に下る。ところが、義経は、合戦の際に対立した兄頼朝の御家人・梶原景時の讒言によって、頼朝に不信を抱かれ、鎌倉に入ることを拒否されて相模国腰越（川現在の神奈川県鎌倉市腰越）に留め置かれた。義経は身の潔白を訴えるため、頼朝の側近である大江広元にとりなしを依頼する「腰越状」と呼ばれる書状を送ったが、ついに許されず再び都に戻った。

景時の度重なる讒言により、義経に対する不信感を募らせた頼朝は、土佐坊正尊に義経を討つよう命じる。そこで土佐坊は、頼朝の名代で熊野に参詣するように装い、手勢を率いて都に上った。都に到着した土佐坊は、武蔵坊弁慶ら義経の従者に主君を追討しに来たのではないかと疑われ、義経の前に引き出されるが、起請文を書き、無実の誓いを立てて逃れ、その夜、義経の宿所を襲撃した。激しい戦いの末、弁慶らの反撃にあって追いつめられた土佐坊は、鞍馬山に逃げ込むが、そこは幼い頃の義経が鞍馬寺で修行をしたと

いうゆかりのある土地であったため、鞍馬の衆徒に追い出されてしまった。問題文は、これに続く記述である。

鞍馬山を追い出された土佐坊は、僧正が谷に身を潜めたが、大勢の追っ手に攻められたため、鎧を脱いで貴船神社に奉納し、とある大木の空洞の中に逃げ込んだ。しかし追っ手に発見され、結局、弁慶と佐藤四郎兵衛に挟み撃ちにされて捕らえられた。この時の土佐坊が、慌てず騒がず悠然とした態度を示しているのは印象的である。

義経の前に引き出された土佐坊は、生きて帰りたいければ鎌倉に帰してやるという義経に対して、捕らえられた時同様泰然として、今さら鎌倉に帰っては面目を失うことになるので、武士としての名誉を守るために首を刎ねてほしいと、潔く死を願った。

土佐坊の覚悟に感じ入った義経は、彼を処刑するかどうか決めかね、結局弁慶にその処置を委ねた。これを受けた弁慶は、土佐坊のような怪力の持ち主を牢に閉じ込めておいては、いずれ牢を破って逃走して不都合なことになるだろうと判断し、即刻処刑するよう命じたため、土佐坊は六条河原に引き出され、息子の太郎、従兄弟の伊北五郎とともに斬られたのであった。

この後、土佐坊が処刑されたことを聞いた頼朝は激怒し、義経との対立をますます深め、やがて義経の都落ちから奥州平泉における鎌倉方の大軍に攻められての死という悲劇につながってゆくのである。

なお、土佐坊の義経追討から処刑までの話は、『平家物語』巻十二「土佐坊被斬」にもあるが、ここでは、土佐坊が処刑された直後に、「ほめぬ人こそなかりけれ」と、賞賛の言葉が記されている。これは、土佐坊の潔さに、世間の人々も感動したことを示すものであろう。

【全文解釈】

土佐坊は鞍馬を追い出されて、僧正が谷に隠れた。大勢が続いて攻めたので、鎧を貴船の大明神に脱いで差し上げ、とある大木の空洞に逃げ込んだ。弁慶と片岡は、土佐坊を見失って、「どうであっても、これを逃がしてはよい

いったことが述べられていた。これは、筆者が「人間同士の関わり合いにおける感情の重要性といった問題について、思いをめぐらせている」ということである。しかも、①・②の話は③・④の話題の「糸口」（＝手がかり、きっかけ）になっている。したがって、このイが正解である。

ウ 「自らもつまらぬ失敗から不正乗車を疑われた経験をもつせいで、日比谷で車掌から詰問されていた男に対して同情した」とあるが、これは出来事の生じた順序や因果関係の説明として、大きく間違っている。筆者自身が不正乗車を疑われたのは、「日比谷で車掌から詰問されていた男」を見てから、「四、五日経って」のことである。

エ 車掌と電車監督の対照的なあり方から、「人を盗賊と思う国とそうは思わない国のことを想起し」という説明が、誤り。電車監督は、車掌などを監督する立場にあり、車掌に「欠穴の検査を特に厳重」にするように命じる立場の人である。そういう人から、乗客を信用し切符を厳しく検査したりはしない西欧の国を想起したとは考えられない。

オ 「物質に即した分析」や「問題の本質を実証的に解明」というのは、切符の欠穴の標本を集めて分析してみるべきだと述べられている③の内容と、合致していないわけではない。ただ、筆者はそうした「分析」や「解明」を実際に行っているわけではないし、ましてやそうした行為によって「自分の無実を証明していった」わけではない。

問六 寺田寅彦の文学上の師にあたる明治を代表する小説家の筆名が問われている。『草枕』『三四郎』などの著者でもあるというヒントからも、夏目漱石という正解が導き出せたはずである。

【出典】のところで記したように、寺田寅彦は、物理学者でありながら、随筆や俳句などにも優れた作品を残している。その背景には、彼が旧制第五高等学校で、夏目漱石に英語を学び、俳句を手ほどきされるなど、強い影響を受けたことがある。実際、彼は、物理学者として研究に没頭する一方で、漱石の家をよく訪れ、漱石をかこむ文章会などに参

加し、自分自身で文章を書くことに情熱を傾けた。ちなみに、夏目漱石の『吾輩は猫である』の水島寒月や『三四郎』の野々宮宗八といった登場人物は、寺田寅彦をモデルとしたものだと言われている。

古文

【解答】

問一 土佐坊正尊を取り逃がしてしまったら、主君の源義経から叱責されるだろうということ。(40字)

問二 2 武蔵坊弁慶が太刀を振りかざして近寄って来たから。

問三 4 片岡経春が谷底で待ち伏せているとわかったから。

問四 3 評判の 5 連れて 7 すぐに

命を助けてやつてもよいと言われても、武士は名誉を重んじるもので、生きて帰っても面目がないと言い、潔く死を願った点。(59字)

問五 べき

【配点】(50点)

問一 10点 問二 6点×2 問三 4点×3 問四 12点

問五 4点

【出典】

『義経記』巻第四「土佐坊義経の討手に上る事」の一節。

『義経記』は、室町時代初期から中期にまとめられたとされる軍記物語で、全八巻から成る。作者は未詳。平安時代末期から鎌倉時代初期に生きた源義経を伝記的に描いた作品である。ただし、『平家物語』に見られる、平家追討軍の大将としての義経の活躍ぶりにはほとんど触れることがなく、『平家物語』に語られなかった部分を補足するような形となっている。牛若しやわかと呼ばれ

問四 傍線部には、以下の二つの要素が含まれている。

- ① 電車に乗る度に、筆者が見たような場面を見せられる
- ② もしそんなことになったら、われわれの「感情美」に対する感覚が、日に日に麻痺していく可能性がある

この二点が、それぞれどういう意味をもっているかを考えてみよう。

- ① 傍線部の「私が日比谷で見たような場面」とは、直接には本文①に描かれている。それは、若い乗客が不正乗車を疑われ、車掌が乗客を執拗に追及する場面であった。筆者は、その車掌の「人の弱点を捕えて勝ち誇ったような驕慢な態度」を不愉快に感じた。つまり、「私が日比谷で見たような場面」とは、車掌が乗客の不正を疑って(↓a)、乗客に驕慢な態度をとる(↓b)ような場面である。

- ② そうした場面をたびたび見せられると、「われわれの『感情美』に対する感覚は日に日に麻痺して行きそう」だと筆者は述べる。では、『感情美』に対する感覚」とはどういうことか。これについては、傍線部の次の段落もヒントになるが、この部分の内容はやや難しい。それよりも、そのあとに続く二つの段落の内容を手がかりとしたほうがわかりやすいだろう。

筆者は、日本の電車のあり方とは対照的なものとして、フィンランドの電車のことを思い出す。乗客の不正を疑い、切符を回収してその欠穴を厳重に検査する日本とは違って、フィンランドの電車では、車掌に切符をいちいち回収させたりはしないのである。こうしたフィンランドのことを、筆者は「人を盗賊と思わない」国だと言っている。これは言い換えれば、人を必要以上に疑わず、信用しているということであろう。したがって、「感情美」とは、他人を信じようとする感情のことだろうと考えることができる。つまり著者は、a・bのような場面をたびたび見せられると、われわれは他人を信じようとする感情を失いかねない(↓c)と述べているのである。

以上の内容をふまえて、傍線部を過不足なく言い換えればよい。ポイントは次のようになる。

- a 人が不必要なまでに人を疑う
- b 相手に驕慢な態度をとる
- c a・bのような場面に幾度も接していると、われわれは他人を信じようとする感情を失いかねない

問五 こうした問題では、それぞれの選択肢を本文と丁寧に照合し、消去法で解答を確定していこう。

ア 「相手の犯した罪を徹底的に糾弾する日本人の態度」も、「相手の犯した罪に対して寛大な態度をとる西欧人」も、本文に述べられていない内容。本文で述べられているのは、東京の電車の車掌が「相手が罪を犯しているのかどうかわからないのに、その相手を必要以上に疑う」ということや、フィンランドの電車では「相手を必要以上に疑わない」ということだけである。実際に人が犯してしまった「罪」に対してどういう態度をとるかといったことは、本文には書かれていないのだ。また、日本と西欧の「感情美」の違いなども、本文には書かれていない。

イ 本文の①では、不正乗車を疑われた若い乗客を見て不愉快になったことが述べられ、②では、自らが不正乗車を疑われ不愉快な思いをしたことが述べられている。さらに③で、筆者は切符をめぐるトラブルを避ける方法を提案しているのだが、これは具体的には、切符の欠穴をいじるとそれがどのように変形するかを観察し、また変形した欠穴の「標本」を蒐集して車掌たちに見せるべきだといったものである。したがって、これは「科学的なものの見方を日常に応用することの可能性」を論じたものだといえる。最後の④では、電気局も乗客を相手とするからには乗客の感情まで考えなければならないということや、「感情美」の重要性と

そこで、筆者が、いたずらに乗客を疑ってその名誉を傷つけるべきではないといったことを述べている箇所を探してみる。本文はやや長いので容易には見つからなかったかもしれないが、筆者は③の部分で、切符をめぐるトラブルを避けるための方法を具体的に提案していた。その提案は、「電車の切符について起り得る錯誤のあらゆる場合を調査し」、「不正な動機から起るものの外に、どれだけ色々の場合があるかを研究し列挙して車掌達の参考に入れておく」べきだというものである。これは現実にはたいへん手間にかかることだと思われるが、筆者は③の最後で、「事柄が人の「顔」にかかる事であるから、このくらいの手を足す（＝手間をかける）のも悪くはあるまい」と述べている。

そして、ここでの「顔」という言葉は、比喩的に「名誉、体面」を意味していると考えられる。もともと「顔」という言葉には「面目、体面」といった意味があり、「顔を立てる」とか「顔をつぶす」とかいった慣用表現もある。したがって、この「顔」が正解。「比喩的」な「漢字一字の語」という条件にもきちんと該当している。

なお、傍線部の直前に「時代と場所がちがっていて」とあるが、これは具体的にいえば、同じことが江戸時代などに起きていたらどうなっていたであろうというようなことである。人が名誉や体面といったことを極端に重んじていた時代に同じようなことが起きたら……ということ、筆者は仮定しているのであろう。

問三 まず、傍線部の「自分の軽率な行為」とはどういうことを考えている。傍線部の直後にあるように、筆者は、交番に入ると藝口から「自分の公用の名刺」を出して警官に渡した。それは切符の欠穴をめぐるトラブルを出来るだけ速やかに解決するためであった。では、その行為がどうして「恥じる」べきもののなのか。

ここで、筆者にとって名刺というものがどういう役割をもっているのかを考えてみてほしい。単に自分の名前を告げるだけなら、名刺など必要な

い。商取引などの場面では互いの連絡先などを教えるために名刺の交換がよく行われるが、筆者は警官とそうした関係を作りたいわけでもない。しかもリード文にあるように、筆者は東大教授であるのだから、その「公用の名刺」には東大教授の肩書きが記されているはずである。もちろん、そうした肩書きには社会的権威が備わっており、当時の社会における「東大教授」の権威は、いまのそれよりもはるかに大きなものだったろうと考えられる。つまり筆者は、個人的なトラブルを解決するために、東大教授の肩書きのもつ社会的権威を利用しようとしたのである（↓c）。

もう一つ注意してほしいのは、トラブルの原因が、筆者が考えごとをしながらか切符の欠穴をもみ抜けてしまったことにあったという点である。事の発端は筆者の行為にあるわけで、そのことを筆者も、「自分の落度」（傍線部b直前）であると認めている。つまり、自分にも非があったにもかかわらず（↓a）、東大教授の肩書きや権威を利用して事を収めようとしたことを、筆者は「愚か」で「卑怯」で「恥曝（おどろ）」な行為だと恥じている（↓d）のである。

さらに、筆者が結果的にそうした卑怯な行為をしてしまうことになったのは、「事柄の落着き出来るだけ速やかにするにはその方がいいと思っ」たから（↓b）であると、傍線部2の少し後に述べられている。この点も確認しておきたい。

以上の内容を整理すると、次のようになる。これらをまとめればよいのだが、本文中で使われている表現をつなぎ合わせるだけではうまくまとまらないと思われるので、自分なりに言い回しを工夫してみよう。

- a 自分にも非があったにもかかわらず
- b 切符をめぐるもめごとを手っ取り早く解決しようとして
- c 自らの肩書きのもつ社会的権威を利用した
- d (a+c) この上なく愚かで卑怯だと感じた

〔本文読解のポイント〕

本文で述べられている筆者の心情や主張を、あらためて整理しておこう。筆者に本文を書かせたきっかけとなったのは、①・②で述べられている出来事である。これは考えようによつては些細なことなのかもしれないが、筆者はそうした出来事をきっかけに思いをめぐらせ、話を大きく拡げて③や④へと展開させている。これは、筆者にとつて、車掌の態度がよほど腹立たしく感じられるものだったということなのかもしれない。また、些細な話題から科学的な検証の重要性や文化論的な話題へと拡大させていくその語り口、文筆家としての筆者の力量を見ることができよう。

① 不正乗車を疑われた若い乗客を目撃したこと

- ・ 車掌が乗客の不正を疑い驕慢な態度をとるのを見て不快に思った。
- ・ これが人の名譽に関わる場合だったら、ただではすまないだろう。

② 不正乗車を疑われた筆者

- ・ 自分にも非があるものの、不正を疑われたのは腹立たしい。
- ・ 事態を速やかに解決するためとはいえ、自分の肩書きを利用しようとしたのは愚かだった。

③ 切符をめぐるトラブルをなくすための提案

- ・ 科学的な見方を応用し、切符をめぐるトラブルをなくすべきだ。
- ・ それは手間のかかることであるが、人の名譽が関係することなのだから、それくらいのことをしてよい。

④ 切符の欠穴の嚴重な検査が人間精神に与える影響

- ・ 人が人を必要以上に疑う場面などを見せつけられ続けると、日本人の「感情美」に対する感覚が失われかねない。

【設問解説】

問一 言葉の知識を問う問題。語彙力は、現代文の読解の基礎となるものである。日頃から、知らない言葉に出会ったなら、辞書で確認するなど語彙力の強化に努めるようにして欲しい。

a 「水掛論」とは、へお互いが自分の主張をまげず、決着がつかないまま言い争いが続く議論」という意味。したがって、正解はエである。ア・イ・ウにはどれも「言い争い」という意味合いがない。オの「誹謗中傷」とは「人の悪口を言う」という意味だが、これだけでは「主張を曲げない」という意味合いが欠けている。

b 「度外視」は、もともと「範囲の外にあるものと見なすこと」といった意味で、一般には「関係のないものとして無視すること、問題にしないこと」という意味で使われる。したがって、イの「不問にして」が正解である。「不問」とは、文字通り「あえて問いたさないうこと、問題にしないこと」である。エがやや紛らわしいが、「帳消し」というのは「いらいろあつた損得などが結局なくなってしまうこと」であり、最初から問題にしないという意味の「度外視」とは異なっている。

問二 設問にあるように、「Honour」は「名譽、面目、体面」といった意味だが、本文ではどのような文脈で使われているのかを確認しよう。傍線部を含む段落では、不正乗車を疑われた若い乗客に対し、車掌が「勝ち誇ったような驕慢な態度」で追及することへの批判が述べられていた。そして筆者は、こうした場合に、疑われた者が不正を行つてはおらず、単なる誤謬や過失が原因だったらどうなるのだろうかと考え、さらに、それが「人が自分の生命に賭けてもHonourを守るような場合」であつたら、ただではすまないだろうとも主張する。つまり筆者は、車掌が乗客の不正を疑い、驕慢な態度で乗客を追及するのは、乗客の「Honour（＝名譽）」を傷つけることになるので、車掌がいたずらに乗客の不正を疑うべきではないと考えているのである。

ろう)。つまり筆者は、その大きな社会的権威をもつ肩書きにものを言わせて、切符の欠穴をめぐるトラブルを速やかに解決しようとしたということになる。しかも、そのトラブルの原因は、筆者が考えごとをしながら切符の欠穴を無意識にもみ抜けてしまったことにあった。「自分の落度」(傍線部bの直前)から招いたトラブルを手取り早く解決するために肩書きとその権威を利用しようとしたことを、筆者は自ら省みて「軽率な行為」だと言い、また「愚か」で「卑怯」な行為だと恥じているのである。

警官の話によれば、電車では切符の欠穴の検査を特に嚴重にしろという指示が出されており、車掌たちはその指示に忠実に従っていたのである。その後、こうしたトラブルの処理に慣れている電車監督らしき人がやって来て、愛想よく対処してくれた。筆者は、恐縮して監督と警官に丁寧に挨拶し、その場を立ち去った。

③ 切符をめぐるトラブルをなくすための提案(「仕合せな事には、……」から「……このくらいの手を足すのも悪くはあるまい。」まで)

次にここでは、筆者がこの文章を書いた意図を説明している。

幸いなことに、筆者が遭遇したトラブルには、こうしたことにつきものの人だかりはできなかった。したがって、筆者のこの失敗は、筆者が文章にしなければ関係者以外には伝わらなかったはずである。では、どうして筆者はわざわざ自分の失敗を公表するようなことをしたのか。筆者の失敗は、筆者と同じように切符の欠穴をいじってしまう癖をもっている人にはよい教訓になるし、また電車を運行している電気局や車掌たちには、そうした癖をもった乗客がいることを知らせるだけの役には立つと思ったからである。

そして筆者は、切符の欠穴をいじっていくと、欠穴がどのように変形していくのかを観察した結果を記すとともに、そのように変形した欠穴の「標本」を電気局が蒐集し、車掌たちに見せることを提案している。さらに、電車の切符に関して、不正乗車をする意図がないにもかかわらず、不正を疑われてしまうというケースにはどのような場合があるかを研究し列挙して車掌たち

に教えておくことも提案している。

もちろん、こうした提案に、科学者としての筆者のものの見方が生かされていることは言うまでもない。それと同時に、こうした提案の背後には、職務とはいえ、車掌が乗客のちよつとした過失を取り上げて不正乗車を疑うのは、人の「顔(＝名譽)」に関わる問題だという筆者の認識がある。つまり、筆者の考えでは、電車を運行している電気局は、人の名譽が関係することだから、出来るだけの研究や努力をして、いたずらに乗客に不正乗車の嫌疑をかけないようにすべきだというのである。

④ 切符の欠穴の嚴重な検査が人間精神に与える影響(「車掌も乗客も全く事柄を……」から本文末まで)

最後に、ここでは切符の欠穴の嚴重な検査が人間の精神に与える影響について論じられている。

電車を運行する電気局は、物質だけを扱う役所とは違って乗客を相手にする以上、仕事が市民に及ぼす精神的効果まで考慮に入れる必要がある。切符の欠穴の検査もやり方によっては、人びとの精神に大きな影響を与える。

たとえば、筆者が日比谷で見たような場面を毎日電車に乗るたびに見せられたとしたら、どうなるのか。「われわれの『感情美』に対する感覚は日に日に麻痺して行きそうである」という(この傍線部3については【設問解説】の問4で詳しく説明する)。

十数年前、筆者はフィンランドを旅したとき、乗客が電車の切符を無人の車掌台の箱に投げ込んでいるのを見た。乗客を信用し、車掌に切符をいちいち回収させたりはしないのである。フィンランドやそれに類する国々のことを、筆者は「人を盗賊と思わない国々」だと言っている。これは裏返せば、切符を回収してその欠穴を嚴重に検査する日本は「人を盗賊だと思ふ国」だということになるのであろう。

ことを述べたものである。今から九十年余り前に書かれた文章であり、自動改札の普及した現在、「切符の欠穴」などと言われてもピンとこなかったという人も多かったかもしれない。ただ、本文は平明な文体で書かれており、現在の高校生にも十分理解可能なものであったはずである。

では、本文を便宜上四つの部分に分け、その内容を確認していこう。

① 不正乗車を疑われた若い乗客を目撃したこと（本文冒頭から、「……暑苦しい心持をさらに増したのであった。」まで）

電車が終点に近づくなか、筆者の目の前で、車掌が若い乗客と押し問答を始めた。車掌は、切符の欠穴がちがっていることから、若い乗客の不正乗車を疑っているようだ。立派な身なりの若い乗客は、小さな声で穏やかに何かを言っていたが、結局、新しい切符を出して車掌に渡そうとした。ところが、車掌はそれを受け取ろうとせず、乗客に詰め寄るように声高にものを言い、執拗に乗客の不正を追及しようとしていた。

そうした場面を目撃した筆者は、不愉快な気分になりすぐに電車を下りた。筆者には、若い立派な男がわずか一枚の切符のために不正を働き自分の魂を売ろうとしたとは思にくかった。もちろん、真実はわからない。ただ、筆者には、このときの車掌の態度がはなはしく不愉快に感じられた。仮に乗客の不正行為を示す証拠らしいものがよほどあったとしても、人の弱みにつけこんで、「勝ち誇ったような驕慢（おごり高ぶって、人を侮ること）な癖（くせ）（性質などが荒々しく悪いこと）な態度」をとるといふのは、見ていて「醜い厭な感じ」がしたのである。

② 不正乗車を疑われた筆者（それから四、五日……）から「……結局渡さなかったのである。」まで）

それから四、五日後のこと、今度は筆者自身が不正乗車を疑われることになった。

筆者は電車に乗ると往復の切符二枚を買い、パンチを入れた切符を左手で

つまんだまま、仕事のことを考えはじめ、それに夢中になった。筆者には、考えごとをするとき、手に持っているものを無意識にいじってしまうという癖があり、このときも左手の指先で切符の欠穴のところを無意識にいじっていた。

目的地に着き、切符を車掌に渡して電車を下りようすると、車掌は切符にもう一つパンチを入れ、欠穴の大きさがちがうと言って、筆者に不正乗車の嫌疑をかけはじめた。実際、切り立ての欠穴に比べ、筆者の指先でもみ詰められた穴は、形の痕跡だけはちゃんと残っているものの、穴の直径が二、三割くらい大きくなっていった。代わりの切符をもう一枚出して下ろしてもらった方が簡単だと思ったが、そうすると自分の無実の罪を承認することになるような気もしたので、筆者は黙って電車を下りてしまった。すると、車掌はニヤニヤした顔で「もう一枚頂きましょう」と言った。その車掌の「特殊な笑顔」を見て、筆者は全身の血が一時に頭の方へ駆け上がるような気がして、つい「それじゃあ、交番へ来てくれたまえ」などと言ってしまった。公平な第三者の力を借りなければ、いつまでたっても決着がつかないと考えたのである。

交番では、警官が筆者と車掌から事情を聞き、電車を待たせないために車掌の姓名を自署させるとすぐに帰し、筆者には「貴方御いそぎですか」と聞いた。筆者は、忙しそうであったにもかかわらず丁寧に應對してくれた警官に好印象を持ったが、同時に「自分の軽率な行為を恥じる心がかかなり強く起った」という。それは、どうしてか。

筆者は、交番に入ると、墓口（口金のついた銭入れ）から自分の「公用の名刺」を出して警官に渡してしまった。リード文にあるように、筆者は東大教授なのだから、その公用の名刺には当然そうした肩書きが記されているはずである。現在でも、有名大の教授といった肩書きは大きな社会的権威をもつと思われるが、本文が書かれた大正時代には、その権威は今以上に大きかったと考えられる（そのことは、当時は今より大学の数がはるかに少なく、したがって大学教授の数も少なかったことを考えても、容易に推測できるだ

オ まず「礼儀作法とは都市的な空間に生きる人びとを支配するものだ」は、本文冒頭の一文に対応している。さらに選択肢後半についても、第6段落後半の内容に合致している。本文によれば、「流行」が創作されると、それを「先導する個人が現れ、それを支持する先駆的な集団が成立すると……礼儀作法が誕生する」。これは、「礼儀作法」が「さかのぼれば……流行のようなものに端を発している」ということであろう。したがって、このオは正解である。

カ 「都市的な空間を一つの社交場ととらえる見方」は、本文冒頭の一文で提示されている。そして本文の議論は一貫してこうした見方にもとづいて展開されており、最終段落では、「これまでの考察から言えること」として、「文化には普及力の異なる二つの明瞭な層があるということ」、つまり、文化には広域へと伝播していくものとそうでないものとがあるということが述べられている。以上のように考えると、筆者は、「都市的な空間を一つの社交場ととらえる見方」にもとづいて、「文化がなぜ広域へと伝播していくのかといった問題」について考察していることになる。したがって、このカも正解である。

Ⅲ 現代文

【解答】

問一 a エ b イ

問二 顔

問三 自分にも非があったにもかかわらず、切符をめぐるもめごとを手取り早く解決しようとして、自らの肩書きのもつ社会的権威を利用したことを、この上なく愚かで卑怯だと感じたということ。(87字)

問四 人が不必要なまでに人を疑い、相手に驕慢な態度をとる場面などに幾度も接していると、われわれは他人を信じようとする感情を失いかねないということ。(70字)

問五 イ
問六 夏目漱石

【配点】(50点)

問一 3点×2 問二 6点 問三 14点 問四 12点
問五 8点 問六 4点

【出典】

寺田寅彦「切符の欠穴」(初出は『中央公論』一九二二年九月号)。今回の本文は、『寺田寅彦全集 第三卷』(岩波書店 一九九七年)に拠った。なお、出題の都合上、途中に省略した箇所がある。

寺田寅彦(てらだ・とらひこ)は、一八七八年東京に生まれたが、少年期を父の郷里の高知で過ごす。熊本旧制第五高等学校で、夏目漱石に英語を学び、俳句の手ほどきを受ける。一九〇三年東京帝国大学物理学科を卒業、大学院に進み、翌年講師となる。音響学、地球物理学などの実験的研究に従事、尺八の音響学的研究で理学博士の学位を得る。一九〇九年には助教となり、二年間ドイツに留学し、地球物理学を研修。一九一六年に東大教授となり、物理学、地球物理学、地震学などの領域で幅広く活動した。その一方、五高在学中より漱石を師と仰ぎ、いわゆる「理系」でありながら、漱石の門下の小宮豊隆、安部能成をはじめとする文学者、哲学者などとも親交を結び、随筆や俳句などにも優れた作品を残した。特に科学と文学を巧みに調和させた随筆に対する評価は高い。一九三五年に病没。

【本文解説】

本文は、電車で不正乗車を疑われた若い乗客を目撃したことや、自身が不正乗車を疑われた経験をもつかけに、そうしたトラブルを防ぐための方法、また人間関係における感情の重要性などについて、筆者が思いをめぐらした

る(↓b')。また、そうした慣習は親密で日常的な人間関係のなかで繰り返されるものでもあった(↓c')。

次に、右のような「共同体の慣習」の特徴とは対照的な、「礼儀作法」の特徴を確認しよう。まず第4段落を見ると、「共同体の慣習」が「無意識」に習得されるものであるのに対し、「礼儀作法」は「意識的」に学習されるものだと述べられている。これを第5段落の内容に即して考えれば、「礼儀作法」とは「**自己関係**」、つまり「**見る人と見られる人の緊張関係**」を前提にしているということであり、ときには「**見せることを意識した行動**」にもなるということである(↓b)。

さらに最終段落を見ると、「礼儀作法」は、「生活慣習」よりも「広い地域に拡散する」とある。つまり「**礼儀作法**」は「**異質者を教化**」するはたらきを持つていたのであり(↓c)、だからこそ、それが「政治」と強く結びついていると言えるのであろう。

これで解答に必要な要素はほぼそろったが、もう一点、解答に説得力と整合性をもたせるために、本文冒頭の二つの段落で強調されていた、政治には社交の一面がある(↓a)ということも指摘しておいたほうがいいだろう。傍線部では「慣習」が「政治」に対して無力だということが述べられているのだが、本文で「慣習」と直接的に対比されているのは「礼儀作法」である。したがって、なぜ「政治」が「礼儀作法」と結びつくのかということを考えると、「政治」とは「社交」でもあるということを説明することが必要になってくるわけである。

以上から、解答に必要な要素は次のように整理できる。これらを、a・cとb'・c'を対比するようなかたちでまとめるといいたろう。

- | | |
|---|------------------------------|
| a | 政治には社交の一面がある |
| b | そこで必要な礼儀作法とは、他者を意識した行動である |
| c | その礼儀作法には、異質な者を教化・支配するはたらきがある |

⇒

b' 共同体の慣習は、無意識な行動の型である

c' 共同体の慣習は、親密で日常的な人間関係にのみはたらく

問七 各選択肢を本文の内容と丁寧に照合しながら、正解を特定していこう。

ア 「有能な政治家になるためには……多様な職能を獲得していくことが求められる」という箇所がおかしい。たしかに第1段落の後半では、政治家が「サロンの女主人」「職業的なホスト」「社交家」「役者」「演出家」「装置家」といったさまざまな役割を担うよう求められるという内容が述べられている。しかし、これは政治家にはさまざまな役回りが要求されるということ、他の職種などを例にとって比喩的に述べているのであって、実際にそうした「多様な職能(＝職業上の能力)」を獲得することが求められているということではない。

イ 「政治」が「都市に生きる人びとを情緒的な次元で強く結びつける」という箇所が、第3段落の内容に反している。「とりわけ情緒的な次元で人びとの強い紐帯となる」のは、「政治」ではなく「生活慣習」のほうである。

ウ 「ごく日常的な行動の次元においても、他人に笑われないような動作を保持する努力は必要である」という箇所が、第4段落の内容に反している。「人の笑いを買わないように練習しなければならぬ動作」というのは、たとえば「儀式的に美しく歩く」という行為のように、「礼儀作法の観点が導入され」た動作である。「礼儀作法」というのは「生活慣習」という「日常的」なものとは対照的なものとされているのだから、「ごく日常的な行動の次元においても、他人に笑われないような動作を保持する努力は必要である」というのは誤りである。

エ 「異質な礼儀作法どうし」のあいだで「**齟齬**(そご)（＝くいちがい）」が生じるといった内容も、それらが互いに「作用」しあうといった内容も、本文には述べられていない。

IIでも簡単に説明したが、ここではあらためて、この段落全体の論の流れを確認してみよう。

・段落冒頭の一文で筆者は、「都市の礼儀作法」が「広く家庭や村にもある慣習一般」とは「違う」ということを主張する。

←
・ところが、その後で筆者は、「生活慣習」も「礼儀作法」と同様に集団の成員を結びつけるはたらきを持っており、「礼儀作法」も半ば「慣習」のようにならないければ機能しないと述べる（礼儀作法と生活慣習の共通点の指摘）。

←
・だから、「礼儀作法」と「生活慣習」が違うのかということは、「微妙」な「問題」ではあると述べる（傍線部）。

←
・しかし、やはり両者には明らかな違いがある、とあらためて強調する。

要するに、筆者が主張したいのは、基本的には「礼儀作法」と「生活慣習」の違いのほうなのである。にもかかわらず、両者には共通点もあるため、両者を本当に違うものとして語ることができるかどうかは「微妙だ」と述べられていたのである。以上の内容を把握できれば、それに対応した選択肢であるAが正解だと判断できるだろう。

では、他の選択肢についても見ていこう。

イ「生活慣習」と「礼儀作法」との違いは、それが「どのような集団に共有されているのか」がはっきりしないとわからないという趣旨の選択肢である。しかし、そうしたことは本文には述べられていない。

ウ 本文には、「礼儀作法」と「生活慣習」のどちらにも「集団統合のはたらき」があるということは述べられているが、ここでは、そのどちらが「強い集団統合のはたらきを備えているか」といったことが問題にされているわけではない。

エ「礼儀作法」を「法や契約にもとづいたものだ」とする説明が、本文には見られない。また、「両者のどちらを集団統合の原理と見なすか」といったことも、本文にない。本文に述べられているのは、単に両者がともに「集団統合」のはたらきを持っているということだけである。

オ「礼儀作法」について「無意識的に身につけられた慣習にならないければ機能しない」としているのが不正確。本文には「よく機能するためには……半ば慣習化されねばならない」とあるだけである。また、生活慣習が「集団を統合するものとしてつねに機能している」かどうか、本文からは確定できない内容である。

問六 まず傍線部の意味を確認しよう。（本文読解のポイント）でも整理しておいたように、本文では、一貫して「共同体の慣習」と「都市の礼儀作法」とが比べられていた。そして後者が「政治」と結びつくものだということのだから、逆にいえば、「共同体の慣習」は、「礼儀作法」と結びついた「政治」とは無縁なものだということになる。そう考えれば、傍線部の意味が（礼儀作法と結びついた）政治に対して、共同体の慣習は無力である、といったことだとわかるだろう。

そして、この設問で問われているのは、傍線部の理由である。XはYに対して無力である、ということとは、傍線部直前で述べられているとおり、XとYとの間に「区別」があるということなのだから、その理由を説明するためには、XとYの違いを説明すればよいことになる。したがって、この問題の解答は、政治やそれと結びつく礼儀作法が○であるのに対して、共同体の慣習は△であるから、といったものになるはずだということがわかるだろう。こんなふうに、まず解答全体の方向性やかたちをイメージしてみると、記述問題に答える際には重要である。

では、まず「共同体の慣習」の特徴を確認してみよう。これについての詳しい記述がある第4・5段落を見ると、「生活慣習」とは「無意識」に習得されるものであり、「情性化された行動の型」とであると述べられてい

問三 慣用的な表現についての問題。

空欄前後では、「礼儀作法」という観点が導入されることで、一つひとつの体の動きまでもが、「学習」や「練習」の対象として注視されるようになる」といったことが述べられている。この文脈から「一挙手一投足」という慣用的な表現に思い至ることができれば、二つの空欄には順次「手」「足」が入るとわかっただろう。

「一挙手一投足」とは、文字どおりに一度手を挙げ、一度足を踏み出す」という意味から転じて、「細かな一つひとつの動作」という意味をもつようになった言葉である。

問四 まず、傍線部の直後を見ると、「過度に理想主義的な政治」が「失敗する」のは、政治が社交と同様の性格をもつ(↓a)ことを忘れてしまっているからだといった理解を得ることができる。

ただし、もちろんこのままでは十分な説明とは言えない。では、政治がもっている「社交としての一面」とはどのようなことだろうか。そこで、いったん第1段落前半に目を転じると、「そのかぎりでは政治とは社交の別の名だ」としても過言ではないだろう」と述べられていることに気づく。

「そのかぎりでは」が指す内容は、その直前で言われている内容、すなわち「政治には、社交場で礼儀作法に服して交際する人びとのつながりをつくる技法という一面がある」といったことである。そして、この内容が第二段落でより端的に「政治が人間集団の秩序をつくるアルスであるのは確かだろう」と説明し直されているのである。したがって、政治と社交に共通する性格としては、人間集団を秩序立てる技法だ(↓b)という点を指摘しておけばよいことになる。

ところで、傍線部で「政治」が「過度に理想主義的」だと「失敗する」と述べられていることからすれば、「過度に理想主義的」な「政治」は何らかの問題点があるからこそ「失敗する」ものと考えられる。そこで、「政治の理想」が抱えている困難に関連する記述を本文から探すと、傍線部のあ

る第2段落から、次のような箇所に注目できる。

- ・「(政治の) 目的を言葉で限定することがきわめて難しい」
- ・「政治の目的をひとりで表すことは不可能である」
- ・「秩序の概念はあまりにも多義的だ」

・「政治の理想はさまざまに語られてきたが、それぞれの歴史的條件を勘定に入れればすべては相対的でしかなかった」

これらの記述を「理想主義的な政治」と、それとは異なる「政治の実際」という二つのレベルに分けて整理すると、次のc・dのようにまとめることができる。

c 政治の実際 || 目的はひとりで表せず、秩序の概念は多義的(相対的)

⇔

d 理想主義的な政治 || 目的を言葉で一つに限定(絶対的)

つまり、過度に理想主義的な政治は、「政治の実際がcであるにもかかわらず、それとは相容れないdを理想とし、めざしてしまう」からこそ、現実的な政治と乖離し、失敗してしまうというのである。

解答は、以上のa・dをまとめればよい。あらためてポイントを整理すると、次のようになる。

- a 政治は社交と同様の性格をもつ
- b 政治は人間集団を秩序化する技法である
- c 政治における秩序の概念は多義的である
- d 政治において一つの絶対的な理想を掲げることは現実的ではない

←

問五 傍線部が何を言っているのかを理解するには、ここを含む第3段落全体の文脈を把握する必要がある。第3段落の内容については【本文解説】

要するに筆者は、都市における「礼儀作法」とはどういうものかということとを、「生活慣習」と対比しながら論じているのであり、本文の主題はこうしたことに集約できる。ただし筆者は、第2段落で「政治とはけつして単純なものではない」という話題も取り上げ、第3段落の傍線部2に至る部分では「礼儀作法と生活慣習には似ている点もある」ということも述べている。これらの部分に必要以上にとらわれることなく、右の図式にまとめたような内容をつかむということが、今回の本文の読解では重要であろう。

なお、筆者は「礼儀作法」を「都市」のものだと言っているが、その理由が本文中には述べられていないので、簡単に説明を加えておこう。

本文での「都市」という言葉は、第3段落冒頭の一文などからわかるように、「家庭や村」といった言葉と対照的な意味で使われている。「家庭や村」とは、一般に伝統的な「共同体」(傍線部3)と呼ばれるものであり、社会学では「ゲマインシャフト」(第3段落)などと呼ばれるものだ。そうした共同体の成員はほとんどが顔見知りであったり、同じような社会的環境のなかで生活していたりする。したがって、そこでの「生活慣習」は、とくに他人の目を意識することなく繰り返しされる日常的で情性的なものになる。

これに対して都市は、多様な人間によって形成されている。たとえば東京という都市には、日本全国やときには海外から、さまざまな生活慣習をもった人が集まってくる。こうした多様な人間同士が「社交」を行おうとしたら、意識的につくられた礼儀作法に従わなければならないのである。

そして「政治」も、そうした「社交」という「都市」的な文化と密接な関係をもっている。国家や自治体とは、都市同様、さまざまな異なる生活慣習をもった人びとの集合体である。そうした国家などを統合するためには、意識的につくられた「礼儀作法」が必要となる。筆者はこうしたことを述べているのである。

【設問解説】

問一 漢字の書き取り。

a は「ものの数量や金銭などを数えること」という意味で、「勘定」。b は「根元に土をかけて植物を育てる」という原義から、植物以外のものも含めて「大切に養い育てる」という意味をもつようになった「培(う)」。c は「ふいに出会うこと」という意味で、「遭遇」。d は「世間一般の人々にわかりやすく親しみやすいこと」という意味で、「通俗」。そしてe は「すべてで能力や価値などが同程度であること」という意味で、「匹敵」が正解である。

漢字問題では、問われている漢字が正確に書けることはもちろんだが、それ以前に、問われている語句そのものの知識が前提となる。漢字問題には語彙問題の一面もあることを念頭に置いて学習していこう。

問二 語句の意味に関する問題。

甲 「けだし」は、現代の文章では必ずしも頻出の語句ではないが、「物事を確信をもって推定する」といった意味合いで用いられる接続詞であり、より日常的な語句で言い換えれば「まさしく」「たしかに」「思うに」などがそれに当たる。したがって正解はウ。それ以外の選択肢にあるような意味合いは「けだし」には含まれない。なお、漢字では「蓋し」と表記し、漢文ではしばしば見かける語なので、この機会に覚えておくとうい。

乙 「にわか」とは、急に降ってくる雨のことを「にわか雨」ということなどからもわかるとおり、「物事の変化が急に起こること」という意味で、これに形容動詞の語尾の活用形「に」が付いたのが「にわか」である。同様の意味をもつ語としては「突然」「急に」「即座に」「すぐに」「だしぬけに」などが挙げられる。したがって正解はウ。それ以外の選択肢にあるような意味合いは「にわか」には含まれない。

III 礼儀作法の政治的な規定力(第6・7段落)

このように、礼儀作法と生活慣習には明確な違いが認められる。ここから「都市の空間」について考えるならば、そこは「さまざまな異質の生活慣習が遭遇」することによって、「惰性的な行動」と化していたそれぞれの慣習を意識して見直し「賦活する(＝活発にする)」きっかけとなる場所だととらえることができる。都市に流れ込んだ生活慣習の多くが「他の慣習に吸収されて消失する」なかで、「いくつもの慣習はそれ知らない人びとによって学習され、その過程で学ぶべき価値として意識化される」にいたる。もちろん、そうした学習の過程で「誤解や過剰適合」が起り、生活慣習が「変形する」ことはありうる。だが、裏返せばそれが「新しいアルスの創造」でもある。こうして慣習がつぎつぎに創作されてゆくことを通じて、やがて「規範化された礼儀作法」が成立するというのである。(第6段落)

すると、礼儀作法と生活慣習の違いが新たに見えてくる。それは、礼儀作法は生活慣習よりも「広い地域に拡散する」ことが可能だ」ということである。先にみたとおり、「都市の礼儀作法」は「成立の過程で切磋琢磨(＝互いの欠点を直しあって向上をはかること)を受け」、洗練されたものとなっている。そうして、都市の礼儀作法は「異質者を教化」する機能を備え、「異質者によって学ばれ」る文化となってきたのである。こうした過程をふんだ文化であれば、異質な生活慣習を備えているであろう「都市外の住民」を教化するなどしながら、広い地域に波及していくことは十分にありうることである。

以上のことから、筆者は「文化には普及力の異なる二つの明瞭な層がある」という見解を導き出す。「二つの層」とはもちろん、「都市の礼儀作法」の層と「共同体の生活慣習」の層のことである。この考え方に従えば「文化には否みがたい強弱、優劣の区別がある」ことになるが、これは「通俗化された文化相対主義(＝あらゆる文化は互いに対等であり、優劣をつけることはできないとする考えかた)」とは相容れないとらえかたである。だが、「少なくとも(社交という面をもつ)政治との関連において、共同体の慣習としての文化はまったく無力である」のとは対照的に、「都市で意識化された文化」は

「権力に匹敵する統合力」を備えているというのである。(以上、最終段落)

〔本文読解のポイント〕

本文読解にあたっては、部分的によくわからない箇所があっても、そこで理解をあきらめず、本文の全体に目を配り、わかりやすいところを手がかりに内容を読み解いていくことが求められる。今回の文章は前半がややわかりにくかったかもしれないが、最後まで読めば、次のような対比の関係がつかめるだろう。

共同体の生活慣習

- ・ 同質な集団のなかで共有される
- ・ より無意識に習得される
- ・ 価値の観念とは無縁(上手下手などを問われない)
- ・ 親密で日常的な人間関係のなかでの、惰性化した行動の型
- ・ 「政治」的な観点からすれば無力である

⇔

都市の礼儀作法

- ・ 異質な人びとのあいだで分け持たれる
- ・ 意識的な学習に始まる
- ・ 他人によって価値評価を下される
- ・ 見る人、見られる人の緊張関係を前提とした行動
- ・ より強い普及力を持ち、異質な者を教化する
- ・ 「社交」としての「政治」と結びつく

に似た面があり、「職業的なホスト（客をもてなす者）」のような才能が必要である。政治家仲間のあいだでの「社交家」としてはもちろん、民衆に礼儀作法に従った行動の手法を見せる者としての「役者」、民衆が登場する祭りの「演出家」、さらには都市をつくる「装置家」といった具合に、さまざまな役割を演じながら、政治家は「人びとのつながり」をつくりだしていかなければならない存在だというわけである。（以上、第1段落）

このように政治が社交の一面をもつことは、「政治の目的をひと言で表すことは不可能」だということと関係がある。これまでも「政治の理想はさまざまに語られてきた」が、時代や場所、置かれた立場や関係といったさまざまな「歴史的條件」を考え合わせると、そうした理想はすべて「相対的でしかなかった」のである。以上が第2段落の内容だが、これについては【設問解説】の問四で詳しく説明する。

II 礼儀作法と生活慣習の違い（第3―5段落）

さて、ここで筆者は読者に注意を促している。それは、これまで述べてきた「都市の礼儀作法」は「広く家庭や村にもある慣習一般とは違う」ということである。

ただし、両者はまったくの別物だというわけではない。「都市の礼儀作法」は人びとの「つながりをつくるアルス（技法）」であるが（第1段落）、同様に「生活慣習」もまた「集団統合の一つの重要な絆（きずな）」であり、特に「情緒的な次元で人びとの強い紐帯（きずな）と帯（おび）何かと何かとをつなぐもの」となる。さらに「礼儀作法」が「よく機能するためには……半ば慣習化されねばならない」ことなどを考えると、「礼儀作法」と「生活慣習」とがまったく違うものなのかは、「微妙」な問題だということになる（これについては【設問解説】の問五で詳しく説明する）。

しかし、やはり両者には「明らかな違い」があり、それは、「生活慣習が同質の集団のなかでのみ共有される」のに対し、「礼儀作法は本来は異質な人びとのあいだで分け持たれる」点だというのである。（以上、第3段落）

こうした両者の違いについては、「生活慣習の習得がより無意識に行われる」一方、「礼儀作法の順守は意識的な学習に始まる」とも言えるという。以下ではこの点がより具体的に説明されている。

まず生活慣習についてだが、これは「いったん身につけばほとんど生理的な機能」とも言えるほど自然な振る舞いとなる。また、老化のような肉体的変化がなければ「おおむね衰退するということはない」。さらに、「価値の観念とも無縁」であり、「上手下手が問われること」もない。こうした生活慣習の特徴を説明するために、筆者は「二足歩行の慣習」の例をあげている。

だが、ここに「礼儀作法の観点が導入され」と事情が変わってくる。というのも、礼儀作法においては「儀式的に美しく歩くという課題」が生じてくるからである。歩き方の場合にかぎらず、一つひとつの立ち居振る舞いについて、それが「美しい」とみなされるものとなるためには、「入念に学習し、日々に繰り返し練習」する必要があるのである。（以上、第4段落）

礼儀作法にまつわるこうした努力は、「言葉やしぐさの能力」「化粧や衣装の工夫」「祭りの行列の足どりや身振り」といったさまざまな次元で求められ、その上手下手について他人が「価値評価を下」す。つまり、礼儀作法にまつわるこれらの行動は、「社会のなかに自己関係が成立し、見る人と見られる人の緊張関係が存在すること」を前提としたものとなっているのである。

もちろん、「自己関係」は礼儀作法に特有というわけではない。「原初的な自己関係」であれば、生活慣習が営まれる家族や村といった場所にもある。だが、そこで人間関係は「あまりにも親密で日常的」であるため、他人に見られているという緊張感を保つのが難しく、その結果、そこでの行動は「情性的な反復に陥り」がちとなる。こうしたことからわかるように、生活慣習とは、「情性化された行動の型」であり、「無意識化され、形骸化されたアルスの集積」であって、礼儀作法とは対照的なものだと言えるのである。（以上、第5段落）

【国語】

日 現代文

【解答】

問一 a 勘定 b 培 c 遭遇 d 通俗 e 匹敵

問二 甲 ウ 乙 ウ

問三 x 手 y 足

問四 政治は社交と同様、人間集団を秩序化する技法だが、その秩序の観念は多義的であるため、そこで一つの絶対的な理想を掲げることは現実的ではないから。(70字)

問五 ア

問六 政治が社交としての一面を持ち、他人の目を意識した礼儀作法を通じて異質な人間を教化し支配するものであるのに対し、共同体の慣習は親密で日常的な人間関係のなかでの無意識な行動の型だから。(90字)

問七 オ・カ(順不同)

【配点】(60点)

問一 2点×5 問二 3点×2 問三 4点(完答)

問四 12点 問五 6点 問六 12点 問七 5点×2

【出典】

山崎正和『社交する人間』(中央公論新社、二〇〇三年四月刊、のち中公文庫)の一節。出題の都合上、途中に省略した箇所がある。

山崎正和(やまざき・まさかず)は、一九三四年京都府生まれの評論家、劇作家。大阪大学名誉教授。戯曲の代表作には『世阿弥』『実朝出帆』など、評論分野での主な著作には『劇的な日本人』『鵜飼 閑う家長』『不機嫌の時代』『混沌からの表現』『演技する精神』『柔らかな個人主義の誕生』『近代の擁護』『装飾とデザイン』『世界文明史の試み』などがある。

【本文解説】

本文は、政治に社交という一面があることを指摘しつつ、都市を異質な人びとが行き交う社交の場としてとらえ、そこを規定する礼儀作法の特質を、共同体における生活慣習のありようと比較しながら論じた文章である。本文は七つの形式段落から成っているが、以下では全体を大きく三つに区切って、その内容を順に確認していくことにする。

I 社交としての政治(第1・2段落)

筆者によれば、「礼儀作法が人びとの行動を支配している」という意味で、都市はまさに一つの巨大な社交場だと見なすことができる」という。都市にはさまざまな背景をもった人びとが行き交っているが、そこで人びとは何らかの「礼儀作法」——たとえばその都市で常識とされている挨拶のしかたや、これこれの言動は失礼だからすべきでないとかされている約束事などを念頭に置けばわかりやすいだろう——を共有し、それに従って行動している。この意味で、都市とは一種の「社交」の場であると言える。礼儀作法を通じて形成される秩序の及ぶ範囲は、いわば「社交界」とも呼べるようなものだという。「社交界」とは、礼儀作法をはじめとした「共通の演技」ができるよう訓練され、機会に応じて社交場にやってきて適切に行動できる人びとの世界、もしくはそうした人びとのつながりのことである。

こうした「つながり」をつくるアルス(＝技法)という一面は「政治」にも備わっており、その意味で「政治とは社交の別の名」だと言える。じつさい、政治家には「サロン(＝上流階級の人びとによる社交の場)の女主人」

受験直後の復習が大きな差を生む!!

自己採点シート

全統高1 記述模試

クラス	番号	氏名

自己採点シートの使い方

①まずは自己採点

「学習の手引き」の【解答】にしたがって自己採点してみましょう。
なお、論述問題(配点が大きい問題)については【設問解説】を読んでおおよその点数を予想してみましょう。

②設問ごとにチェック

満点に対してどれだけ得点できたか、得点率を計算し、設問ごとに比較してみましょう。得点率が最も低い設問には、「特に克服・補強すべき分野」として、☆に色を塗りましょう。

③何ができていなかったのかを確認しよう

②でチェックした設問を中心に何ができていなかったのかを確認し、具体的に何をどの程度のペースで学習していくのか、「今後の課題と学習プラン」を記入してみましょう。

④成績返却時には統計集を確認しよう

個人成績表と同時に返却されるANTENNA(成績統計資料)には、見直しシートが付いています。
自分の結果を全国(校内)結果と比較し、ANTENNA(成績統計資料)に載っている学習対策を使って復習するとともに、今後に向けて具体的な目標得点をたててみましょう。

総合計

教科・科目	設問ごとの得点						合計	今後の課題と学習プラン
	1 リスニング	2 会話	3 文法・語法	4 長文読解問題	5 長文読解問題	6 英作文		
英語	数学Ⅰ 図形と計量 / 2次関数 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	40 / 40 (得点率) % ☆	/200	(例) 基本的な文法・語法の知識を整理する。
	現代文Ⅰ 評論 / 2次関数 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	40 / 40 (得点率) % ☆		
数学	数学Ⅰ 図形と計量 / 2次関数 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	40 / 40 (得点率) % ☆	/200	(例) 不得意分野、不安な分野を集中的に学習する。
	現代文Ⅰ 評論 / 2次関数 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	40 / 40 (得点率) % ☆		
国語	現代文Ⅰ 評論 / 2次関数 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	40 / 40 (得点率) % ☆	/200	(例) 思ったより漢字が重なったので、ドリルで練習する。
	現代文Ⅰ 評論 / 2次関数 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	20 / 20 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	60 / 60 (得点率) % ☆	40 / 40 (得点率) % ☆		

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

